

JP1 Version 10

JP1/Data Highway - Automatic Job Executor

操作書

3021-3-144-20

JP1 *Version*
10

前書き

■ 対象製品

適用 OS のバージョン, JP1/Data Highway - Automatic Job Executor が前提とするサービスパックやパッチなどの詳細については, リリースノートを確認してください。

R-1523P-2AA4 JP1/Data Highway - Automatic Job Executor 10-50 (適用 OS : Windows Server 2008, Windows Server 2012)

R-1S23P-2A81 JP1/Data Highway - Automatic Job Executor 10-50 (適用 OS : Red Hat Enterprise Linux)

JP1/Data Highway - Automatic Job Executor は, 次を示すコンポーネントで構成されています。

JP1/Data Highway - Automatic Job Executor (Job Definition) (適用 OS : Windows XP, Windows Vista, Windows Server 2008, Windows 7, Windows 8, Windows 8.1, Windows Server 2012)

JP1/Data Highway - Automatic Job Executor (Job Execution) (適用 OS : Windows Server 2008, Windows Server 2012, Red Hat Enterprise Linux)

■ 輸出時の注意

本製品を輸出される場合には, 外国為替及び外国貿易法の規制並びに米国輸出管理規則など外国の輸出関連法規をご確認の上, 必要な手続きをお取りください。

なお, 不明な場合は, 弊社担当営業にお問い合わせください。

■ 商標類

Linux は, Linus Torvalds 氏の日本およびその他の国における登録商標または商標です。

Microsoft は, 米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標または商標です。

Oracle と Java は, Oracle Corporation 及びその子会社, 関連会社の米国及びその他の国における登録商標です。

Red Hat は, 米国およびその他の国で Red Hat, Inc. の登録商標もしくは商標です。

Windows は, 米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標または商標です。

Windows Server は, 米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標または商標です。

Windows Vista は, 米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標または商標です。

その他記載の会社名, 製品名は, それぞれの会社の商標もしくは登録商標です。

■ マイクロソフト製品の表記について

このマニュアルでは、マイクロソフト製品の名称を次のように表記しています。

表記		製品名
Windows	Windows Server 2008	Microsoft(R) Windows Server(R) 2008 Enterprise
		Microsoft(R) Windows Server(R) 2008 Enterprise 32-bit
		Microsoft(R) Windows Server(R) 2008 R2 Enterprise
		Microsoft(R) Windows Server(R) 2008 Standard
		Microsoft(R) Windows Server(R) 2008 Standard 32-bit
		Microsoft(R) Windows Server(R) 2008 R2 Standard
	Windows Server 2012	Microsoft(R) Windows Server(R) 2012 Standard
		Microsoft(R) Windows Server(R) 2012 R2 Standard
		Microsoft(R) Windows Server(R) 2012 Datacenter
		Microsoft(R) Windows Server(R) 2012 R2 Datacenter
		Microsoft(R) Windows Server(R) 2012 Foundation
		Microsoft(R) Windows Server(R) 2012 R2 Foundation
		Microsoft(R) Windows Server(R) 2012 Essentials
		Microsoft(R) Windows Server(R) 2012 R2 Essentials
	Windows 7	Microsoft(R) Windows(R) 7 Enterprise
		Microsoft(R) Windows(R) 7 Enterprise 64-bit edition
		Microsoft(R) Windows(R) 7 Professional
		Microsoft(R) Windows(R) 7 Professional 64-bit edition
		Microsoft(R) Windows(R) 7 Ultimate
		Microsoft(R) Windows(R) 7 Ultimate 64-bit edition
	Windows 8	Windows(R) 8

表記		製品名
Windows	Windows 8	Windows(R) 8 Pro
		Windows(R) 8 Enterprise
	Windows 8.1	Windows(R) 8.1
		Windows(R) 8.1 Pro
		Windows(R) 8.1 Enterprise
	Windows Vista	Microsoft(R) Windows Vista(R) Business
		Microsoft(R) Windows Vista(R) Business 64-bit edition
		Microsoft(R) Windows Vista(R) Enterprise
		Microsoft(R) Windows Vista(R) Enterprise 64-bit edition
		Microsoft(R) Windows Vista(R) Ultimate
		Microsoft(R) Windows Vista(R) Ultimate 64-bit edition
	Windows XP	Microsoft(R) Windows(R) XP Professional Operating System

Windows 7, Windows 8, Windows 8.1, Windows Server 2008, Windows Server 2012, Windows Vista, および Windows XP Professional を総称して Windows と表記することがあります。

■ 発行

2014 年 10 月 3021-3-144-20

■ 著作権

All Rights Reserved. Copyright (C) 2012, 2014, Hitachi, Ltd.

All Rights Reserved. Copyright (C) 2012, 2014, Hitachi Solutions, Ltd.

変更内容

変更内容(3021-3-144-20) JP1/Data Highway - Automatic Job Executor 10-50

追加・変更内容	変更箇所
保管期限が切れている配送の受信についてを追加しました。	4.3.3
ジョブ実行プログラムのメッセージ KDJH9390-I を追加しました。	5.7
データ送受信コマンドのファイル送信の宛先の上限数を「10」から「JP1/DH-Server 側で設定された上限数」に変更しました。	7.3.2(1)
データ送受信コマンドのファイル送信に宛先を CSV 形式ファイルで指定する、-destinationfile オプションを追加しました。	7.3.2(1)
データ送受信コマンドのファイル受信に特定の配送だけを受信する、-deliveryid オプションを追加しました。	7.3.2(2)
データ送受信コマンドのメッセージを追加しました。	7.4.2
コマンドラインインターフェースからファイル転送を制御する、データ送受信管理コマンドを追加しました。	8 章
各バージョンの変更内容を付録に移動しました。	付録 B

単なる誤字・脱字などはお断りなく訂正しました。

はじめに

このマニュアルは、JP1/Data Highway - Automatic Job Executor（以下 JP1/DH - AJE と略します）の使い方について説明したものです。

■ 対象読者

JP1/DH - AJE をお使いになるシステム管理者を対象としています。

このマニュアルの記述は、次の事項を前提にしています。

- Windows の基本操作を習得している。
- Linux の基本知識を取得している。
- コンピュータの管理者として必要な知識がある。
- ネットワーク管理者として必要な知識がある。
- セキュリティ管理者として必要な知識がある。
- JP1/AJS3 および JP1/Base の構築および運用をする上で必要な知識がある。
- JP1/DH - Server の運用をする上で必要な知識がある。

■ マニュアルの構成

このマニュアルは、次に示す章と付録から構成されています。

第 1 章 JP1/DH - AJE の概要

JP1/DH - AJE の特徴、機能、前提条件について説明しています。

第 2 章 JP1/DH - AJE の導入

JP1/DH - AJE の導入前の準備について説明しています。

第 3 章 JP1/DH - AJE のインストールとセットアップ

インストール、環境設定等について説明しています。

第 4 章 操作説明

JP1/DH - AJE の操作について説明しています。

第 5 章 メッセージ

JP1/DH - AJE が出力するメッセージについて説明しています。

第 6 章 トラブルシュート

JP1/DH - AJE の運用中にトラブルが発生した場合の対処方法について説明しています。

第7章 データ送受信コマンド

データ送受信コマンドの概要について説明しています。

第8章 データ送受信管理コマンド

データ送受信管理コマンドの概要について説明しています。

付録A ファイルおよびフォルダー一覧

JP1/DH - AJE のファイルおよびフォルダの一覧について説明しています。

付録B 各バージョンの変更内容

各バージョンの変更内容について説明しています。

付録C このマニュアルの参考情報

このマニュアルの関連マニュアルや表記について説明しています。

付録D 用語解説

このマニュアルで使用されている用語について説明しています。

■ 読書手順

このマニュアルは、利用目的に合わせて章を選択して読むことができます。利用目的別にお読みいただくことをお勧めします。

マニュアルを読む目的	記述箇所
JP1/DH - AJE の大まかな特徴、機能、前提機能が知りたい。	1 章
JP1/DH - AJE の前提となる製品、および JP1/DH - AJE を導入するシステムの構成が知りたい。	2 章
JP1/DH - AJE をインストールおよびセットアップする方法が知りたい。	3 章
JP1/DH - AJE の操作方法が知りたい。	4 章
JP1/DH - AJE の運用中に出力されたメッセージの意味と対処方法が知りたい。	5 章
JP1/DH - AJE の運用中に発生したトラブルの対処方法が知りたい。	6 章
JP1/DH - AJE のデータ送受信コマンドの操作について知りたい。	7 章
JP1/DH - AJE のデータ送受信管理コマンドの操作について知りたい。	8 章
JP1/DH - AJE のファイルおよびフォルダー一覧、各バージョンの変更内容、参考情報、用語解説について知りたい。	付録

■ JP1/DH - Server の表記について

このマニュアルで、JP1/DH - Server と JP1/DH - Server Starter Edition を区別する場合は、その旨説明しています。

特に断り書きがない場合、JP1/DH - Server の表記には、JP1/DH - Server Starter Edition も含まれます。

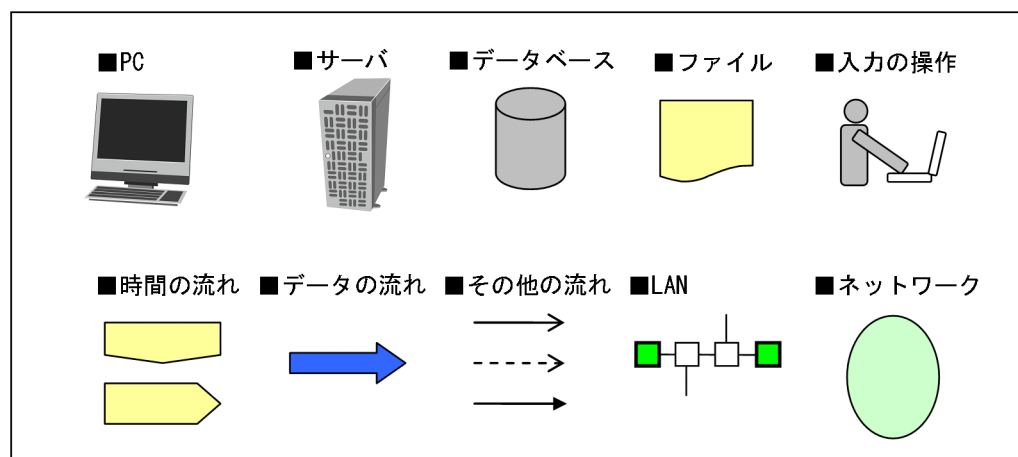
■ Windows の操作説明で使用する表記

Windows の操作説明で使用する表記を次に示します。

記号	意味
[]	ボタンやテキストボックスなど、画面に表示されている要素を示します。
[] - []	画面に表示されるメニューやアイコンなどを選択する操作を示します。

■ 図中で使用する記号

このマニュアルでは、図中で使用する記号を次のように定義しています。



■ 注意事項表記について

表記	意味
注意	製品を正常に機能し続けさせるために、または、セキュリティ侵害を受けないようにするためにシステム管理者やエンドユーザが製品導入時、また導入後、実施すべき事項や注意すべき事項
補足説明	特に強調したい内容、本文の理解を助けるような情報
参考	エラー時の対処、製品を利用する上で便利な情報
制限事項	製品機能上の制限

目次

前書き	2
変更内容	5
はじめに	6

1 JP1/DH - AJE の概要 13

1.1	JP1/DH - AJE とは	14
1.2	JP1/DH - AJE の構成	15

2 JP1/DH - AJE の導入 16

2.1	導入前の準備	17
2.1.1	システム構成	17
2.1.2	リソース見積もり	20

3 JP1/DH - AJE のインストールとセットアップ 23

3.1	インストールとセットアップの流れ	24
3.2	JP1/DH - AJE のインストール	26
3.2.1	インストール時の注意事項	26
3.2.2	新規インストールの手順	28
3.2.3	上書きインストールの手順	29
3.3	JP1/DH - AJE の環境設定	31
3.3.1	JP1/DH - AJE (ジョブ定義プログラム) の設定を変更する	31
3.3.2	JP1/DH - AJE (ジョブ実行プログラム) の設定を変更する	33
3.4	DH カスタムジョブの登録	40
3.5	JP1/DH - Server 側の設定	43
3.5.1	ログインユーザ ID の登録	43
3.5.2	配送ポリシーの圧縮方式の設定に関して	43
3.6	サーバ証明書の登録	44
3.7	障害対策に関する検討	47
3.7.1	情報収集ツールのセットアップ	47
3.7.2	バックアップの実施	47
3.8	JP1/DH - AJE のアンインストール	49
3.8.1	JP1/DH - AJE のアンインストール	49

4 操作説明 52

4.1	DH カスタムジョブの種類	53
-----	---------------	----

4.1.1	送信カスタムジョブ	53
4.1.2	受信カスタムジョブ	53
4.2	DH カスタムジョブの定義手順	55
4.2.1	DH カスタムジョブ定義の手順	55
4.2.2	[転送設定 (送信)] 画面	60
4.2.3	[転送設定 (受信)] 画面	63
4.2.4	[基本設定] 画面	65
4.3	DH カスタムジョブの実行	68
4.3.1	複数の DH カスタムジョブの同時実行について	68
4.3.2	再開機能について	69
4.3.3	保管期限が切れている配送の受信について	70
4.4	DH カスタムジョブ実行結果の確認	71
4.4.1	DH カスタムジョブの実行状況の確認方法	71
4.4.2	DH カスタムジョブ実行結果の確認方法	71
4.5	DH カスタムジョブ実行時の注意事項	76
4.5.1	DH カスタムジョブを強制終了した場合	76
4.5.2	実行結果が異常または警告だった場合の対処	77
4.5.3	ログファイルの参照に関する注意事項	77
5	メッセージ	78
5.1	メッセージの分類	79
5.2	メッセージの出力形式	80
5.2.1	メッセージの出力形式	80
5.3	メッセージ記載形式	82
5.4	メッセージの出力先	83
5.5	JP1/DH - AJE の共通メッセージ	87
5.6	JP1/DH - AJE (ジョブ定義プログラム) のメッセージ	90
5.7	JP1/DH - AJE (ジョブ実行プログラム) のメッセージ	101
5.8	インストーラのメッセージ	113
6	トラブルシューティング	116
6.1	対処の手順	117
6.2	ログの種類とログ情報の格納先	118
6.2.1	ログの種類	118
6.3	トラブルが解決しない場合に採取する資料	120
6.3.1	JP1/DH - AJE (ジョブ定義プログラム) の情報収集手順	120
6.3.2	JP1/DH - AJE (ジョブ実行プログラム) の情報収集手順	120
6.4	リストア	128
6.4.1	JP1/DH - AJE (ジョブ定義プログラム) のリストア	128

6.4.2	JP1/DH - AJE (ジョブ実行プログラム) のリストア	128
6.5	トラブル別の対処方法	129
6.5.1	JP1/DH - AJE (ジョブ定義プログラム) のトラブル	129
6.5.2	JP1/DH - AJE (ジョブ実行プログラム) のトラブル	131
6.5.3	クラスタシステムでのトラブル	133

7 データ送受信コマンド 134

7.1	データ送受信コマンドの概要	135
7.1.1	データ送受信コマンドとは	135
7.1.2	導入のための前提条件	135
7.2	データ送受信コマンドの導入	137
7.2.1	データ送受信コマンドのインストール	137
7.2.2	データ送受信コマンドの環境設定	137
7.2.3	データ送受信コマンドのアンインストール	138
7.2.4	データ送受信コマンドの環境設定を解除	138
7.3	リファレンス	140
7.3.1	共通仕様	140
7.3.2	データ送受信コマンド一覧	149
7.4	データ送受信コマンドのトラブルシュート	161
7.4.1	データ送受信コマンドの FAQ	161
7.4.2	データ送受信コマンドのメッセージ	161

8 データ送受信管理コマンド 175

8.1	データ送受信管理コマンドの概要	176
8.1.1	データ送受信管理コマンドとは	176
8.1.2	導入のための前提条件	176
8.2	データ送受信管理コマンドの導入	177
8.2.1	データ送受信管理コマンドのインストール	177
8.2.2	データ送受信管理コマンドの環境設定	177
8.2.3	データ送受信管理コマンドのアンインストール	177
8.2.4	データ送受信管理コマンドの環境設定を解除	177
8.3	リファレンス	178
8.3.1	共通仕様	178
8.3.2	データ送受信管理コマンド一覧	179
8.4	データ送受信管理コマンドのトラブルシュート	189
8.4.1	データ送受信管理コマンドの FAQ	189
8.4.2	データ送受信管理コマンドのメッセージ	189

付録 191

付録 A	ファイルおよびフォルダー一覧	192
------	----------------	-----

付録 A.1	JP1/DH - AJE (ジョブ定義プログラム) のファイルおよびフォルダー一覧	192
付録 A.2	Windows 版 JP1/DH - AJE (ジョブ実行プログラム) のファイルおよびフォルダー一覧	193
付録 A.3	Linux 版 JP1/DH - AJE (ジョブ実行プログラム) のファイルおよびフォルダー一覧	194
付録 B	各バージョンの変更内容	197
付録 B.1	10-10 の変更内容	197
付録 C	このマニュアルの参考情報	198
付録 C.1	関連マニュアル	198
付録 C.2	このマニュアルでの表記	199
付録 C.3	英略語	199
付録 C.4	このマニュアルで使用する「Administrators 権限」について	200
付録 C.5	KB (キロバイト) などの単位表記について	200
付録 D	用語解説	201

索引 | 204

1

JP1/DH - AJE の概要

この章では、製品の概要を説明します。

1.1 JP1/DH - AJE とは

JP1/DH - AJE は、JP1/DH - Server とのデータ送受信を自動化する製品です。

JP1/AJS3 のカスタムジョブとして提供されるので、JP1/AJS3 - View でデータ送受信のジョブを定義できます。

これにより一連の業務の中にデータ送受信を組込むことができ、スケジューラによる自動実行もできるので、業務の効率化につながります。

なお、JP1/DH - AJE が提供するデータ送受信のカスタムジョブを「DH カスタムジョブ」と呼びます。

1.2 JP1/DH - AJE の構成

JP1/DH - AJE は、次の 3 つのプログラムから構成されています。

- ジョブ定義プログラム
- ジョブ実行プログラム
- データ送受信コマンド

ジョブ定義プログラムは、JP1/DH - Server に対し、ファイルおよびフォルダを送信または受信する DH カスタムジョブを、JP1/AJS3 - View 画面を使って定義、登録および変更するプログラムです。

ジョブ実行プログラムは、ジョブ定義プログラムによって定義された DH カスタムジョブが実行された場合に、DH カスタムジョブの内容に従い、JP1/DH - Server に対し、ファイルおよびフォルダを送信または受信するプログラムです。

データ送受信コマンドは、JP1/DH - Server のファイル転送機能をコマンドラインインターフェースから利用する方式を提供します。これにより、データ送受信コマンドを使って、JP1/DH - Server と他システムとを連携し、ファイル転送をすることができます。また、ファイル転送を管理するため管理系のコマンドをデータ送受信管理コマンドとして提供します。データ送受信コマンドの操作については、「[7. データ送受信コマンド](#)」を参照してください。データ送受信管理コマンドの操作については、「[8. データ送受信管理コマンド](#)」を参照してください。

2

JP1/DH - AJE の導入

この章では、JP1/DH - AJE の導入手順を説明します。

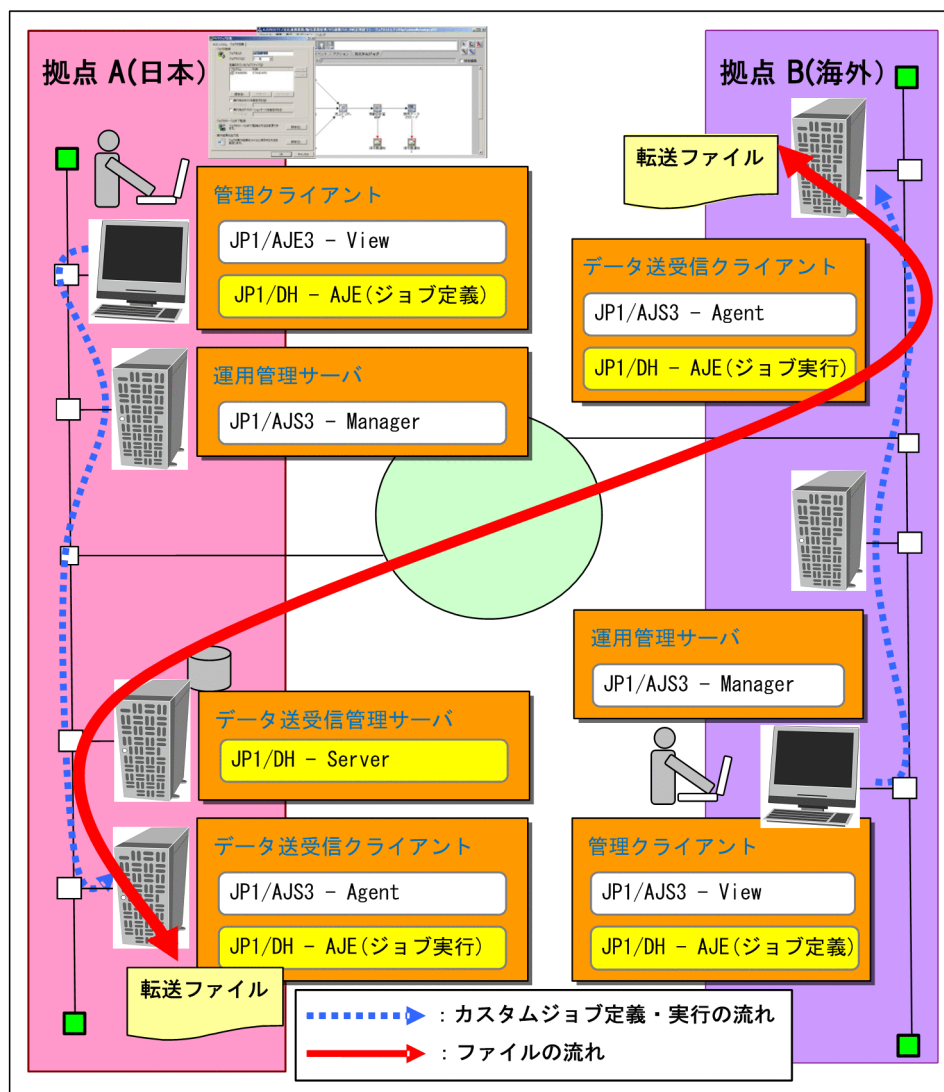
2.1 導入前の準備

JP1/DH - AJE の導入に必要な準備の内容を次に説明します。

2.1.1 システム構成

JP1/DH - AJE システムの基本的なシステム構成例を次に説明します。次の図は、JP1/DH - Server を用いた構成を示しています。

図 2-1 JP1/DH - Server を用いたシステム構成



図で示した各ホストの役割と必要なプログラムについて次に説明します。

(1) 管理クライアント

管理クライアントは、DH カスタムジョブの定義、変更、および DH カスタムジョブの実行結果の確認をするホストです。管理クライアントには、JP1/DH - AJE（ジョブ定義プログラム）をインストールします。管理クライアントを複数作成する場合には、すべての管理クライアントに対して、JP1/DH - AJE（ジョブ定義プログラム）をインストールします。

なお、システム内に作成できる管理クライアントの数は、JP1/AJS3 - Manager に接続できる JP1/AJS3 - View の数と同じです。JP1/AJS3 - Manager に接続できる JP1/AJS3 - View の数については、マニュアル「JP1/Automatic Job Management System 3 設計ガイド（システム構築編）」を参照してください。

管理クライアントに必要な OS とプログラムを次の表に示します。

表 2-1 管理クライアントに必要な OS とプログラム

項目	ソフトウェア
OS	<ul style="list-style-type: none">• Windows XP• Windows Vista• Windows 7• Windows 8• Windows 8.1• Windows Server 2008• Windows Server 2008 R2• Windows Server 2012• Windows Server 2012 R2
プログラム	<ul style="list-style-type: none">• JP1/AJS3 - View 09-00 以降• JP1/DH - AJE 10-50（ジョブ定義プログラム）

(2) 運用管理サーバ

運用管理サーバは、管理クライアントで定義したカスタムジョブの定義情報の管理、またはカスタムジョブの実行要求をデータ送受信クライアントに送信するホストです。

運用管理サーバに必要な OS とプログラムを次の表に示します。

表 2-2 運用管理サーバに必要な OS とプログラム

項目	ソフトウェア
OS	<ul style="list-style-type: none">• JP1/AJS3 - Manager が前提とする OS
プログラム	<ul style="list-style-type: none">• JP1/AJS3 - Manager 09-00 以降

(3) データ送受信クライアント

データ送受信クライアントは、運用管理サーバからのカスタムジョブの実行要求を受けて、JP1/DH - Server へのファイルの送受信を実行するホストです。データ送受信クライアントには、JP1/DH - AJE（ジョブ実行プログラム）をインストールします。データ送受信クライアントを複数作成する場合、すべてのデータ送受信クライアントに対して JP1/DH - AJE（ジョブ実行プログラム）をインストールします。

なお、システム内に作成できるデータ送受信クライアントの数は、JP1/AJS3 - Manager に接続できる JP1/AJS3 - Agent の数と同じです。JP1/AJS3 - Manager に接続できる JP1/AJS - Agent の数については、マニュアル「JP1/Automatic Job Management System 3 設計ガイド（システム構築編）」を参照してください。

データ送受信クライアントに必要な OS とプログラムを次の表に示します。

表 2-3 データ送受信クライアントに必要な OS とプログラム

項目	ソフトウェア
OS	<ul style="list-style-type: none">• Windows Server 2008• Windows Server 2008 R2• Windows Server 2012• Windows Server 2012 R2• Red Hat Enterprise Linux 5• Red Hat Enterprise Linux 6
プログラム	<ul style="list-style-type: none">• JP1/AJS3 - Manager 09-00 以降 または <ul style="list-style-type: none">• JP1/AJS3 - Agent 09-00 以降• JP1/DH - AJE 10-50（ジョブ実行プログラム）

(a) Linux の文字コードについて

Linux で使用できる文字コード種別は、JP1/AJS3 に従います。マニュアル「JP1/Automatic Job Management System 3 構築ガイド 1」を参照してください。

補足説明

- JP1/DH - AJE は JP1/AJS3 のシステム上で動作する製品のため、JP1/DH - AJE のクラスタシステムの構成および前提条件は、JP1/AJS3 に従います。JP1/AJS3 システムのクラスタの構成については、マニュアル「JP1/Automatic Job Management System 3 構築ガイド 1」を参照してください。JP1/DH - AJE は、物理ホストだけにインストールします。JP1/DH - AJE のクラスタ運用の動作は JP1/AJS3 のクラスタ運用の動作に従います。

(4) データ送受信管理サーバ

データ送受信管理サーバは、データ送受信クライアントから送信されたファイルを受け取るホストです。また、データ送受信クライアントからの要求を受けて、データ送受信クライアントに向けてデータを送信します。

データ送受信管理サーバに必要な OS とプログラムを次の表に示します。

表 2-4 データ送受信管理サーバに必要な OS とプログラム

項目	ソフトウェア
OS	• JP1/DH - Server が前提とする OS または • JP1/DH - Server Starter Edition が前提とする OS
プログラム	• JP1/DH - Server 10-10 以降 または • JP1/DH - Server Starter Edition 10-50

2.1.2 リソース見積もり

JP1/DH - AJE のメモリ所要量とディスク占有量を次に示します。

(1) メモリ所要量

JP1/DH - AJE のメモリ所要量を次の表に示します。

表 2-5 JP1/DH - AJE のメモリ所要量

プログラム	メモリ所要量
ジョブ定義プログラム	固定値：50[MB] 上記は、1 つの DH カスタムジョブを定義した場合の値です。複数の JP1/AJS3 - View を起動し DH カスタムジョブを同時に定義する場合は、固定値×同時に定義する DH カスタムジョブ数で演算してください。
ジョブ実行プログラム	固定値：21[MB] 上記は、1 つの DH カスタムジョブを実行した場合の値です。複数の DH カスタムジョブを同時に実行する場合、固定値×同時に実行する DH カスタムジョブ数で演算してください。

(2) ディスク占有量

JP1/DH - AJE のディスク占有量を次の表に示します。

表 2-6 JP1/DH - AJE のディスク占有量

プログラム	ディスク占有量
ジョブ定義プログラム	固定値：175[MB] 変動値：17[MB]

プログラム	ディスク占有量
ジョブ定義プログラム	<p>(環境設定ファイルのデフォルト値を使用し、同時に定義するカスタムジョブ数が 1 の場合)</p> <p>変動値の計算式は、次のとおりです。</p> $(a \times b) + c [\text{MB}]$ <p>a : 稼働ログファイルサイズ</p> <p>b : 稼働ログ面数</p> <p>c : カスタムジョブ定義ファイルサイズ</p> <p>× 同時に定義するカスタムジョブ数</p>
ジョブ実行プログラム	<p>固定値 : 410[MB]</p> <p>変動値 : 18[MB]</p> <p>(環境設定ファイルのデフォルト値を使用し、同時に実行するカスタムジョブ数が 1 の場合)</p> <p>変動値の計算式は、次のとおりです。</p> $(a \times b) + c [\text{MB}]$ <p>a : 稼働ログファイルサイズ</p> <p>b : 稼働ログ面数</p> <p>c : カスタムジョブ定義ファイルサイズ</p> <p>× 同時に実行するカスタムジョブ数</p> <p>受信するデータサイズ :</p> <p>カスタムジョブで受信を実行する場合、受信するファイル/フォルダの内容を作業用フォルダに一時的に格納します。</p> <p>このため、<ジョブ実行プログラムインストールフォルダ>以下に、受信するファイル/フォルダと同じ大きさの空きディスクが必要となります。</p> <p>同時に実行するカスタムジョブが複数ある場合、すべてのカスタムジョブで受信するファイル/フォルダの大きさの合計値です。</p>

(a) 稼働ログファイルサイズ

稼働ログファイルサイズは、JP1/DH - AJE の環境設定で変更できます。稼働ログには、プログラムの起動・終了やコマンドの実行などのログ、およびメッセージが出力されることを考慮して容量を見積もってください。デフォルト値は 5MB です。

稼働ログの容量を変更する場合は、「[3.3.1\(1\) ジョブ定義プログラム環境設定ファイル](#)」または「[3.3.2\(1\) ジョブ実行プログラム環境設定ファイル](#)」を参照してください。

(b) 稼働ログ面数

稼働ログ面数（バックアップファイルの数）は、JP1/DH - AJE の環境設定で変更できます。稼働ログには、プログラムの起動・終了やコマンドの実行などのログ、およびメッセージが出力されることを考慮して容量を見積もってください。デフォルト値は 3 面です。

稼働ログ面数を変更する場合は、「[3.3.1\(1\) ジョブ定義プログラム環境設定ファイル](#)」または「[3.3.2\(1\) ジョブ実行プログラム環境設定ファイル](#)」を参照してください。

(c) カスタムジョブ定義ファイルサイズ

カスタムジョブ定義ファイルは、JP1/DH - AJE と JP1/AJS3 のインターフェースに使用するファイルです。JP1/DH - AJE の起動時に JP1/AJS3 によって作成され、終了時に削除されるファイルです。サイズは 0.1MB～1MB です。見積もり時は最大値の 1MB で見積もってください。JP1/DH - AJE（ジョブ実行プログラム）で、複数のカスタムジョブを同時に実行する場合は、同時に実行するカスタムジョブ数をかけた値を計算してください。

3

JP1/DH - AJE のインストールとセットアップ

この章では、JP1/DH - AJE のインストールとセットアップの手順を説明します。

3.1 インストールとセットアップの流れ

JP1/DH - AJE（ジョブ実行プログラム）のインストールおよびセットアップの流れを次の表に示します。

表 3-1 JP1/DH - AJE（ジョブ実行プログラム）のインストールとセットアップの流れ

作業	作業するホスト	作業内容	実施	参照先
インストール（ジョブ実行プログラム）	データ送受信クライアント	JP1/DH - AJE（ジョブ実行プログラム）をインストールします。	必須	3.2
JP1/DH - AJE（ジョブ実行プログラム）の環境設定	データ送受信クライアント	JP1/DH - AJE（ジョブ実行プログラム）の稼働ログ、システムが使用するファイルの格納フォルダ、DH カスタムジョブを実行する場合に使用するワークフォルダに関する設定をします。	必須	3.3.2
サーバ証明書の登録	データ送受信クライアント	JP1/DH - AJE（ジョブ実行プログラム）が使用するライブラリに、JP1 - DH/Server のサーバ証明書を登録します。	必須	3.6
障害対策に関する検討	データ送受信クライアント	JP1/DH - AJE（ジョブ実行プログラム）の障害発生に備え、バックアップを取得します。	任意	3.7
JP1/DH - Server 側へのログインユーザ ID 登録	データ送受信管理サーバ	JP1/DH - AJE（ジョブ実行プログラム）の接続先となるデータ送受信管理サーバにログインユーザ ID およびパスワードを設定します。	必須	3.5

JP1/DH - AJE（ジョブ定義プログラム）のインストールおよびセットアップの流れを次の表に示します。

表 3-2 JP1/DH - AJE（ジョブ定義プログラム）のインストールとセットアップの流れ

作業	作業するホスト	作業内容	実施	参照先
インストール（ジョブ定義プログラム）	管理クライアント	JP1/DH - AJE（ジョブ定義プログラム）をインストールします。	必須	3.2

作業	作業するホスト	作業内容	実施	参照先
JP1/DH - AJE（ジョブ定義プログラム）の環境設定	管理クライアント	JP1/DH - AJE（ジョブ定義プログラム）の稼働ログに関する設定をします。	任意	3.3.1
障害対策に関する検討	管理クライアント	JP1/DH - AJE（ジョブ定義プログラム）の障害発生に備え、バックアップを取得します。	任意	3.7
カスタムジョブの登録	管理クライアント	DH カスタムジョブを JP1/AJS3 に登録します。	必須	3.4

3.2 JP1/DH - AJE のインストール

JP1/DH - AJE のインストール方法を次に示します。

3.2.1 インストール時の注意事項

インストール時の注意事項を次に示します。

(1) Windows の場合

- JP1/DH - AJE は、Administrators 権限を持つ OS ユーザでインストールしてください。レジストリキーへの書き込み権限などがない OS ユーザでは、インストールできません。
- Administrators 権限を持たない OS ユーザでインストーラを起動すると、Administrators 権限を持つ管理者へ昇格を求めるダイアログボックス（UAC ダイアログ）が表示されることがあります。Administrators 権限を持つ管理者の OS ユーザ名とパスワードを入力すると昇格し、インストーラを起動できます。
- JP1/DH - AJE（ジョブ実行プログラム）には、データ送受信コマンドを同梱しているため、JP1/DH - AJE（ジョブ実行プログラム）が、前提とする OS 以外にもインストールが可能となっています。JP1/DH - AJE（ジョブ実行プログラム）が前提としない OS 上で、JP1/DH - AJE（ジョブ実行プログラム）を動作させないでください。
- インストール先フォルダとして、次のフォルダを指定しないでください。
 1. ドライブ直下（例：C:¥）
 2. 他製品と同じフォルダ
 3. マルチバイト文字を含むフォルダ

(2) Linux の場合

- JP1/DH - AJE は、スーパーユーザ権限を持つ OS ユーザでインストールしてください。

(3) Windows および Linux 共通の注意事項

- ディスクに十分な空きがあることを確認してから、インストールを実行してください。
- JP1/DH - AJE を、ターミナルサービスを使用してインストールしないでください。インストール後、正しくセットアップできないおそれがあります。
- JP1/DH - AJE は、リモートインストールには対応していません。
- JP1/DH - AJE をインストール後、OS の再起動は不要です。
- 前提プログラムと JP1/DH - AJE のインストールの順序は問いません。JP1/DH - AJE の動作環境設定およびプログラム実行までに前提プログラムのインストールを完了してください。

- JP1/DH - AJE のインストールの途中で、エラー発生等によりインストールが中断した場合は、メッセージダイアログに表示された内容を確認の上、再度インストールを実行してください。
- ネットワークドライブ、ネットワークの共有ディスク、リムーバブルディスクを JP1/DH - AJE のインストール先として指定した場合はインストールに失敗することがあります。JP1/DH - AJE のインストール先には、固定ドライブ下のフォルダを指定してください。
- JP1/DH - AJE の上書きインストールを実行した場合、登録済のサーバ証明書が削除されます。したがって、サーバ証明書の再登録が必要となります。サーバ証明書の再登録を行わない場合、DH カスタムジョブがエラー終了します。「3.6 サーバ証明書の登録」を参照し、必ずサーバ証明書の再登録を実施してください。
- JP1/DH - AJE の上書きインストールを実行した場合、config.xml については、ファイルが存在する限り上書きされません。config.xml をカスタマイズ前に戻したい場合、config.xml と同じフォルダに存在する config.xml.template を、カスタマイズした config.xml に上書きしてください。
- JP1/DH - AJE の上書きインストールにおいて、インストール済みの JP1/DH - AJE のバージョンより古いバージョンを上書きすることはできません。インストール済みの JP1/DH - AJE をアンインストールしてから、古いバージョンの JP1/DH - AJE をインストールしてください。
- JP1/DH - AJE (ジョブ定義プログラム) と JP1/DH - AJE (ジョブ実行プログラム) を同一フォルダにインストールしないでください。
- JP1/DH - AJE をクラスタシステムにインストールする場合、物理ホストごとに、同じバージョンの JP1/AJE をインストールしてください。なお、JP1/DH - AJE を共有ディスク上にインストールしないでください。
- JP1/DH -AJE (ジョブ定義プログラム) のインストーラは、JP1/DH - AJE (ジョブ実行プログラム) のインストーラに含まれています。JP1/DH -AJE (ジョブ定義プログラム) をインストールする場合、事前に JP1/DH - AJE (ジョブ実行プログラム) をインストールしたホストの以下のフォルダから、JP1/DH -AJE (ジョブ定義プログラム) のインストーラを取り出し、JP1/DH -AJE (ジョブ定義プログラム) をインストールまたは上書きインストールするホストに転送してください。

Windows 環境の場合：

<ジョブ実行プログラムのインストールフォルダ>%Definition%setup.exe

Linux 環境の場合：

/opt/jp1dh/aje/ajee/definition/setup.exe

- インストーラを実行すると、統合トレース機能 (HNTRLib2) もインストールされます。HNTRLib2 のインストール先は、次のとおりです。

Windows x86 環境の場合：

システムドライブ%Program Files%Hitachi%HNTRLib2%

Windows x64 環境の場合：

システムドライブ%Program Files(x86)%Hitachi%HNTRLib2%

Linux 環境の場合：

/opt/hitachi/HNTRLib2

HNTRLib2 のインストール先はシステムドライブ固定です。インストール先を変更することはできません。

- ・ インストーラを起動後、インストール画面が出るまで、またはインストールが開始されるまで、時間がかかる事があります。インストーラを起動したあとに、再度インストーラを起動するなど、インストーラを複数起動しないでください。インストールに失敗するおそれがあります。

3.2.2 新規インストールの手順

JP1/DH - AJE を新規インストールする手順を次に示します。

(1) Windows の場合

1. JP1/DH - AJE をインストールするホストに、Administrators 権限を持つ OS ユーザでログインします。
2. JP1/DH - AJE (ジョブ実行プログラム) をインストールする場合

- ・ 日立総合インストーラから、JP1/Data Highway - Automatic Job Executor を選択し、インストーラの指示に従ってインストールを進めます。
- ・ JP1/DH - AJE (ジョブ定義プログラム) のインストーラは、JP1/DH - AJE (ジョブ実行プログラム) のインストーラに含まれています。JP1/DH - AJE (ジョブ実行プログラム) をインストールしたホストの以下のフォルダから、JP1/DH - AJE (ジョブ定義プログラム) のインストーラを取り出し、JP1/DH - AJE (ジョブ定義プログラム) をインストールまたは上書きインストールするホストに転送してください。

(<ジョブ実行プログラムのインストールフォルダ>¥Definition¥setup.exe)

また、JP1/DH - AJE (ジョブ定義プログラム) のインストーラは、JP1/DH - AJE (ジョブ定義プログラム) の上書きインストールでも必要になるため、バックアップを取得してください。

3. JP1/DH - AJE (ジョブ定義プログラム) をインストールする場合

事前に JP1/DH - AJE (ジョブ実行プログラム) のインストーラから取り出して転送しておいた setup.exe を起動します。インストーラの指示に従ってインストールを進めます。

(2) Linux の場合

1. JP1/DH - AJE (ジョブ実行プログラム) をインストールするホストに、スーパーユーザ権限を持つ OS ユーザでログインします。
2. Hitachi PP Installer から、JP1/Data Highway - AJE を選択し、インストーラの指示に従ってインストールを進めます。
- ・ JP1/DH - AJE (ジョブ定義プログラム) のインストーラは、JP1/DH - AJE (ジョブ実行プログラム) のインストーラに含まれています。JP1/DH - AJE (ジョブ実行プログラム) をインストールしたホストの以下のフォルダから、JP1/DH - AJE (ジョブ定義プログラム) のインストーラを取り出し、JP1/DH - AJE (ジョブ定義プログラム) をインストールまたは上書きインストールするホストにバイナリモードで転送してください。

(/opt/jp1dh/aje/ajee/definition/setup.exe)

また、JP1/DH - AJE（ジョブ定義プログラム）のインストーラは、JP1/DH - AJE（ジョブ定義プログラム）の上書きインストールでも必要になるため、バックアップを取得してください。

インストール後に作成されるフォルダについては、「付録 A ファイルおよびフォルダー一覧」を参照してください。

3.2.3 上書きインストールの手順

JP1/DH - AJE を上書きインストールする手順を次に示します。

上書きインストールは、すでに JP1/DH - AJE がインストールされている環境の状態を修復する、または、バージョンアップのために、JP1/DH - AJE を、再度インストールする方法です。

(1) Windows の場合

上書きインストールの場合、JP1/DH - AJE を新規インストールしたときに設定した、ユーザ名、会社名、およびインストール先フォルダがそのまま引き継がれるため、再入力は不要です。

1. JP1/DH - AJE を上書きインストールするホストに、Administrators 権限を持つ OS ユーザでログインします。
2. JP1/DH - AJE（ジョブ実行プログラム）を上書きインストールする場合
 - データ送受信クライアント上の JP1/DH - AJE（ジョブ実行プログラム）を終了します。DH カスタムジョブが実行中の場合は終了させます。また、DH カスタムジョブが上書きインストール中に実行されないようにしてください。
 - 日立総合インストーラから、JP1/Data Highway - Automatic Job Executor を選択し、インストーラの指示に従ってインストールを進めます。
3. JP1/DH - AJE（ジョブ定義プログラム）を上書きインストールする場合
 - 管理クライアント上の JP1/DH - AJE（ジョブ定義プログラム）を終了します。DH カスタムジョブ定義画面をすべて閉じてください。
 - 事前に JP1/DH - AJE（ジョブ実行プログラム）のインストーラから取り出して転送しておいた setup.exe を起動します。インストーラの指示に従ってインストールを進めます。

(2) Linux の場合

1. JP1/DH - AJE（ジョブ実行プログラム）を上書きインストールするホストに、スーパーユーザ権限を持つ OS ユーザでログインします。
2. Hitachi PP Installer から、JP1/Data Highway - Automatic Job Executor を選択し、インストーラの指示に従ってインストールを進めます。

注意

- JP1/DH - AJE の上書きインストールを実行した場合、サーバ証明書の再登録が必要になります。操作の詳細は「[3.6 サーバ証明書の登録](#)」を参照してください。

3.3 JP1/DH - AJE の環境設定

JP1/DH - AJE の環境設定手順を説明します。

注意

- この製品に含まれるファイルのうち、環境設定ファイル（config.xml）と情報収集ツール（Windows の場合：dhaje_log.bat, Linux の場合：dhaje_log.sh）、データ送受信コマンド環境設定ファイル（Const.properties）以外のファイルを変更しないでください。

3.3.1 JP1/DH - AJE（ジョブ定義プログラム）の設定を変更する

JP1/DH - AJE（ジョブ定義プログラム）の設定変更方法を次に示します。

JP1/DH - AJE（ジョブ定義プログラム）では、稼働ログファイルの出力にかかわる設定を環境設定ファイル（config.xml）で変更できます。変更できる項目は、「出力フォルダ、出力レベル、ファイルサイズ、世代保持数」です。デフォルト値を用いて JP1/AJE（ジョブ定義プログラム）を実行する場合、config.xml を変更する必要はありません。

注意

- config.xml に設定する値に、誤った値を設定した場合、DH カスタムジョブ定義画面が表示されません。
- config.xml の文字コードは UTF-8 です。他の文字コードで保存しないでください。他の文字コードで保存した場合、DH カスタムジョブ定義画面が表示されなくなるおそれがあります。
- 稼働ログの最大サイズおよび稼働ログのバックアップファイル数を変更する場合、ログ出力先フォルダに作成されている mmap フォルダを削除してください。削除しないと、変更が有効になりません。
- LogOutDir には、マルチバイトコードを含むパスを指定しないでください。

補足説明

- JP1/DH - AJE をクラスタシステムで運用する場合、実行系と待機系で定義が一致するようにしてください。また、稼働ログの出力フォルダを共有フォルダ上のフォルダを指定するようにしてください。

(1) ジョブ定義プログラム環境設定ファイル

環境設定ファイルの詳細を次に示します。

1. ファイルパス

<インストールフォルダ>%settings%config.xml

2. 環境設定ファイルの構成内容

環境設定ファイルの構成内容を次に示します。

```
<?xml version="1.0" encoding="UTF-8" ?>
<config>
  <LogOutDir>C:\ProgramData\Hitachi\jp1\jp1_default\JP1DH\AJE\AJED\log</LogOutDir>
  <InfoLogLevel>info</InfoLogLevel>
  <InfoLogSize>5</InfoLogSize>
```

3. JP1/DH - AJE のインストールとセットアップ

```
<InfoLogBackCount>3</InfoLogBackCount>
</config>
```

3. 定義項目詳細

環境設定ファイルのタグ名、定義項目およびデフォルト値について、次の表に示します。

表 3-3 ジョブ定義プログラム環境設定ファイルの定義項目

タグ名	定義項目	デフォルト値
LogOutDir	<p>ログ出力先フォルダ名を指定します。</p> <p>指定できるログ出力先フォルダ名の長さは、使用する OS に依存します。 (フォルダ名+ログファイル名)の長さが、OS が作成できるファイル名の長さを超えないようなフォルダ名を指定してください。</p> <p>LogOutDir に次の値を指定した場合、DH カスタムジョブ定義画面が表示されません。</p> <ul style="list-style-type: none">存在しないフォルダDH カスタムジョブ定義画面を使用する OS ユーザが読み書きできないフォルダ <p>指定したログ出力先フォルダは、プログラム実行前に作成し、DH カスタムジョブ定義プログラムを実行する OS ユーザが読み書き可能となるよう、設定してください。</p>	※
InfoLogLevel	<p>稼働ログの出力レベルを、次のレベルから指定します。</p> <ul style="list-style-type: none">error エラーレベルだけ出力します。warn エラーレベルおよび警告レベルを出力します。info エラーレベル、警告レベルおよび情報レベルを出力します。 <p>InfoLogLevel に、error, warn または info 以外の値を指定した場合、DH カスタムジョブ定義画面が表示されません。</p>	info
InfoLogSize	<p>稼働ログの最大サイズを設定します。</p> <p>最大サイズの指定は、数値で設定します。</p> <p>最小値は 5 (MB)、最大値は 16 (MB) です。</p> <p>InfoLogSize に、範囲外の数値または数値以外の値を指定した場合、DH カスタムジョブ定義画面が表示されません。</p>	5
InfoLogBackCount	<p>稼働ログのバックアップファイルの数を設定します。</p> <p>バックアップファイルの数の数値を指定します。</p> <p>最小値は 3、最大値は 64 です。</p> <p>InfoLogBackCount に、範囲外の数値または数値以外の値を指定した場合、DH カスタムジョブ定義画面が表示されません。</p> <p>稼働ログファイル名は、次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none">dhajed_information[x].log ([x]は数値)	3

注※

稼働ログの出力先フォルダのデフォルト値は、OS によって異なります。

- Windows XP の場合

```
<インストールフォルダ>%log%
```

- Windows XP 以外の場合

```
%AllUsersProfile%Hitachi\jp1\jp1_default\JP1DH\AJE\AJED\Log
```

%AllUsersProfile%は、Windows の環境変数（全 OS ユーザ共通のデータ保存フォルダ）を示します。

3.3.2 JP1/DH - AJE（ジョブ実行プログラム）の設定を変更する

JP1/DH - AJE（ジョブ実行プログラム）の設定変更方法を次に示します。

JP1/DH - AJE（ジョブ実行プログラム）では、稼働ログファイル、システムが使用するファイルの出力、ワークフォルダにかかわる設定、システムの動作にかかわる設定を環境設定ファイル（config.xml）で変更できます。稼働ログファイルに対して変更できる項目は、「出力フォルダ、出力レベル、ファイルサイズ、世代保持数」です。デフォルト値を用いて JP1/AJE（ジョブ実行プログラム）を実行する場合、config.xml を変更する必要はありません。

注意

- config.xml に設定する値に、誤った値を設定した場合、DH カスタムジョブを実行できません。
- config.xml の文字コードは UTF-8 です。他の文字コードで保存しないでください。他の文字コードで保存した場合、DH カスタムジョブを実行できなくなるおそれがあります。
- 稼働ログの最大サイズおよび稼働ログのバックアップファイル数を変更する場合、ログ出力先フォルダに作成されている mmap フォルダを削除してください。削除しないと、変更が有効になりません。
- LogOutDir には、マルチバイトコードを含むパスを指定しないでください。

補足説明

- JP1/DH - AJE をクラスタシステムで運用する場合、実行系と待機系で定義が一致するようにしてください。また、稼働ログの出力フォルダおよびシステムが使用するファイルの格納フォルダを、共有フォルダ上のフォルダを指定するようにしてください。

(1) ジョブ実行プログラム環境設定ファイル

環境設定ファイルの詳細を次に示します。

(a) Windows の場合

1. ファイルパス

```
<インストールフォルダ>%settings%\config.xml
```

2. 環境設定ファイルの構成内容

環境設定ファイルの構成内容を次に示します。

3. JP1/DH - AJE のインストールとセットアップ

```

<?xml version="1.0" encoding="UTF-8" ?>
<config>
  <LogOutDir>C:\ProgramData\Hitachi\jp1\jp1_default\JP1DH\AJE\AJEE\log</LogOutDir>
  <InfoLogLevel>info</InfoLogLevel>
  <InfoLogSize>5</InfoLogSize>
  <InfoLogBackCount>3</InfoLogBackCount>
  <RecvListDir>C:\Program Files\HITACHI\JP1DH\AJE\AJEE\recvlist</RecvListDir>
  <CmdJreHome>C:\Program Files\HITACHI\JP1DH\AJE\AJEE\csmi\jdk\jre</CmdJreHome>
  <SendRecvTemp>C:\ProgramData\Hitachi\jp1\jp1_default\JP1DH\AJE\AJEE\work</
SendRecvTemp>
  <ResumeCount>12</ResumeCount>
  <ResumeWaitTime>300</ResumeWaitTime>
  <SuspendResumeCount>24</SuspendResumeCount>
  <SuspendResumeWaitTime>3600</SuspendResumeWaitTime>
</config>

```

3. 定義項目詳細

環境設定ファイルのタグ名、定義項目およびデフォルト値について、次の表に示します。

表 3-4 ジョブ実行プログラム環境設定ファイルの定義項目（Windows の場合）

タグ名	定義項目	デフォルト値
LogOutDir	<p>ログ出力先フォルダ名を指定します。</p> <p>指定できるログ出力先フォルダ名の長さは、使用する OS に依存します。（フォルダ名+ログファイル名）の長さが、OS が作成できるファイル名の長さを超えないようなフォルダ名を指定してください。</p> <p>LogOutDir に次の値を指定した場合、DH カスタムジョブを実行できません。</p> <ul style="list-style-type: none"> 存在しないフォルダ DH カスタムジョブを実行する OS ユーザが読み書き権限を持っていないフォルダ <p>指定したログ出力先フォルダは、プログラム実行前に作成し、DH カスタムジョブを実行する OS ユーザが読み書き可能となるよう、設定してください。</p>	<p>%AllUsersProfile%\Hitachi\jp1\jp1_default\JP1DH\AJE\AJEE\log</p> <p>（%AllUsersProfile%は、Windows の環境変数（全 OS ユーザ共通のデータ保存フォルダ）を示します。）</p>
InfoLogLevel	<p>稼働ログの出力レベルを、次のレベルから指定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> error エラーレベルだけ出力します。 warn エラーレベルおよび警告レベルを出力します。 info エラーレベル、警告レベルおよび情報レベルを出力します。 <p>InfoLogLevel に、error、warn または info 以外の値を指定した場合、DH カスタムジョブを実行できません。</p>	info
InfoLogSize	<p>稼働ログの最大サイズを設定します。</p> <p>最大サイズの指定は、数値で設定します。</p> <p>最小値は 5（MB）、最大値は 16（MB）です。</p>	5

タグ名	定義項目	デフォルト値
InfoLogSize	InfoLogSize に、範囲外の数値または数値以外の値を指定した場合、DH カスタムジョブを実行できません。	5
InfoLogBackCount	稼働ログのバックアップファイルの数を設定します。 バックアップファイルの数の数値を指定します。 最小値は 3、最大値は 64 です。 InfoLogBackCount に、範囲外の数値または数値以外の値を指定した場合、DH カスタムジョブを実行できません。 稼働ログファイル名は、次のとおりです。 <ul style="list-style-type: none"> dhajee_information[x].log ([x]は数値) 	3
RecvListDir	システムが使用するファイルの格納フォルダを指定します。 指定できるシステムが使用するファイルの格納フォルダのフォルダ名の長さは、使用する OS に依存します。(フォルダ名 + 49 文字) の長さが、OS が作成できるファイル名の長さを超えないようなディレクトリ名を指定してください。 RecvListDir に次の値を指定した場合、DH カスタムジョブを実行できません。 <ul style="list-style-type: none"> 存在しないフォルダ DH カスタムジョブを実行する OS ユーザが読み書き権限を持っていないフォルダ 指定したシステムが使用するファイルの格納フォルダは、プログラム実行前に作成し、DH カスタムジョブを実行する OS ユーザが読み書き可能となるよう、設定してください。 なお、RecvListDir を変更する場合、RecvListDir で指定したフォルダの直下に、list という名前のフォルダを作成し、RecvListDir と同様の読み書き権限を設定してください。	<インストールフォルダ> ¥recvlist
CmdJreHome	JP1/DH - AJE (ジョブ実行プログラム) が使用するライブラリのインストールフォルダです。インストール時に自動設定されます。この項目は変更しないでください。 ライブラリのインストールフォルダの指定に誤りがある場合、DH カスタムジョブを実行できません。	<インストールフォルダ>¥csmi ¥jdk¥jre
SendRecvTemp	DH カスタムジョブを実行する場合に使用するワークフォルダを指定します。 SendRecvTemp に次の値を指定した場合、DH カスタムジョブを実行できません。 <ul style="list-style-type: none"> 存在しないフォルダ DH カスタムジョブを実行する OS ユーザが読み書き権限を持っていないフォルダ 	%ALLUsersProfile%¥Hitachi ¥jp1¥jp1_default¥JP1DH¥AJE ¥AJEE¥work (%AllUsersProfile%は、Windows の環境変数 (全 OS ユーザ共通のデータ保存フォルダ) を示します。)
ResumeCount	データ送受信中に再開可能な障害が発生した場合、再開の最大リトライ回数 (再開最大回数) を設定します。 最小数は 0、最大数は 2147483647 です。ResumeCount に範囲外の数値または数値以外の値を指定した場合、DH カスタムジョブを実行できません。	12

3. JP1/DH - AJE のインストールとセットアップ

タグ名	定義項目	デフォルト値
ResumeWaitTime	データ送受信中に再開可能な障害が発生した場合、再開するまでの待ち時間（再開待ち時間）を秒単位で指定します。 最小数は 0（秒）、最大数は 3600（秒）です。 ResumeWaitTime に範囲外の数値または数値以外の値を指定した場合、DH カスタムジョブを実行できません。	300
SuspendResumeCount	データ送受信中に一時停止状態となった場合、再開の最大リトライ回数（一時停止再開最大回数）を設定します。 最小数は 0、最大数は 2147483647 です。 SuspendResumeCount に範囲外の数値または数値以外の値を指定した場合、DH カスタムジョブを実行できません。	24
SuspendResumeWaitTime	データ送受信中に一時停止状態となった場合、再開するまでの待ち時間（一時停止再開待ち時間）を秒単位で指定します。 最小数は 0（秒）、最大数は 2147483647（秒）です。 SuspendResumeWaitTime に範囲外の数値または数値以外の値を指定した場合、DH カスタムジョブを実行できません。	3600

(b) Linux の場合

1. ファイルパス

/opt/jp1dh/aje/ajee/settings/config.xml

2. 環境設定ファイルの構成内容

環境設定ファイルの構成内容を次に示します。

```
<?xml version="1.0" encoding="UTF-8" ?>
<config>
  <LogOutDir>C:\ProgramData\Hitachi\jp1\jp1_default\JP1DH\AJE\AJEE\log</LogOutDir>
  <InfoLogLevel>info</InfoLogLevel>
  <InfoLogSize>5</InfoLogSize>
  <InfoLogBackCount>3</InfoLogBackCount>
  <RecvListDir>C:\Program Files\HITACHI\JP1DH\AJE\AJEE\recvlist</RecvListDir>
  <CmdJreHome>C:\Program Files\HITACHI\JP1DH\AJE\AJEE\csmi\jdk\jre</CmdJreHome>
  <SendRecvTemp>C:\ProgramData\Hitachi\jp1\jp1_default\JP1DH\AJE\AJEE\work</
SendRecvTemp>
  <ResumeCount>12</ResumeCount>
  <ResumeWaitTime>300</ResumeWaitTime>
  <SuspendResumeCount>24</SuspendResumeCount>
  <SuspendResumeWaitTime>3600</SuspendResumeWaitTime>
</config>
```

3. 定義項目詳細

環境設定ファイルのタグ名、定義項目およびデフォルト値について、次の表に示します。

表 3-5 ジョブ実行プログラム環境設定ファイルの定義項目（Linux の場合）

タグ名	定義項目	デフォルト値
LogOutDir	ログ出力先フォルダ名を指定します。	/var/opt/jp1dh/aje/ajee/log

タグ名	定義項目	デフォルト値
LogOutDir	<p>指定できるログ出力先フォルダ名の長さは、使用する OS に依存します。 (フォルダ名+ログファイル名) の長さが、OS が作成できるファイル名の長さを超えないようなフォルダ名を指定してください。</p> <p>LogOutDir に次の値を指定した場合、DH カスタムジョブを実行できません。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 存在しないフォルダ • DH カスタムジョブを実行する OS ユーザが読み書き権限を持っていないフォルダ <p>指定したログ出力先フォルダは、プログラム実行前に作成し、DH カスタムジョブを実行する OS ユーザが読み書き可能となるよう、設定してください。</p>	/var/opt/jp1dh/aje/aje/log
InfoLogLevel	<p>稼働ログの出力レベルを、次のレベルから指定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • error エラーレベルだけ出力します。 • warn エラーレベルおよび警告レベルを出力します。 • info エラーレベル、警告レベルおよび情報レベルを出力します。 <p>InfoLogLevel に、error, warn または info 以外の値を指定した場合、DH カスタムジョブを実行できません。</p>	info
InfoLogSize	<p>稼働ログの最大サイズを設定します。 最大サイズの指定は、数値で設定します。 最小値は 5(MB)、最大値は 16(MB)です。</p> <p>InfoLogSize に、範囲外の数値または数値以外の値を指定した場合、DH カスタムジョブを実行できません。</p>	5
InfoLogBackCount	<p>稼働ログのバックアップファイルの数を設定します。 バックアップファイルの数の数値を指定します。 最小値は 3、最大値は 64 です。</p> <p>InfoLogBackCount に、範囲外の数値または数値以外の値を指定した場</p>	3

タグ名	定義項目	デフォルト値
InfoLogBackCount	<p>合、DH カスタムジョブを実行できません。</p> <p>稼働ログファイル名は、次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> dhajee_information[x].log ([x] は数値) 	3
RecvListDir	<p>システムが使用するファイルの格納フォルダを指定します。</p> <p>指定できるシステムが使用するファイルの格納フォルダのフォルダ名の長さは、使用する OS に依存します。 (フォルダ名 + 49 文字) の長さが、OS が作成できるファイル名の長さを超えないようなディレクトリ名を指定してください。</p> <p>RecvListDir に次の値を指定した場合、DH カスタムジョブを実行できません。</p> <ul style="list-style-type: none"> 存在しないフォルダ DH カスタムジョブを実行する OS ユーザが読み書き権限を持っていないフォルダ <p>指定したシステムが使用するファイルの格納フォルダは、プログラム実行前に作成し、DH カスタムジョブを実行する OS ユーザが読み書き可能となるよう、設定してください。</p> <p>なお、RecvListDir を変更する場合、RecvListDir で指定したフォルダの直下に、list という名前のフォルダを作成し、RecvListDir と同様の読み書き権限を設定してください。</p>	/opt/jp1dh/aje/ajee/ recvlist
CmdJreHome	<p>JP1/DH - AJE (ジョブ実行プログラム) が使用するライブラリのインストールフォルダです。インストール時に自動設定されます。この項目は変更しないでください。</p> <p>ライブラリのインストールフォルダの指定に誤りがある場合、DH カスタムジョブを実行できません。</p>	/opt/jp1dh/aje/ajee/ csmi/jdk/jre
SendRecvTemp	<p>DH カスタムジョブを実行する場合に使用するワークフォルダを指定します。</p> <p>SendRecvTemp に次の値を指定した場合、DH カスタムジョブを実行できません。</p> <ul style="list-style-type: none"> 存在しないフォルダ 	/var/opt/jp1dh/aje/ajee/ work

タグ名	定義項目	デフォルト値
SendRecvTemp	<ul style="list-style-type: none"> DH カスタムジョブを実行する OS ユーザが読み書き権限を持っていないフォルダ 	/var/opt/jp1dh/aje/ajee/work
ResumeCount	<p>データ送受信中に再開可能な障害が発生した場合、再開の最大リトライ回数（再開最大回数）を設定します。</p> <p>最小数は 0，最大数は 2147483647 です。ResumeCount に範囲外の数値または数値以外の値を指定した場合、DH カスタムジョブを実行できません。</p>	12
ResumeWaitTime	<p>データ送受信中に再開可能な障害が発生した場合、再開するまでの待ち時間（再開待ち時間）を秒単位で指定します。</p> <p>最小数は 0（秒），最大数は 3600（秒）です。ResumeWaitTime に範囲外の数値または数値以外の値を指定した場合、DH カスタムジョブを実行できません。</p>	300
SuspendResumeCount	<p>データ送受信中に一時停止状態となった場合、再開の最大リトライ回数（一時停止再開最大回数）を設定します。</p> <p>最小数は 0，最大数は 2147483647 です。SuspendResumeCount に範囲外の数値または数値以外の値を指定した場合、DH カスタムジョブを実行できません。</p>	24
SuspendResumeWaitTime	<p>データ送受信中に一時停止状態となった場合、再開するまでの待ち時間（一時停止再開待ち時間）を秒単位で指定します。</p> <p>最小数は 0（秒），最大数は 2147483647（秒）です。</p> <p>SuspendResumeWaitTime に範囲外の数値または数値以外の値を指定した場合、DH カスタムジョブを実行できません。</p>	3600

3.4 DH カスタムジョブの登録

DH カスタムジョブを JP1/AJS3 - View へ登録する手順を次に示します。

JP1/DH - AJE（ジョブ実行プログラム）が、Windows の場合と Linux の場合で登録する内容が異なります。

Windows の場合

管理クライアントにおいて、JP1/AJS3 - View に DH カスタムジョブを登録する必要があります。管理クライアントが複数存在する場合、この作業はすべての管理クライアントで実施してください。

1. Windows の [スタート] メニューから、[プログラム] - [JP1/AJS3 - View] - [カスタムジョブ登録] を選択すると、[カスタムジョブの登録] ダイアログボックスが表示されます。
2. [カスタムジョブの登録] ダイアログボックスにおいて、[新規登録] ボタンを押します。[カスタムジョブ登録情報] 画面が表示されます。
3. [カスタムジョブ登録情報] 画面の各項目に、次の情報を入力します。

表 3-6 [カスタムジョブ登録] 画面の項目への入力内容（Windows の場合）

項目	入力内容
名前	DH カスタムジョブの名称「DHAJEW」を指定します。なお、任意の名称も 8 バイト以内で指定できます。
コメント	任意の文字列を 40 バイト以内で指定します。新規にジョブを作成したときの、ジョブのデフォルト名称となります。なお、省略した場合は、名前に指定した値が、ジョブのデフォルト名称となります。
定義プログラム	管理クライアント上の JP1/DH - AJE（ジョブ定義プログラム）を絶対パスで指定します。 例：管理クライアント上の<定義プログラムのインストール先フォルダ>%bin%dhahjed.exe
実行プログラム	実行サーバ上の JP1/DH - AJE（ジョブ実行プログラム）を絶対パスで指定します。 例：実行サーバ上の<実行プログラムのインストール先フォルダ>%bin%dhahjee.exe
バージョン	0600（固定値）を指定します。
クラス名	DHAJEW（固定値）を指定します。
ジョブ種別	[PC ジョブ] を指定します。

補足説明

- JP1/DH - AJE（ジョブ実行プログラム）を複数のデータ送受信クライアントにインストールし、かつ JP1/DH - AJE（ジョブ実行プログラム）のインストールパスが各データ送受信クライアント上で異なる場合、項目「実行プログラム」の指定値として、JP1/AJS3 の環境設定パラメータ [{JP1_DEFAULT|倫理ホスト名}%JP1NBQAGENT%Variable] を用いることで、指定できます。詳細は、マニュアル「JP1/Automatic Job Management System 3 構築ガイド 1 ジョブ実行時のワークパスを変数として定義する」を参照してください。

注意

- 「バージョン」「クラス名」に固定値以外を設定した場合、JP1/AJS3 - View のジョブ定義画面で、DH カスタムジョブのアイコンが表示されません。

- カスタムジョブの登録で、Windows 版の DH カスタムジョブを 2 個以上登録しないでください。2 個以上登録した場合、不整合が生じ、ジョブが実行できないおそれがあります。

4. [OK] ボタンを押します。


5. 管理クライアントにインストールされている JP1/AJS3 - View のバージョンが 10-00 より低いバージョンの場合、Windows 版の DH カスタムジョブアイコンファイルを JP1/AJS3 - View のカスタムジョブイメージフォルダにコピーします。JP1/AJS3 - View のバージョンが 10-00 以降であれば、この作業は必要ありません。

- DH カスタムジョブアイコンファイル

管理クライアント上の<定義プログラムのインストール先フォルダ>%custom%CUSTOM_PC_DHAJEW.gif

- JP1/AJS3 - View のコピー先フォルダ

<JP1/AJS3 - Viewのインストールフォルダ>%image%custom

6. 登録した JP1/DH - AJE のカスタムジョブを確認します。JP1/AJS3 - View の [ジョブネットエディタ] 画面を表示して、アイコンリストの [カスタムジョブ] タブを選択します。登録したカスタムジョブのアイコン [] が表示されていることを確認してください。

Linux の場合

管理クライアントにおいて、JP1/AJS3 - View に DH カスタムジョブを登録する必要があります。管理クライアントが複数存在する場合、この作業はすべての管理クライアントで実施してください。

1. Windows の [スタート] メニューから、[プログラム] - [JP1/AJS3 - View] - [カスタムジョブ登録] を選択すると、[カスタムジョブの登録] ダイアログボックスが表示されます。
2. [カスタムジョブの登録] ダイアログボックスにおいて、[新規登録] ボタンを押します。[カスタムジョブ登録情報] 画面が表示されます。
3. [カスタムジョブ登録情報] 画面の各項目に、次の情報を入力します。

表 3-7 [カスタムジョブ登録] 画面の項目への入力内容 (Linux の場合)

項目	入力内容
名前	DH カスタムジョブの名称「DHAJEL」を指定します。なお、任意の名称も 8 バイト以内で指定できます。
コメント	任意の文字列を 40 バイト以内で指定します。新規にジョブを作成したときの、ジョブのデフォルト名称となります。なお、省略した場合は、名前に指定した値が、ジョブのデフォルト名称となります。
定義プログラム	管理クライアント上の JP1/DH - AJE (ジョブ定義プログラム) を絶対パスで指定します。 例：管理クライアント上の<定義プログラムのインストール先フォルダ>%bin%dhaje.d.exe
実行プログラム	実行サーバ上の JP1/DH - AJE (ジョブ実行プログラム) を絶対パスで指定します。 /opt/jp1dh/aje/ajee/bin/dhaje.sh
バージョン	0600 (固定値) を指定します。

項目	入力内容
クラス名	DHAJEL（固定値）を指定します。
ジョブ種別	[PC ジョブ] を指定します。

注意

- 「バージョン」「クラス名」に固定値以外を設定した場合、JP1/AJS3 - View のジョブ定義画面で、DH カスタムジョブのアイコンが表示されません。
- カスタムジョブの登録で、Linux 版の DH カスタムジョブを 2 個以上登録しないでください。2 個以上登録した場合、不整合が生じ、ジョブが実行できないおそれがあります。

4. [OK] ボタンを押します。


5. 管理クライアントにインストールされている JP1/AJS3 - View のバージョンが 10-00 より低いバージョンの場合、Linux 版の DH カスタムジョブアイコンファイルを JP1/AJS3 - View のカスタムジョブイメージフォルダにコピーします。JP1/AJS3 - View のバージョンが 10-00 以降であれば、この作業は必要ありません。

- DH カスタムジョブアイコンファイル

管理クライアント上の<定義プログラムのインストール先フォルダ>%custom%CUSTOM_PC_DHAJEL.gif

- JP1/AJS3 - View のコピー先フォルダ

<JP1/AJS3 - Viewのインストールフォルダ>%image%custom

6. 登録した JP1/DH - AJE のカスタムジョブを確認します。JP1/AJS3 - View の [ジョブネットエディタ] 画面を表示して、アイコンリストの [カスタムジョブ] タブを選択します。登録したカスタムジョブのアイコン [] が表示されていることを確認してください。

3.5 JP1/DH - Server 側の設定

3.5.1 ログインユーザ ID の登録

JP1/DH - Server にログインするユーザ ID とパスワードを設定する必要があります。JP1/DH - AJE から、DH カスタムジョブを使用してデータ送受信を行う場合、認証方式の「電子証明書認証」は指定できません。「標準パスワード認証」または「LDAP 認証システム」を指定してください。

設定の詳細については、マニュアル「JP1/Data Highway - Server 管理者ガイド」を参照してください。

3.5.2 配送ポリシーの圧縮方式の設定に関して

配送ポリシーの圧縮方式が選択可能な場合は、必ず「拡張」を設定してください。

「標準」が設定されている場合、フォルダを指定した送信を行うと「DWCO2207_E フォルダが含まれているため、[-resumestatus]オプションは指定できません。」のエラーが発生して送信がエラーになります。

設定の詳細については、マニュアル「JP1/Data Highway - Server 管理者ガイド」を参照してください。

3.6 サーバ証明書の登録

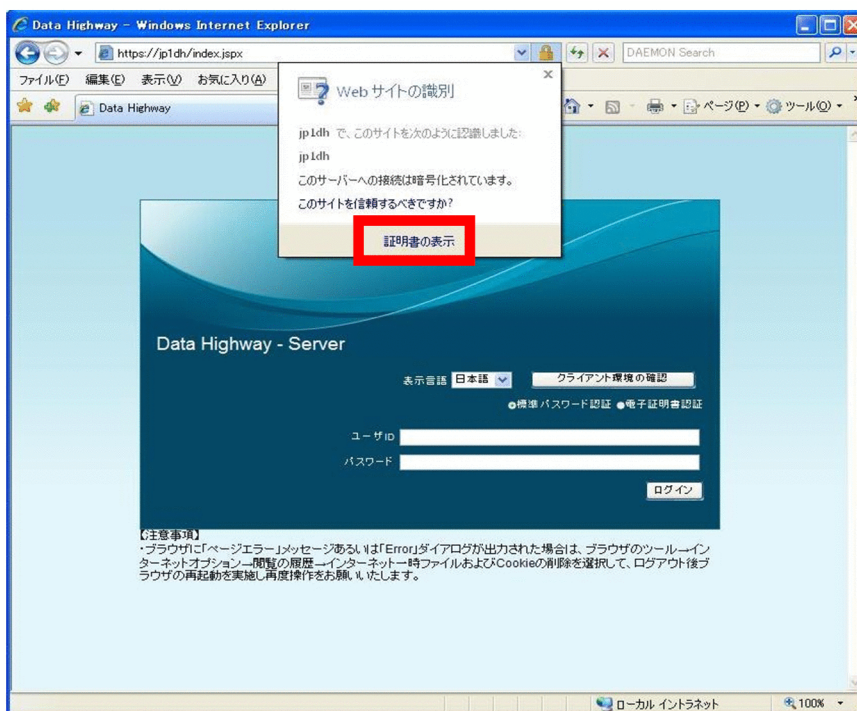
JP1/DH - AJE（ジョブ実行プログラム）を実行する前に、データ送受信対象となる JP1/DH - Server からサーバ証明書入手し、JP1/DH - AJE（ジョブ実行プログラム）が使用するライブラリに、サーバ証明書を登録する必要があります。

サーバ証明書の登録手順を次に示します。

なお、この手順は、すべてのデータ送受信クライアントで実施してください。

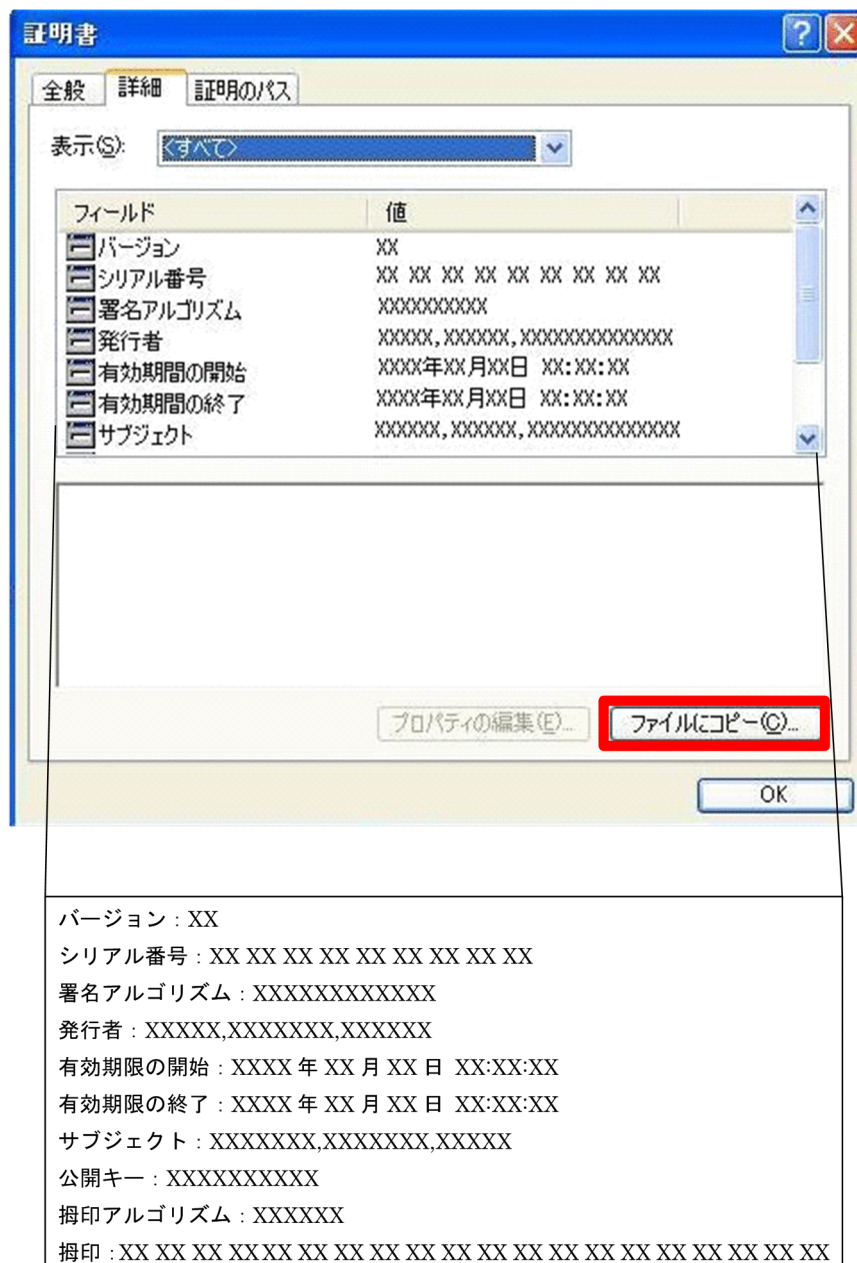
1. データ送受信対象となる JP1/DH - Server に、Web ブラウザを用いてアクセスします。
2. URL が表示されている部分の右側の鍵マークをクリックし、[Web サイトの識別] 画面を表示し、その画面の [証明書の表示] をクリックします。

図 3-1 証明書の表示



3. [証明書] ダイアログの [詳細] タブの [ファイルにコピー] を選択します。

図 3-2 「証明書」 ダイアログ画面



4. 「証明書エクスポートウィザードの開始」 画面が表示されます。[次へ] を選択します。
5. 「エクスポート ファイルの形式」 画面が表示されます。使用する形式から [DER encoded binary X509(.CER)] を選択し、[次へ] を選択します。
6. 「エクスポートするファイル」 画面が表示されます。任意のファイル名を入力し、[次へ] を選択します。
7. 「証明書エクスポート ウィザードの完了」 画面が表示されます。[完了] を選択します。
8. 「正しくエクスポートされました」 ダイアログが表示されます。[エクスポートするファイル] 画面で入力したファイルに、サーバ証明書がエクスポートされます。
9. コマンドプロンプトでジョブ実行プログラム配下のライブラリフォルダに移動し、次のコマンドを実行します。

Windows の場合

keytool -import -alias 証明書の別名※ -file サーバ証明書ファイルのパス -keystore <ジョブ実行プログラムインストールフォルダ>%csmi%\jdk\jre\lib\security\cacerts -storepass changeit

注※

証明書の別名には、サーバ証明書の任意の名前を入力してください。

例：<ジョブ実行プログラムインストールフォルダ>が

"C:%Program Files%HITACHI\JP1DH\AJE"

で、サーバ証明書ファイルのパスがC:%AJE%server.cer の場合

```
> cd "C:%Program Files%HITACHI\JP1DH\AJE\AJEE\csmi\jdk\jre\bin"
> keytool -import -alias test1 -file "C:%AJE%server.cer" -keystore "C:%Program Files%HITACHI\JP1DH\AJE\AJEE\csmi\jdk\jre\lib\security\cacerts" -storepass changeit
```

Linux の場合

/opt/jp1dh/aje/ajee/csmi/jdk/jre/bin/keytool -import -alias 証明書の別名※ -file サーバ証明書ファイルのパス -keystore /opt/jp1dh/aje/ajee/csmi/jdk/jre/lib/security/cacerts -storepass changeit

注※

- ・証明書の別名には、サーバ証明書の任意の名前を入力してください。
- ・Linux の場合、keytool はフルパスで指定してください。

例：サーバ証明書ファイルのパスが/opt/server.cer の場合

```
$ cd /opt/jp1dh/aje/ajee/csmi/jdk/jre/bin
$ /opt/jp1dh/aje/ajee/csmi/jdk/jre/bin/keytool -import -alias test1 -file /opt/server.cer -keystore /opt/jp1dh/aje/ajee/csmi/jdk/jre/lib/security/cacerts -storepass changeit
```

10. keytool コマンドが「この証明書を信用しますか? [no]」と問い合わせてくるので、[yes] を入力し、リターンを押します。

11. 以上で登録は完了です。

注意

JP1/DH - AJE の上書きインストールを実行した場合、登録済のサーバ証明書が削除されます。したがって、上書きインストールを実行した場合には、サーバ証明書の登録を実施してください。サーバ証明書の登録を行わない場合、DH カスタムジョブがエラー終了します。

3.7 障害対策に関する検討

障害が発生する前にすべきことについて、次に示します。システムに万一の不測の事態が発生しても少ない影響でシステムを復旧させるために、事前に対策を検討しておくことが大切です。

3.7.1 情報収集ツールのセットアップ

JP1/DH - AJE（ジョブ実行プログラム）において障害が発生した場合には、情報収集ツールを用いて資料を採取します。トラブル発生前に、「[6.3.2\(1\)\(a\) 情報収集ツールについて](#)」を参照し、運用に合わせてツールをカスタマイズしておくことをお勧めします。

3.7.2 バックアップの実施

システムのバックアップについて、次に示します。

システムが壊れるなど不測の事態に備えて、JP1/DH - AJE のバックアップ取得をお勧めします。バックアップする時期と取得方法について、次に示します。

(1) バックアップする時期

定期的なバックアップ以外にバックアップする時期を次に示します。

- JP1/DH - AJE をセットアップしたとき
- JP1/DH - AJE の設定を変更したとき
- JP1/DH - AJE を上書きインストール（修復・バージョンアップ）する前
- JP1/DH - AJE を別ホストに移行するとき

(2) バックアップ取得方法

(a) JP1/DH - AJE（ジョブ定義プログラム）のバックアップ

1. 環境設定ファイル（config.xml）を任意の場所にコピーします。

(b) JP1/DH - AJE（ジョブ実行プログラム）のバックアップ

1. 環境設定ファイル（config.xml）をコピーします。
2. 次に示すフォルダ以下のファイルおよびフォルダをすべてコピーします。
＜ジョブ実行プログラムの環境設定ファイルの<RecvListDir>で定義したフォルダ＞

各ファイルおよびフォルダについては、「[付録 A ファイルおよびフォルダ一覧](#)」を参照してください。

リストア方法については「[6.4 リストア](#)」を参照してください。

<RecvListDir>については「[3.3.2\(1\) ジョブ実行プログラム環境設定ファイル](#)」を参照してください。

3.8 JP1/DH - AJE のアンインストール

JP1/DH - AJE をアンインストールする手順を説明します。

3.8.1 JP1/DH - AJE のアンインストール

(1) アンインストール時の注意事項

アンインストール時の注意事項を次に示します。

(a) Windows の場合

JP1/DH - AJE は、Administrators 権限を持つ OS ユーザでアンインストールしてください。レジストリキーへの書き込み権限などがない OS ユーザでは、アンインストールできません。

(b) Linux の場合

JP1/DH - AJE は、スーパーユーザ権限を持つ OS ユーザでアンインストールしてください。

アンインストールですべてのフォルダが削除されるため、その後、インストールを実施すると新規インストール時の初期状態となります。アンインストール前の状態を保持したい場合、アンインストール前にバックアップを実施し、インストール後にリストア作業を実施してください。詳細は、「[3.7.2 バックアップの実施](#)」と「[6.4 リストア](#)」を参照してください。

(c) Windows および Linux 共通の注意事項

- JP1/DH - AJE を、ターミナルサービスを使用してアンインストールしないでください。正しくアンインストールできないおそれがあります。
- JP1/DH - AJE をアンインストール後、OS の再起動は不要です。
- JP1/DH - AJE のアンインストールの途中で、エラー発生等によりインストールが中断した場合に、アンインストールができなくなることがあります。その場合、JP1/DH - AJE を再インストールしたあと、再度アンインストールを実行してください。

(2) アンインストールの手順

JP1/DH - AJE のアンインストール手順を次に示します。

(a) Windows の場合

1. JP1/DH - AJE をアンインストールするホストに、Administrators 権限を持つ OS ユーザでログインします。
2. JP1/DH - AJE (ジョブ定義プログラム) のアンインストール
 - DH カスタムジョブ定義画面が表示されている場合は、必ず終了させてください。

- Windows のコントロールパネルの「プログラムの追加と削除」または「プログラムと機能」から、Data Highway - Automatic Job Executor (Job Definition)を削除します。

3. JP1/DH - AJE (ジョブ実行プログラム) のアンインストール

- DH カスタムジョブが実行中の場合、必ず終了させてください。また、DH カスタムジョブがアンインストール中に実行されないようにしてください。アンインストール時にプログラム動作中の場合、アンインストールが正しく終了しません。
- Windows のコントロールパネルの「プログラムの追加と削除」または「プログラムと機能」から、Data Highway - Automatic Job Executor (Job Execution)を削除します。

4. アンインストール後に手動でファイルを削除します。アンインストールしても、インストール後に生成／更新されたファイル（ログファイルなど）は削除されません。次のファイルについては、アンインストール後に手動で削除してください。

1. ジョブ定義プログラムの場合

- JP1/DH - AJE (ジョブ定義プログラム) インストールフォルダ以下のファイル
- Windows XP 以外の場合、次のフォルダ
`%ALLUsersProfile%\Hitachi\jp1\jp1_default\JP1DH\AJE\AJED\log`
- 環境設定ファイルでログの出力先を変更している場合、そのログ出力先フォルダ

2. ジョブ実行プログラムの場合

- JP1/DH - AJE (ジョブ実行プログラム) インストールフォルダ以下のファイル
`%ALLUsersProfile%\Hitachi\jp1\jp1_default\JP1DH\AJE\AJEE\log`
- 環境設定ファイルでログの出力先を変更している場合、そのログ出力先フォルダ
- 環境設定ファイルで、システムが使用するファイルの出力先を変更している場合、その出力先フォルダ
- 環境設定ファイルで、DH カスタムジョブを実行する場合に使用するワークフォルダを変更している場合、そのワークフォルダ

(b) Linux の場合

1. JP1/DH - AJE (ジョブ実行プログラム) をアンインストールするホストに、スーパーユーザ権限を持つ OS ユーザでログインします。
2. Hitachi PP Installer のアンインストールから、JP1/Data Highway - Automatic Job Executor を選択し、アンインストールを実行します。
3. アンインストール後に手動でファイルを削除します。アンインストールしても、インストール後に生成／更新されたファイル（ログファイルなど）は削除されません。次のファイルについては、アンインストール後に手動で削除してください。
 - JP1/DH - AJE (ジョブ実行プログラム) インストールフォルダ以下のファイル
 - 環境設定ファイルでログの出力先を変更している場合、そのログ出力先フォルダ

- 環境設定ファイルで、システムが使用するファイルの出力先を変更している場合、その出力先フォルダ
- 環境設定ファイルで、DH カスタムジョブを実行する場合に使用するワークフォルダを変更している場合、そのワークフォルダ

4

操作説明

この章では、JP1/DH - AJE の操作手順について説明します。

4.1 DH カスタムジョブの種類

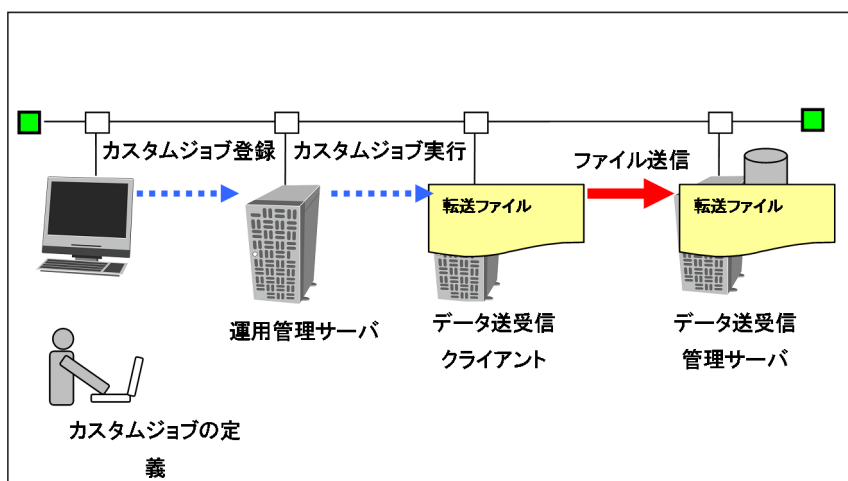
DH カスタムジョブの種類について、次に示します。

DH カスタムジョブは、JP1/DH - AJE（ジョブ定義プログラム）を用いることで、DH カスタムジョブを定義できます。DH カスタムジョブには、「送信カスタムジョブ」と「受信カスタムジョブ」の2種類があります。

4.1.1 送信カスタムジョブ

送信カスタムジョブは、ファイルを JP1/DH - Server に送信するカスタムジョブです。送信カスタムジョブの動作例を次の図に示します。

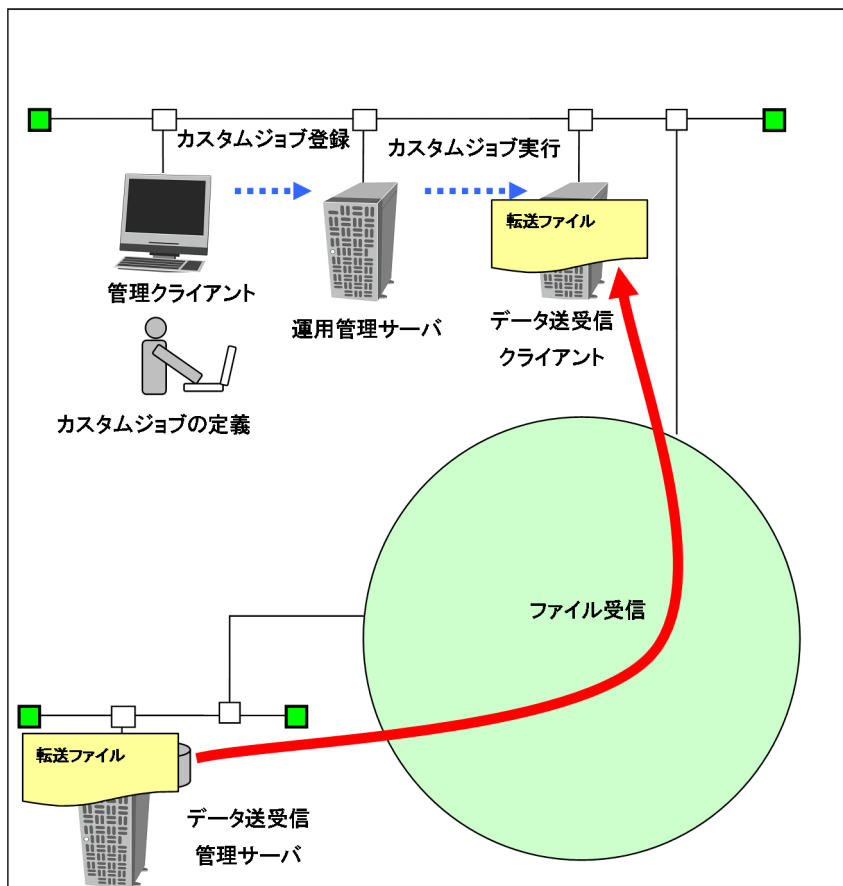
図 4-1 送信カスタムジョブの動作例



4.1.2 受信カスタムジョブ

受信カスタムジョブは、JP1/DH - Server に送信済みのファイルを受信するカスタムジョブです。受信カスタムジョブの動作例を次の図に示します。

図 4-2 受信カスタムジョブの動作例



4.2 DH カスタムジョブの定義手順

4.2.1 DH カスタムジョブ定義の手順

DH カスタムジョブの定義手順を、次に示します。


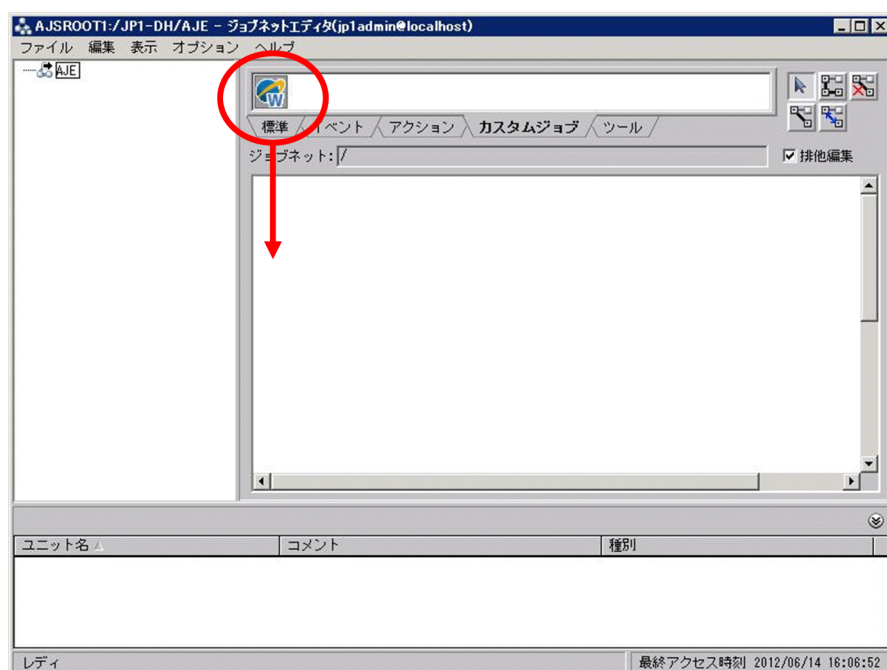

1. JP1/AJS3 - View の [ジョブネットエディタ] 画面のマップエリアを表示します。
2. [カスタムジョブ] タブを選択し、[排他編集] をチェックします。
3. DH カスタムジョブアイコン [] をドラッグし、マップエリアにドロップします。

図 4-3 [ジョブネットエディタ] 画面



ジョブ実行プログラムが Linux 版の場合、DH カスタムジョブアイコンは、[] で表示されます。

注意

- Windows 版と Linux 版、両方の DH カスタムジョブが使用可能なシステムでは、選択するアイコンを間違えないでください。

4. マップエリアのジョブネットに、JP1/DH - AJE のカスタムジョブが追加され、[詳細定義 - [Custom Job]] 画面が表示されます。

図 4-4 「詳細定義－[Custom Job]」画面

5. 次の表にしたがって、「詳細定義－[Custom Job]」ダイアログボックスの共通項目を定義してください。

表 4-1 「詳細定義－[Custom Job]」ダイアログボックスの共通項目への定義内容

項目名	定義方法	指定
[ユニット名]	ユニット名を 30 バイト以内の文字列で指定します。	必須
[コメント]	カスタムジョブのコメントを 1 ～ 80 バイトの文字列で指定します。	任意
[実行エージェント]	カスタムジョブを実行させたい実行エージェント名、または実行エージェントグループ名を 255 バイト以内の文字列で指定します。	必須

6. 次の表にしたがって、「詳細定義－[Custom Job]」ダイアログボックスの定義タブを定義してください。

表 4-2 「詳細定義－[Custom Job]」ダイアログボックスの定義タブへの定義内容

項目名	定義方法	指定
[実行優先順位]	カスタムジョブの実行優先順位を選択します。指定できる値は、[なし]、および [1] ～ [5] です。	任意

項目名		定義方法	指定
[標準出力ファイル名]		カスタムジョブを実行するときに使う標準出力ファイル名を 511 バイト以内の文字列で指定します。ファイル名は絶対パスで指定します。	任意
[標準エラー出力ファイル名]		カスタムジョブを実行するときに使う標準エラー出力ファイル名を 511 バイト以内の文字列で指定します。ファイル名は絶対パスで指定します。	任意
終了判定	判定結果	終了判定の条件を選択します。	任意
	警告しきい値	[終了判定] で [しきい値による判定] を選択した場合に、終了コードの警告しきい値を 0～2,147,483,647 で指定します。	任意
	異常しきい値	[終了判定] で [しきい値による判定] を選択した場合に、終了コードの異常しきい値を 0～2,147,483,647 で指定します。	任意
	ファイル名	[終了判定] で [ファイルが存在すれば正常] または [ファイルが更新されれば正常] を選択した場合に、ファイル名を 1～511 バイトの文字列で指定します。	任意
異常終了時リトライ		スクリプトがエラーになった場合、リトライ実行するかどうかを選択します。	任意
終了コード		[異常終了時リトライ] で [する] を選択した場合、リトライ実行するジョブの終了コードを 1～4,294,967,295 で指定します。	任意
最大リトライ回数		[異常終了時リトライ] で [する] を選択した場合、リトライ実行する最大回数を 1～12 で指定します。	任意
リトライ間隔		[異常終了時リトライ] で [する] を選択した場合、ジョブの実行ファイルがエラーになってからリトライ実行を開始するまでの間隔を 1～10（単位：分）で指定します。	任意
実行時のユーザー		カスタムジョブを実行する JP1/AJS3 - Agent の OS のユーザー名を 63 バイト以内の文字列で指定します。	任意
詳細情報の設定		[詳細] ボタンをクリックすると、DH カスタムジョブ定義画面が起動します。	必須

7. 次の表にしたがって、[詳細定義－ [Custom Job]] ダイアログボックスの属性項目を定義してください。

表 4-3 [詳細定義－ [Custom Job]] ダイアログボックスの属性タブへの定義内容

項目名	定義方法	指定
[保留]	ユニットの状態をあらかじめ保留状態にするかどうかを指定します。	任意

項目名	定義方法	指定
[種別]	ユニットの種別をリカバリーにするかどうかを指定します。	任意
[打ち切り時間指定]	ジョブの実行を打ち切る時間を指定するかどうかを選択します。	任意
[打ち切り時間]	[打ち切り時間指定] で [する] を選択した場合、打ち切り時間を分で指定します。指定できる値は、1～1,440 です。カスタムジョブの実行時間を考慮し、カスタムジョブが途中で打ち切りにならないように注意してください。	任意
[終了遅延監視]	実行所要時間によるジョブの終了遅延監視をするかどうかを指定します。ジョブの終了遅延を監視する場合は [実行所要時間] をチェックします。[実行所要時間] をチェックした場合は、ジョブの実行所要時間を分で指定します。指定できる値は、1～1,440 です。	任意
[所有者]	ユニットの所有者を 31 バイト以内の文字列で指定します。	任意
[JP1 資源グループ]	JP1 資源グループ名を 1 ～ 63 バイトの文字列で指定します。	任意
[実行ユーザー種別]	<p>実行ユーザーの種類を選択します。デフォルトは [登録ユーザー] です。選択できる種類を次に示します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [登録ユーザー] ジョブを登録した JP1 ユーザーでジョブを実行します。 • [所有ユーザー] ジョブを所有している JP1 ユーザーでジョブを実行します。 	任意

8. [詳細定義－ [Custom Job]] 画面の各項目を設定したあとに、[詳細定義－ [Custom Job]] 画面の [定義] タブの [詳細] ボタンをクリックします。[DH カスタムジョブ定義] 画面が表示されます。

図 4-5 [DH カスタムジョブ定義] 画面

メールシステム設定

転送設定 基本設定

転送区分

宛先

#	区分	メールアドレス	名前	所属
1	To ▼			
2	To ▼			
3	To ▼			
4	To ▼			
5	To ▼			
6	To ▼			
7	To ▼			
8	To ▼			
9	To ▼			
10	To ▼			

通知件名

通知本文

送信ファイル／フォルダ

#	ファイル名／フォルダ名
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	

暗号パスワード

暗号パスワード確認

別ジョブ
送受信時の動作

☒ 即時に終了する
☐ 別ジョブが終了するまで待機する

秒

OK キャンセル 製品情報

[DH カスタムジョブ定義] 画面で、「送信カスタムジョブ」または「受信カスタムジョブ」を定義するために、次の表に従い、[DH カスタムジョブ] 画面の各画面の定義項目を定義します。

表 4-4 「送信カスタムジョブ」 および 「受信カスタムジョブ」 で定義が必要な項目

画面名	送信カスタムジョブ	受信カスタムジョブ
〔転送設定（送信）〕 画面	○	－
〔転送設定（受信）〕 画面	－	○
〔基本設定〕 画面	○	○

(凡例)

- ：定義する
－：定義しない

注意

- DH カスタムジョブの定義では、「機種依存文字」,[JIS 2004 で追加された第 3 水準漢字および第 4 水準漢字],[サロゲートペア文字],[MS932 固有のマッピングを持つ文字(〜㏹㏺㏻㏼㏽㏾㏿)]は使用できません。使用した場合、文字が正しく認識されずに文字化けするおそれがあります。使用できない文字であるかどうかはチェックされません。
- config.xml の指定の誤りなどによりエラーが発生し,[DH カスタムジョブ定義]画面が表示されなかった場合,[詳細定義－[Custom Job]]画面の[OK]ボタンが選択可能になります。この場合、一度[キャンセル]ボタンを押して[詳細定義－[Custom Job]]画面を閉じたあと,DH カスタムジョブ定義を初めからやり直してください。
[詳細定義－[Custom Job]]画面の[OK]ボタンを押下すると,不完全な DH カスタムジョブが登録され,そのカスタムジョブを編集できなくなります。このような DH カスタムジョブが作成された場合は,削除してください。

9. 定義項目の定義が終了したら、[DH カスタムジョブ定義] 画面の [OK] ボタンをクリックします。[詳細定義 - [Custom Job]] 画面に戻ります。

指定した内容を確認し、[詳細定義－[Custom Job]] 画面の [OK] ボタンをクリックします。[ジョブネットエディタ] ウィンドウに送信カスタムジョブが定義されます。

4.2.2 【転送設定（送信）】画面

【転送設定（送信）】画面について、次に示します。

【DH カスタムジョブ定義】画面の【転送設定】タブを選択し、【転送区分】ドロップダウンリストから【送信】を選択すると、【転送設定（送信）】画面を表示できます。

図 4-6 【転送設定（送信）】画面

The screenshot shows the 'DH Custom Job Definition' window with the 'Transfer Settings (Sending)' tab selected. The 'Transfer Category' dropdown is set to 'Sending'. The 'Recipient' section contains a table with 10 rows, each with a dropdown menu set to 'To'. The 'Notification Name' and 'Notification Body' fields are empty. The 'Transfer File/Folder' section contains a table with 10 rows. The 'Recipient Password' and 'Recipient Password Confirmation' fields are empty. The 'Job Action' section has two radio buttons: 'End at time' (selected) and 'Wait until job ends'. The 'OK', 'Cancel', and 'Help' buttons are at the bottom right.

【転送設定（送信）】画面において指定する各項目と入力値の詳細を次の表に示します。

表 4-5 【転送設定（送信）】画面の定義項目

項目名	内容	AJS マクロ変数の使用可否	指定
転送区分	定義するカスタムジョブの種類を選択します。 [送信]を選択します。	不可	必須
宛先：区分	宛先の種別を示します。 "TO", "CC", "BCC"のどれか 1 つを選択します。	不可	必須
宛先：メールアドレス	メールの宛先、またはグループ名（英語）を 256 文字以内の文字列で指定します。 値に@（アットマーク）が含まれていない場合は、グループ名として登録します。 マルチバイト文字、コロン (:), またはダブルクォート (") は使用できません。 なお、特殊記号 (&"<>^ ¥%) と半角スペースを同時に使用することはできません。	可能	必須
宛先：名前	メールの宛先の名前を 30 文字以内の文字列で指定します。	可能	任意

項目名	内容	AJS マクロ変数の使用可否	指定
宛先：名前	<p>名前に、ピリオド (.) だけの名前は指定できません。</p> <p>また、名前に、次に示す記号は使用できません。 /¥?*: ">^`</p> <p>なお、特殊記号 (&"<>^ ¥%) と半角スペースを同時に使用することはできません。</p> <p>宛先にグループ名を指定した場合は、ここでの指定は無視されます。</p>	可能	任意
宛先：所属	<p>メールの宛先の所属を 30 文字以内の文字列で指定します。</p> <p>コロン (:), またはダブルクォート (") は使用できません。</p> <p>なお、特殊記号 (&"<>^ ¥%) と半角スペースを同時に使用することはできません。</p> <p>宛先にグループ名を指定した場合は、ここでの指定は無視されます。</p>	可能	任意
通知件名	<p>メールの件名を 30 文字以内の文字列で指定します。</p> <p>ダブルクォート (") は使用できません。</p> <p>なお、特殊記号 (&"<>^ ¥%) と半角スペースを同時に使用することはできません。</p>	可能	任意
通知本文	<p>メールのメッセージを 1,000 文字以内の文字列で指定します。</p> <p>ダブルクォート (") は使用できません。</p>	可能	任意
送信ファイル	<p>DH カスタムジョブを実行するエージェントホスト上の送信するファイルまたは送信したいファイルが格納されているフォルダを、絶対パスで指定します。絶対パスは、255 文字以内の文字列を指定します。</p> <p>ダブルクォート (") は使用できません。</p>	可能	必須
開封パスワード	<p>JP1/DH - Server に未登録である宛先にファイルを送信する場合、受信時に開封パスワード入力が必要になります。その開封パスワードを指定します。</p> <p>開封パスワードには、6 文字以上 32 文字以下の半角英数字と記号で、2 種類以上の文字種（数字、英小文字、英大文字、記号）を使用した文字列を指定します。使用できる記号を次に示します。 !"#\$%&'()*+,-./:;<=>?@[¥]^_`{ }~</p>	不可	※
開封パスワード確認	<p>開封パスワードで指定した内容を再度入力し、入力値に誤りがないことを確認する項目です。開封パスワードと同じ文字列を指定します。</p>	不可	※

項目名	内容	AJS マクロ変数の使用可否	指定
別ジョブが実行時の動作	<p>すでに他のファイルの送信・受信処理が行われている場合に、その処理が終わるまで待機するか、即時に終了するかを指定します。</p> <p>［即時に終了する］か［別ジョブが終了するまで待機する］を選択します。</p> <p>［別ジョブが終了するまで待機する］を選択した場合、待機する時間（単位:秒）を 0 以上 86,400 以下の値で指定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・［即時に終了する］を選択した場合 他のファイルの送信・受信処理中に DH カスタムジョブが実行された場合、DH カスタムジョブは何もせず終了します。 ・［別ジョブが終了するまで待機する］を選択した場合 他のファイルの送信・受信処理中に DH カスタムジョブが実行された場合、DH カスタムジョブは指定した秒数の間、実行を待ちます。タイムアウトとなった場合、DH カスタムジョブは何もせず終了します。 	不可	必須

注※

JP1/DH - Server に登録済みの宛先にファイルを送信する場合、指定は不要です。

補足説明

- 宛先は最大 10 件まで指定可能です。しかし、JP1/DH - Server の配送ポリシーによって、最大宛先数を 9 件以下に制限されている場合、宛先を 10 件指定した送信カスタムジョブの実行は失敗します。配送ポリシーを確認の上、宛先の指定を行ってください。
- 宛先に、名前または所属が指定されている行が存在し、その行にメールアドレスが指定されていない場合、エラーとなります。
- 送信ファイルには、最大 10 個までのファイルおよびフォルダが指定可能です。しかし、JP1/DH - Server の配送ポリシーによって、最大登録ファイル数を 9 個以下に制限されている場合、送信ファイルを 10 個指定した送信カスタムジョブの実行は失敗します。配送ポリシーを確認の上、ファイルの指定を行ってください。
- AJS マクロ変数は、ジョブ実行時にパラメータの値が変化するような処理を含んだ業務を自動化する JP1/AJS3 の機能の一つです。詳細については、マニュアル「JP1/Automatic Job Management System 3 導入ガイド マクロ変数を使用した業務の作成方法」を参照してください。
- ¥記号を入力した場合、バックスラッシュに変換されます。
- 宛先には、グループ名を指定する場合、必ずグループ名（英語）を指定してください。
- 送信時の圧縮強度、圧縮方式は選択できません。圧縮強度、圧縮方式は、JP1/DH - Server の配送ポリシーに従います。複数の圧縮強度が利用可能になっている場合は、優先順位の高いものが使用されます。優先順位は、次のとおりです。
 1. 圧縮なし
 2. [強]
 3. [中]
 4. [弱]

また、配送ポリシーの圧縮方式が選択可能な場合は、必ず「拡張」を設定してください。「標準」が設定されている場合、フォルダを指定した送信を行うと「DWCO2207_E フォルダが含まれているため、[-resumestatus]オプションは指定できません。」のエラーが発生し送信がエラーとなります。

- 送信するファイルまたはフォルダの最大サイズは、JP1/DH - Server の設定に従います。詳細については、マニュアル「JP1/Data Highway - Server 構築・運用ガイド」を参照してください。

注意

- 送信ファイルにはネットワークドライブ名から始まるパスを指定しないでください。ネットワークドライブは、ユーザが Windows にログオンしたあとに再接続されるため、Windows にログオンしていない場合には、ファイルのパス名を正しく認識できない場合があります。ネットワークドライブ名ではなく、「¥コンピュータ名¥共有フォルダ¥ファイル名」のようにコンピュータ名から始まるパスを指定してください。

4.2.3 【転送設定（受信）】画面

【転送設定（受信）】画面について、次に示します。

【DH カスタムジョブ定義】画面の【転送設定】タブを選択し、【転送区分】ドロップダウンリストから【受信】を選択すると、【転送設定（受信）】画面を表示できます。

図 4-7 【転送設定（受信）】画面

【転送設定（受信）】画面で指定する各項目と入力値の詳細を次の表に示します。

表 4-6 【転送設定（受信）】画面の定義項目

項目名	内容	AJS マクロ変数の使用可否	指定
転送区分	定義するカスタムジョブの種類を選択します。	不可	必須

項目名	内容	AJS マクロ変数の使用可否	指定
転送区分	[受信] を選択します。	不可	必須
受信フォルダ	DH カスタムジョブを実行するエージェントホスト上の受信フォルダ名を絶対パスで、255 文字以内の文字列で指定します。 ダブルクォート (") は使用できません。	可能	必須
同名のファイル／フォルダを受信する場合の動作	受信するファイル／フォルダと同名のファイル／フォルダが受信フォルダ内に存在する場合の動作を指定します。 <ul style="list-style-type: none"> 「上書きしない」を選んだ場合 同名のファイル／フォルダが存在した場合、受信をスキップします。 「上書きする」を選んだ場合 受信を行い、ファイル／フォルダを上書きします。 	不可	必須
受信するファイル／フォルダがない場合の動作	受信するファイル／フォルダが無い場合の動作を指定します。 <ul style="list-style-type: none"> 「正常終了する」を選んだ場合 受信するファイル／フォルダが無ければ、受信カスタムジョブは終了コードとして正常終了(0)を返します。 「警告終了する」を選んだ場合 受信するファイル／フォルダが無ければ、受信カスタムジョブは終了コードとして警告終了(1)を返します。 	不可	必須
別ジョブが実行時の動作	すでに他のファイルの送信処理が行われている場合に、その処理が終わるまで待機するか、即時に終了するかを指定します。すでに他のファイルの受信が行われている場合には、即時にエラー終了します。 [即時に終了する] か [別ジョブが終了するまで待機する] を選択します。 [別ジョブが終了するまで待機する] を選択した場合、待機する時間 (単位:秒) を 0 以上 86,400 以下の値で指定します。 <ul style="list-style-type: none"> [即時に終了する] を選択した場合 他のファイルの送信処理中に DH カスタムジョブが実行された場合、DH カスタムジョブは何もせず終了します。 [別ジョブが終了するまで待機する] を選択した場合 他のファイルの送信処理中に DH カスタムジョブが実行された場合、DH カスタムジョブは指定した秒数の間、実行を待ちます。タイム 	不可	必須

項目名	内容	AJS マクロ変数の使用可否	指定
別ジョブが実行時の動作	アウトとなった場合、DH カスタムジョブは何もせず終了します。	不可	必須

補足説明

- AJS マクロ変数は、ジョブ実行時にパラメータの値が変化するような処理を含んだ業務を自動化する JP1/AJS3 の機能の一つです。詳細については、マニュアル「JP1/Automatic Job Management System 3 導入ガイド マクロ変数を使用した業務の作成方法」を参照してください。
- ¥記号を入力した場合、バックスラッシュに変換されます。

注意

- 受信フォルダには、次のものを指定してください。
 - ・すでに存在するフォルダ
 - ・ジョブを実行するユーザが持っている権限で書き込みが可能なフォルダ
 上記以外のフォルダを指定した場合、受信カスタムジョブの実行に失敗します。
- [同名のファイルを受信する場合の動作] で [上書きしない] を選択した場合、受信フォルダ内に一つでも同名のファイルが存在した場合、受信カスタムジョブは戻り値として 4 を返します。例えば、A、B および C というファイルが受信対象ファイルであり、受信フォルダ内に B というファイルが存在した場合、A および C は受信しますが、B は受信しません。このケースでも、戻り値は 4 となります。このようなケースをエラーとして処理したくない場合、[詳細定義－[Custom Job]] 画面での終了判定のしきい値を変更してください。
- 受信フォルダにはネットワークドライブ名から始まるパスを指定しないでください。ネットワークドライブは、ユーザが Windows にログオンしたあとに再接続されるため、Windows にログオンしていない場合には、フォルダのパス名を正しく認識できない場合があります。ネットワークドライブ名ではなく、「¥コンピュータ名¥共有フォルダ¥フォルダ名」のようにコンピュータ名から始まるパスを指定してください。
- 受信フォルダには 255 文字までの文字列が指定できますが、ファイルまたはフォルダの受信時には、「受信フォルダに指定したフォルダ名の長さ」＋「受信したファイル名またはフォルダ名の長さ」のファイルおよびフォルダが作成されます。受信後のファイル名およびフォルダ名の長さが OS で扱えるファイル名およびフォルダ名の長さを超えると、DH カスタムジョブの実行に失敗します。受信後のファイル名およびフォルダ名の長さも考慮した上で、受信フォルダ名を決定してください。
- 受信する内容にフォルダが含まれている場合、[転送設定 (受信)]画面で指定した、「<ジョブ実行プログラムインストールフォルダ>¥bin¥DWClient¥work」フォルダ名の長さ＋「受信するフォルダ名」の長さが必要になります。この長さが OS で扱えるファイル名およびフォルダ名の長さを超えると、DH カスタムジョブの実行に失敗します。フォルダを指定した送受信をする場合、フォルダ名の長さを考慮した上で、送受信のフォルダ名を決定してください。
- Linux 版の受信では、umask 値 000 を用いて受信ファイル／フォルダを作成します。

4.2.4 [基本設定] 画面

[基本設定] 画面について、次に示します。

[DH カスタムジョブ定義] 画面の [基本設定] タブを選択すると、[基本設定] 画面を表示できます。

図 4-8 「基本設定」画面

「基本設定」画面で指定する各項目と入力値の詳細を次の表に示します。

表 4-7 「基本設定」画面の定義項目

項目名	内容	AJS マクロ変数の使用可否	指定
接続先サーバ URL	データ送受信の対象となる JP1/DH - Server の URL を 256 文字までの文字列で指定します。 ダブルクォート (") は使用できません。	可能	必須
ユーザ ID	JP1/DH - Server へのログインユーザ ID を 256 文字までの文字列で指定します。 マルチバイト文字，またはダブルクォート (") は使用できません。	可能	必須
パスワード	JP1/DH - Server へのログインパスワードを 256 文字までの文字列で指定します。 ログインユーザの認証システムが「LDAP 認証システム」の場合は，接続先のディレクトリ・サーバに登録されているパスワードを指定します。 マルチバイト文字，またはダブルクォート (") は使用できません。	不可	必須
プロキシ設定	プロキシサーバを使用するかどうかを指定します。 <ul style="list-style-type: none"> チェックボックスが選択されていない場合，プロキシサーバを使用しません。 チェックボックスが選択されている場合，プロキシサーバを使用します。 	不可	任意

項目名	内容	AJS マクロ変数の使用可否	指定
ホスト名	プロキシサーバのホスト名または IP アドレスを 256 文字までの文字列で指定します。 ダブルクォート (") は使用できません。	可能	※
ポート番号	プロキシサーバのポート番号を 0 以上 65,535 以下の数値で指定します。	可能	※
認証 ID	プロキシサーバの認証 ID を 256 文字までの文字列で指定します。 マルチバイト文字, またはダブルクォート (") は使用できません。	可能	※
認証パスワード	プロキシサーバの認証パスワードを 256 文字までの文字列で指定します。 マルチバイト文字, またはダブルクォート (") は使用できません。	不可	※

注※ プロキシ設定のチェックボックスが選択されている場合、指定は必須です。

補足説明

- AJS マクロ変数は、ジョブ実行時にパラメータの値が変化するような処理を含んだ業務を自動化する JP1/AJS3 の機能の一つです。詳細については、マニュアル「JP1/Automatic Job Management System 3 導入ガイド マクロ変数を使用した業務の作成方法」を参照してください。
- ¥記号を入力した場合、バックスラッシュに変換されます。

注意

- 受信カスタムジョブの基本設定において、同じ接続先サーバの接続先 URL を指定する場合、必ず同じ文字列を用いてください。異なる文字列を使用した場合、それらは別の接続先 URL とみなされます。例えば、接続先 URL の最後に「/」を付けた場合と付けない場合では別の接続先 URL とみなされます。

4.3 DH カスタムジョブの実行

DH カスタムジョブの実行方法について、次に示します。

DH カスタムジョブを含むジョブネットの定義が終了したら、JP1/AJS3 - View でジョブネットを実行登録します。

なお、実行する前に次の点を確認してください。

- ジョブを実行するユーザが対象の DH カスタムジョブを操作できる権限を持っている JP1 ユーザであること。

ジョブネットの実行登録の操作の詳細については、マニュアル「JP1/Automatic Job Management System 3 操作ガイド」を参照してください。

注意

- DH カスタムジョブを実行している間は、Web ブラウザから JP1/DH - Server にログインして送信、受信およびファイルの削除などの操作をしないでください。DH カスタムジョブの実行が失敗するおそれがあります。

4.3.1 複数の DH カスタムジョブの同時実行について

基本情報に同じユーザ ID を使用している複数の DH カスタムジョブを同時に実行することはできません。

基本情報に同じユーザ ID を使用している複数の DH カスタムジョブを同時に実行した場合、実行したどれか 1 つの DH カスタムジョブだけが実行されます。その他の DH カスタムジョブは、次のような動作をシエラーとなります。

(1) 同時実行した DH カスタムジョブがすべて送信ジョブまたは複数の送信ジョブと 1 つの受信ジョブで、「別ジョブが実行時の動作」において「即時に終了する」が選ばれている場合

実行中の DH カスタムジョブ以外の DH カスタムジョブは、すべて終了コード 8 で終了します。

(2) 同時実行した DH カスタムジョブがすべて送信ジョブまたは複数の送信ジョブと 1 つの受信ジョブで、「別ジョブが実行時の動作」において「別ジョブが終了するまで待機する」が選ばれている場合

実行中の DH カスタムジョブ以外の DH カスタムジョブは、実行中の DH カスタムジョブの終了を、指定された秒数の間待機します。実行中の DH カスタムジョブが終了した場合、待機状態にあるどれか 1 つの DH カスタムジョブが実行されます。待機状態の DH カスタムジョブが複数ある場合、どの DH カスタムジョブが実行されるかは分かりません。DH カスタムジョブに設定された待機時間を過ぎた場合、その DH カスタムジョブは終了コード 8 で終了します。

(3) 同時実行した DH カスタムジョブがすべて受信ジョブである場合

実行中の DH カスタムジョブ以外の DH カスタムジョブは、すべて即時に終了コード 8 で終了します。その際、実行結果詳細に「DWCO1114_E 受信済み配送リストファイルに書き込むことができません。」、 「DWCO1115_E 受信済み配送リストファイルを読み取ることができません。」または「DWCO1116_E 受信済み配送リストファイルの作成に失敗しました。」のエラーメッセージが表示されます。

また、同名の受信フォルダを定義した、複数の受信カスタムジョブが同時に実行された場合に「DWCO1301_E ファイル/フォルダの保存に失敗しました。保存先フォルダに同名のファイル/フォルダが存在し、そのファイル/フォルダを上書きすることができません。」のエラーメッセージが表示される場合があります。

4.3.2 再開機能について

再開機能とは、データ送受信中に再開可能な障害や一時停止状態が発生した場合、すぐに処理を終了せず、環境設定ファイルに指定された範囲で再開（中断した転送を途中から再開）する機能です。

(1) 再開の制御

再開の制御はユーザが意識する必要はなく、DH カスタムジョブが自動的に行います。再開を開始するまでの時間（リトライ間隔）と、再開回数（リトライ回数）を環境設定ファイルに設定し、この設定の範囲で再開をします。

(2) 再開を制御する環境設定ファイルの項目

再開を開始するまでの時間（リトライ間隔）と、再開回数（リトライ回数）を環境設定ファイル（config.xml）に設定します。

障害時に使用する項目と、一時停止時に使用する項目を別々に設定します。

- 障害時に使用する項目
再開最大回数(ResumeCount)、再開待ち時間(ResumeWaitTime)
デフォルト設定の場合、300 秒（5 分）の間隔をおいて 12 回の再開を試みます。
- 一時停止時に使用する項目
一時停止再開最大回数(SuspendResumeCount)、一時停止再開待ち時間(SuspendResumeWaitTime)
デフォルト設定の場合、3600 秒（60 分）の間隔をおいて 24 回の再開を試みます。

詳細は、「[3.3.2\(1\) ジョブ実行プログラム環境設定ファイル](#)」を参照してください。

(3) 再開が失敗した場合

環境設定ファイルに定義された再開最大回数（リトライ回数）分の再開を実行してもデータ送受信が再開されない場合、DH カスタムジョブは異常終了または一時停止の状態で終了します。再開機能は、DH カ

スタムジョブの実行中でだけ有効なため、DH カスタムジョブが終了したあとの再開は行えません。DH カスタムジョブが異常終了、または一時停止の状態で終了した場合、データ転送は完了していないため、DH カスタムジョブを再実行する必要があります。また、JP1/DH - Serverに残った、異常終了または一時停止のデータは保管期限まで残ります。不要となった場合、JP1/DH - Server の機能を使用し、削除してください。

注意

- DH カスタムジョブでは、実行中のデータ送受信を、一時停止の状態に変更する機能はありません。一時停止の状態に変更する機能は、JP1/DH - Server で提供しています。
詳細はマニュアル「JP1/Data Highway - Server 管理者ガイド」を参照してください。

4.3.3 保管期限が切れている配送の受信について

保管期限が切れている配送を受信しようとした場合、DH カスタムジョブは、終了コード 4（警告終了）で終了します。その際、実行結果詳細に「DWCO1065_W 配送の保管期限が切れているため受信できません。」のエラーメッセージが表示されます。

4.4 DH カスタムジョブ実行結果の確認

DH カスタムジョブの実行状況および実行結果の確認方法について、次に説明します。

4.4.1 DH カスタムジョブの実行状況の確認方法

DH カスタムジョブの実行状況は JP1/AJS3 - View で確認できます。確認方法については、マニュアル「JP1/Automatic Job Management System 3 操作ガイド 実行状況を監視する」を参照してください。

4.4.2 DH カスタムジョブ実行結果の確認方法

(1) DH カスタムジョブの終了コード

DH カスタムジョブの終了コードについて、次に示します。

DH カスタムジョブの実行結果は DH カスタムジョブの終了コードで確認できます。終了コードは、JP1/AJS3 - View の [モニタ詳細] ダイアログボックスで確認できます。詳細は、マニュアル「JP1/Automatic Job Management System 3 設計ガイド(業務設計編) ジョブの終了コードを確認する」を参照してください。

図 4-9 【モニタ詳細】 画面の終了コード

モニタ詳細 - [DHAJEW]	
ユニット名	/JP1-DH/AJE/DHAJEW
状態	正常終了
計画一時変更	なし
保留	定義に従う (保留しない)
開始日時	2012/06/18 12:57:58
終了日時	2012/06/18 12:58:44
遅延状態	なし
終了遅延日時	なし
終了遅延	なし
ジョブ登録日時	2012/06/18 12:57:58
ジョブ番号	497
終了コード	0
実行ホスト名	test1
待ち合わせ	-
リトライ状態	なし
リトライ実行回数	0
リトライ開始日時	なし
リトライ登録日時	なし
実行結果詳細	詳細...
<input type="button" value="定義編集..."/> <input type="button" value="閉じる"/> <input type="button" value="ヘルプ"/>	

DH カスタムジョブの終了コードを次の表に示します。

表 4-8 DH カスタムジョブの終了コードとその内容

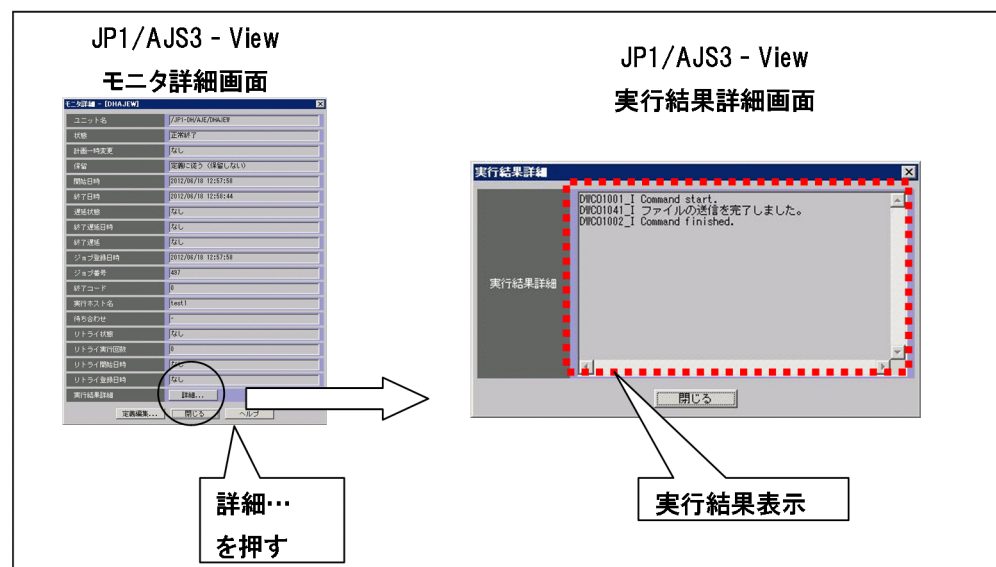
終了コード	内容
0	DH カスタムジョブの実行が成功したことを示します。受信カスタムジョブの場合、すべてのファイルが受信できたことを示します。
1	DH カスタムジョブの実行が警告終了したことを示します。受信カスタムジョブ実行時に受信するデータがない、かつ、転送設定 (受信) 画面で「受信するファイル/フォルダがない場合、警告終了する」を選択していることを示します。
2	DH カスタムジョブの実行が一時停止の状態を終了したことを示します。データ転送は完了していないため、DH カスタムジョブを再実行する必要があります。
3	DH カスタムジョブの実行が受付拒否で終了したことを示します。JP1/DH - Server 側で受付拒否状態が解除されるのを待ってから、DH カスタムジョブを再実行する必要があります。
4	DH カスタムジョブの実行が警告終了したことを示します。処理の一部で異常ケースである事象が発生したが、他の処理は継続したことを示します。
8	すでに他の DH カスタムジョブが実行されていたため、DH カスタムジョブが実行されなかったことを示します。
16	コマンドの実行が異常終了したことを示します。
32	JavaVM が異常終了したことを示します。

終了コード	内容
64	Java の実行に失敗したことを示します。環境設定ファイル (config.xml) の「JP1/DH - AJE (ジョブ実行プログラム) が使用するライブラリのインストールフォルダ<CmdJreHome>」に指定したフォルダ名を確認してください。
200	JP1/AJS3 - Agent (または Manager) とのインターフェースエラーが発生したことを示します。
201	環境設定変数 (config.xml) 参照エラーが発生したことを示します。
202	ログ出力エラーが発生したことを示します。
203	コマンドプロパティファイル出力エラーが発生したことを示します。
204	定義されたカスタムジョブからコマンドを実行できないエラー (メッセージファイル出力エラーまたはカスタムジョブ定義内容のエラー) が発生した事を示します。
205	システムが使用するファイルへの入力エラーまたは出力エラーが発生したことを示します。
206	致命的なエラーが発生したことを示します。
207	コマンド実行が動作不可能となるエラーが発生したことを示します。

(2) 実行結果詳細

DH カスタムジョブが標準エラー出力する内容を、JP1/AJS3 - View の [実行結果詳細] ダイアログボックスで確認できます。[実行結果詳細] ダイアログボックスは、[モニタ詳細] ダイアログボックスの [詳細] ボタンをクリックすることにより、表示できます。

図 4-10 [実行結果詳細] 画面



実行結果には、データの送信・受信の結果が表示されます。

(a) 正常終了時

(ア) 送信

ファイルの送信が正常終了したことを示すメッセージを表示します。例を次に示します。

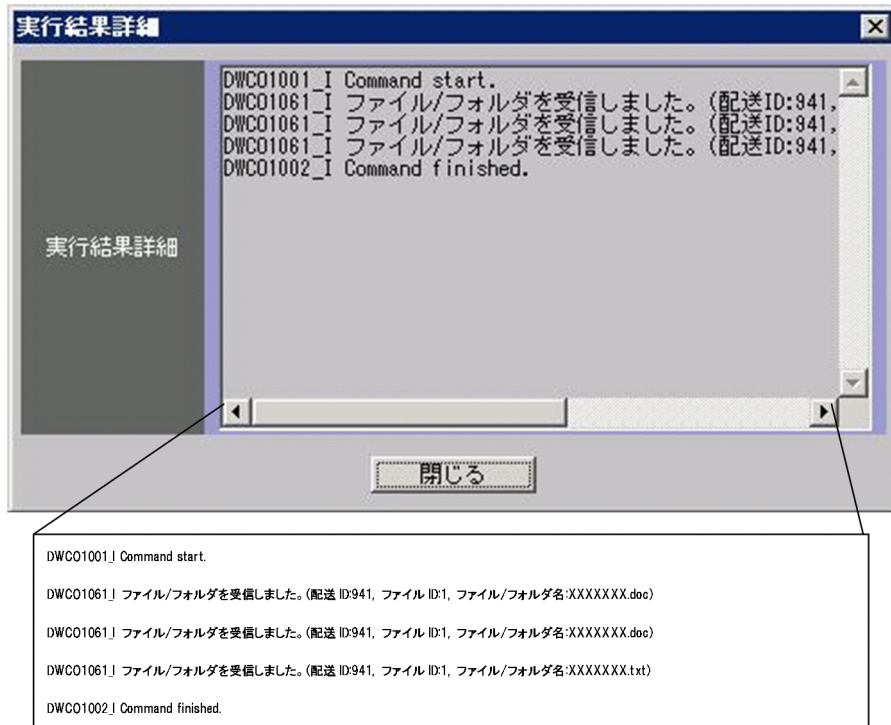
図 4-11 [実行結果詳細] 画面(送信正常終了)の例



(イ) 受信

受信したファイル名（フォルダ名）を表示します。例を次に示します。

図 4-12 [実行結果詳細] 画面（受信正常終了）の例



(b) 異常終了時

エラーメッセージを表示します。例を次に示します。

図 4-13 「実行結果詳細」画面（異常終了）の例



4.5 DH カスタムジョブ実行時の注意事項

DH カスタムジョブ実行時の注意事項を次に示します。

4.5.1 DH カスタムジョブを強制終了した場合

DH カスタムジョブを実行中に、DH カスタムジョブが JP1/AJS3 から強制終了されることがあります。強制終了されるケースは次のとおりです。

- JP1/AJS3 - View 画面からジョブを強制終了した場合
- 打ち切り時間経過により、ジョブが強制終了した場合
- JP1/AJS3 のサービス終了時に、ジョブの強制終了を指定した場合

Windows の場合、DH カスタムジョブが強制終了してもファイルの送信および受信は継続されます（Linux の場合、ファイルの送信および受信は強制終了します）。

しかし、DH カスタムジョブの終了コードには、JP1/AJS3 によって-1 が設定されるため、JP1/AJS3 - View の画面を用いて、ファイルの送信および受信が成功したかどうかを確認できません。次の手順で状態を確認し、対処してください。

1. 稼働ログの内、DH カスタムジョブが強制終了した時間のログを確認します。
2. 稼働ログに出力されたログの内容から、状態を判断します。ログの内容と状態を次の表に示します。

表 4-9 ログの内容と状態

稼働ログの内容	状態
出力無し	A
KDJH9300 JP1/DH - AJE(ジョブ実行)を開始しました。	B
KDJH9360 送信(データ送受信コマンド UPLOAD)の実行を開始しました。コマンドライン：コマンドライン または KDJH9364 受信(データ送受信コマンド DOWNLOAD)の実行を開始しました。コマンドライン：コマンドライン または KDJH9368 送信の再開(データ送受信コマンド RESUME)の実行を開始しました。コマンドライン：コマンドライン または KDJH9370 受信の再開(データ送受信コマンド RESUME)の実行を開始しました。コマンドライン：コマンドライン	C
KDJH9361 送信(データ送受信コマンド UPLOAD)の実行を終了しました。コマンドライン：コマンドライン または	D

稼働ログの内容	状態
KDJH9365 受信(データ送受信コマンド DOWNLOAD)の実行を終了しました。コマンドライン：コマンドライン	D
KDJH9301 JP1/DH - AJE(ジョブ実行)を終了しました。 または KDJH9369 送信の再開(データ送受信コマンド RESUME)の実行を終了しました。Return Code：データ送受信コマンドのリターンコード または KDJH9371 受信の再開(データ送受信コマンド RESUME)の実行を終了しました。Return Code：データ送受信コマンドのリターンコード	E

3. 状態が「A」「B」の場合、DH カスタムジョブを再実行します。
4. 状態が「D」「E」の場合、後続ジョブが存在すれば、それを実行します。
5. 状態が「C」の場合、次の手順で受信および送信の状態を確認します。
 1. 基本設定画面で設定した、ユーザ ID とパスワードを使用し、JP1/DH - Server へログインします。
 2. 送信の場合、送信ボックスを確認し、DH カスタムジョブの完了状態を確認します。送信が正常終了している場合、後続ジョブが存在すれば、それを実行します。送信が正常終了していない場合、送信が完了するまで待つか、または、送信を削除したあとに DH カスタムジョブを再実行します。
 3. 受信の場合、受信ボックスを確認し、DH カスタムジョブの完了状態を確認します。受信が正常終了している場合、後続ジョブが存在すれば、それを実行します。受信が正常終了していない場合、受信が完了するまで待ってから、後続ジョブが存在すれば、それを実行します。

4.5.2 実行結果が異常または警告だった場合の対処

終了コードを参照して問題の原因を調査し、対策をしてから再実行してください。JP1/DH - AJE の終了コードについては「[4.4.2\(1\) DH カスタムジョブの終了コード](#)」を参照してください。

なお、受信時には、DH カスタムジョブで指定した受信フォルダに、不完全なファイルまたはフォルダが残ることがあります。その場合、不要なファイルまたはフォルダを削除してください。

4.5.3 ログファイルの参照に関する注意事項

ログファイルを参照する場合、コピーしたログファイルを参照してください。ログファイル参照時に使用するプログラムによっては、参照するログファイルを排他制御します。排他制御された状態でジョブ定義プログラムやジョブ実行プログラムを使用した場合、ログファイルが正常に出力されないおそれがあります。

5

メッセージ

この章では、JP1/DH - AJE が出力するメッセージについて説明します。

5.1 メッセージの分類

メッセージの分類について、次に示します。

システムを運用中に、JP1/DH - AJE のメッセージだけでなく、この製品の前提プログラムである JP1/AJS3 のメッセージや、JP1/AJS3 の前提製品である JP1/Base のメッセージも出力されます。

JP1/DH - AJE, JP1/AJS3 および JP1/Base のそれぞれが出力するメッセージの説明が、どこに記載されているかを、メッセージ ID ごとに次の表に示します。

表 5-1 メッセージの記載先

メッセージ ID	メッセージが記載されている箇所
KDJH で始まるメッセージ	[5.5 JP1/DH - AJE の共通メッセージ] [5.6 JP1/DH - AJE (ジョブ定義プログラム) のメッセージ] [5.7 JP1/DH - AJE (ジョブ実行プログラム) のメッセージ] [5.8 インストーラのメッセージ]
DWCO で始まるサブメッセージ	[7.4.2 データ送受信コマンドのメッセージ]
KAJP で始まるメッセージ	マニュアル「JP1/Base メッセージ」
KAVA で始まるメッセージ	
KAIU で始まるメッセージ	
KNAM で始まるメッセージ	
KAVC で始まるメッセージ	マニュアル「JP1/Automatic Job Management System 3 メッセージ 1」
KAVS で始まるメッセージ	
KAVT で始まるメッセージ	
KAVU で始まるメッセージ	マニュアル「JP1/Automatic Job Management System 3 メッセージ 2」
KAVV で始まるメッセージ	
KFP で始まるメッセージ	
KNAC で始まるメッセージ	
KNAD で始まるメッセージ	

5.2 メッセージの出力形式

メッセージの形式を、次に示します。

メッセージは、メッセージ ID とそれに続くメッセージテキストで構成されます。

5.2.1 メッセージの出力形式

(1) KDJH で始まるメッセージ

JP1/DH - AJE が出力するメッセージは、メッセージ ID とそれに続くメッセージテキストで構成されます。メッセージの形式を次に示します。

KDJHnnnn-Z [メッセージテキスト]

メッセージ ID は次の内容を示しています。

K

システム識別子を示します。

DJH

JP1/DH のメッセージであることを示します。

nnnn

メッセージの通し番号を示します。

Z

メッセージの種類を示します。

- E
エラーメッセージです。システムエラーが発生したことを示します。メッセージ出力後、処理は中止します。
- W
警告メッセージです。ユーザ操作などに問題があったことを示します。メッセージ出力後、処理は継続できます。
- I
ユーザ通知メッセージです。ユーザに情報を知らせます。
- Q
問い合わせメッセージです。ユーザに実行の選択を問い合わせます。

(2) DWCO で始まるサブメッセージ

データ送受信コマンドが出力するメッセージを、KDJDH9381-E の Contents（内容）部分と、KDJDH9390-I にサブメッセージとして出力します。メッセージの詳細は「[7.4.2 データ送受信コマンドのメッセージ](#)」を参照してください。

5.3 メッセージ記載形式

メッセージ一覧の記載形式について説明します。

メッセージ ID

メッセージテキスト

メッセージの説明文

(S)

システムの処置を示します。

(O)

メッセージが出力されたときに、オペレータの取る処置を示します。

補足説明

- メッセージテキスト中に斜体で記載されている個所は、その文字列が状態に応じて変更になることを示します。

5.4 メッセージの出力先

メッセージの出力先について、次に示します。

JP1/DH - AJE が出力するメッセージの種類ごとに、出力先を一覧で示します。メッセージの種類によって出力先が異なるため、注意してください。

表中では、出力先を凡例のように表記しています。

(凡例)

stdout：標準出力

stderr：標準エラー出力

稼働ログ：JP1/DH - AJE の稼働ログファイル

ダイアログ：メッセージダイアログボックス

○：JP1/DH - AJE のジョブ定義プログラムとジョブ実行プログラムが出力します。

◎：JP1/DH - AJE (ジョブ定義プログラム)が出力します。

●：JP1/DH - AJE (ジョブ実行プログラム)が出力します。

－：出力しません。

表 5-2 メッセージの出力先

メッセージ ID	出力先			
	stdout	stderr	稼働ログ	ダイアログ
KDJH9000-E	－	●	－	◎
KDJH9001-E				
KDJH9002-E				
KDJH9003-E				
KDJH9004-E				
KDJH9029-E				
KDJH9039-E				
KDJH9059-E				
KDJH9100-I	－	－	◎	－
KDJH9101-I				
KDJH9130-I				
KDJH9131-I				
KDJH9132-I				
KDJH9133-I				

メッセージID	出力先			
	stdout	stderr	稼働ログ	ダイアログ
KDJH9102-E	—	—	◎	◎
KDJH9134-E				
KDJH9135-E				
KDJH9136-E				
KDJH9250-E				
KDJH9251-E				
KDJH9110-E	—	—	—	◎
KDJH9111-E				
KDJH9112-E				
KDJH9129-E				
KDJH9160-E				
KDJH9161-E				
KDJH9162-E				
KDJH9163-E				
KDJH9164-E				
KDJH9165-E				
KDJH9166-E				
KDJH9167-E				
KDJH9168-E				
KDJH9169-E				
KDJH9170-E				
KDJH9190-E				
KDJH9191-E				
KDJH9210-E				
KDJH9211-E				
KDJH9212-E				
KDJH9213-E				
KDJH9214-E				
KDJH9215-E				
KDJH9216-E				

メッセージID	出力先			
	stdout	stderr	稼働ログ	ダイアログ
KDJH9300-I	—	—	●	—
KDJH9301-I				
KDJH9340-I				
KDJH9350-I				
KDJH9360-I				
KDJH9361-I				
KDJH9362-I				
KDJH9363-E				
KDJH9364-I				
KDJH9365-I				
KDJH9366-I				
KDJH9367-E				
KDJH9368-I				
KDJH9369-I				
KDJH9370-I				
KDJH9371-I				
KDJH9380-I				
KDJH9381-E				
KDJH9390-I				
KDJH9460-E				
KDJH9461-E				
KDJH9302-E	—	●	●	—
KDJH9330-E				
KDJH9331-E				
KDJH9332-E				
KDJH9333-E				
KDJH9334-E				
KDJH9335-E				
KDJH9336-E				
KDJH9337-E				

メッセージID	出力先			
	stdout	stderr	稼働ログ	ダイアログ
KDJH9338-E	—	●	●	—
KDJH9462-E				
KDJH9310-E	—	●	—	—
KDJH9311-E				
KDJH9901-E	—	—	—	○
KDJH9902-E				
KDJH9903-E				
KDJH9904-E				
KDJH9905-E				
KDJH9906-E				
KDJH9907-E				
KDJH9908-E				
KDJH9909-E				

5.5 JP1/DH - AJE の共通メッセージ

KDJH9000-E

環境設定ファイルの読み込みに失敗しました。 原因：原因

環境設定ファイルの読み込みに失敗しました。

(S)

プログラムを終了します。

(O)

原因に示された内容を確認して、エラー原因を取り除いてください。

- 環境設定ファイルが存在するか確認してください。
- 環境設定ファイルの読み込み権限が DH カスタムジョブの実行ユーザに与えられているか確認してください。
- 環境設定ファイルの定義項目以外の箇所を不当に編集していないか確認してください。
- 環境設定ファイルを削除した場合は、テンプレートファイルをコピーしてください。また、編集によってファイルを壊した場合は、テンプレートファイルをコピーしてから、必要に応じて再度編集しなおしてください。

KDJH9001-E

環境設定ファイルの内容に誤りがあります。 原因：原因

環境設定ファイルの内容に誤りがあります。

(S)

プログラムを終了します。

(O)

原因に示された内容を確認して、エラー原因を取り除いてください。

- 環境設定ファイルに該当項目のタグ名がない、または記載に誤りがないか確認してください。
- 環境設定ファイルの該当項目に設定された値を確認してください。

KDJH9002-E

環境設定ファイルの読み込み中に予期しないエラーが発生しました。 原因：原因

環境設定ファイルの読み込み中に予期しないエラーが発生しました。

(S)

プログラムを終了します。

(O)

システム管理者に連絡してください。

KDJH9003-E

An installation folder name of the program cannot be acquired.

インストールフォルダ名の取得に失敗しました。

(S)

プログラムを終了します。

(O)

システム管理者に連絡してください。

KDJH9004-E

An unexpected error occurred during the reading of ファイル名

ファイル名 ファイルの読み込み中に予期せぬエラーが発生しました。

(S)

プログラムを終了します。

(O)

システム管理者に連絡してください。

KDJH9029-E

環境設定ファイルの読み込み中に予期しないエラーが発生しました。JP1/DH-AJE を終了します。

環境設定ファイルの読み込み中に予期しないエラーが発生しました。

(S)

プログラムを終了します。

(O)

システム管理者に連絡してください。

KDJH9039-E

An unexpected error occurred. Terminates the processing of the JP1/DH-AJE.

JP1/DH - AJE の起動中に予期しないエラーが発生しました。

(S)

プログラムを終了します。

(O)

システム管理者に連絡してください。

KDJH9059-E

ログファイルが出力できません。原因：原因。JP1/DH-AJE を終了します。

稼働ログファイル，または内部トレースログファイルの出力に失敗しました。

(S)

プログラムを終了します。

(O)

原因に示された内容を確認して，エラー原因を取り除いてください。

- 環境設定ファイルのログ出力先フォルダの設定を確認してください。
- 環境設定ファイルのログ出力先フォルダの書き込み権限が実行ユーザに与えられているか確認してください。
- 他のユーザがログファイルを占有していないか確認してください。

5.6 JP1/DH - AJE (ジョブ定義プログラム) のメッセージ

KDJH9100-I

JP1/DH - AJE(ジョブ定義)を開始しました。

JP1/DH - AJE(ジョブ定義)を開始しました。

(S)

特に無し。

(O)

特に無し。

KDJH9101-I

JP1/DH - AJE(ジョブ定義)を終了しました。

JP1/DH - AJE(ジョブ定義)を終了しました。

(S)

特に無し。

(O)

特に無し。

KDJH9102-E

JP1/DH - AJE(ジョブ定義)が起動できません。詳細情報：[詳細情報](#)

JP1/DH - AJE(ジョブ定義)が起動できません。

(S)

プログラムを終了します。

(O)

JP1/DH - AJE(ジョブ定義)は、JP1/AJS3 - View と連携して起動します。それ以外の方法では起動できません。JP1/AJS3 と連携して起動を行いこのメッセージが出力された場合は、システム管理者に連絡してください。

KDJH9110-E

Boot program has failed getting the installation path of JP1/DH-AJE (Job Definition). : [詳細情報](#), Error code : エラーコード

JP1/DH - AJE(ジョブ定義)の起動プログラムが、JP1/DH - AJE(ジョブ定義)のインストールパスの取得に失敗しました。

(S)

プログラムを終了します。

(O)

システム管理者に連絡して、エラー原因の除去を依頼してください。

KDJH9111-E

Boot program of JP1/DH-AJE (Job Definition) has failed with an unexpected error.

JP1/DH - AJE(ジョブ定義)の起動プログラムが予期せぬエラーで終了しました。

(S)

プログラムを終了します。

(O)

システム管理者に連絡して、エラー原因の除去を依頼してください。

KDJH9112-E

Boot program of JP1/DH-AJE (Job Definition) has failed outputting to a log file.
Cause: 原因.

JP1/DH - AJE(ジョブ定義)の起動プログラムがログファイル出力に失敗しました。

(S)

プログラムを終了します。

(O)

システム管理者に連絡して、エラー原因の除去を依頼してください。

KDJH9129-E

予期しないエラーが発生したため、JP1/DH - AJE(ジョブ定義)を終了しました。

JP1/DH - AJE(ジョブ定義)で、予期しないエラーが発生しました。

(S)

プログラムを終了します。

(O)

システム管理者に連絡して、エラー原因の除去を依頼してください。

KDJH9130-I

カスタムジョブ定義ファイルの入力を開始しました。

カスタムジョブ定義ファイルの入力を開始しました。

(S)

特に無し。

(O)

特に無し。

KDJH9131-I

カスタムジョブ定義ファイルを入力しました。

カスタムジョブ定義ファイルを入力しました。

(S)

特に無し。

(O)

特に無し。

KDJH9132-I

カスタムジョブ定義ファイルの出力を開始しました。

カスタムジョブ定義ファイルの出力を開始しました。

(S)

特に無し。

(O)

特に無し。

KDJH9133-I

カスタムジョブ定義ファイルを出力しました。

カスタムジョブ定義ファイルを出力しました。

(S)

特に無し。

(O)

特に無し。

KDJH9134-E

カスタムジョブ定義ファイルの入力に失敗しました。詳細情報：*詳細情報*，原因：*原因*

カスタムジョブ定義ファイルの入力に失敗しました。

(S)

プログラムを終了します。

(O)

システム管理者に連絡して、エラー原因の除去を依頼してください。

KDJH9135-E

カスタムジョブ定義ファイルの形式が不正です。詳細情報：詳細情報

カスタムジョブ定義ファイルの形式が不正です。

(S)

プログラムを終了します。

(O)

config.xml 不正によりエラーが発生し、config.xml を修正したあとに DH カスタムジョブを定義しようとして、このエラーが発生した場合、[詳細定義-[Custom Job]]画面の[キャンセル]ボタンを押下し、再度 DH カスタムジョブを定義してください。このエラーが発生したあとに[詳細定義-[Custom Job]]画面の[OK]ボタンを押下し、DH カスタムジョブを作成した場合、そのジョブを削除して、再度 DH カスタムジョブを定義してください。

上記のケース以外で、JP1/DH - AJE(ジョブ定義)を実行する前に、次に示す方法でジョブの定義をしていない場合は、システム管理者に連絡してください。

- ジョブを定義する方法の一つとして、ユニット定義ファイルにユニットを定義し、ajsdefine コマンドを実行するとジョブの登録ができます。この方法で JP1/DH - AJE のカスタムジョブの登録をした場合は、メッセージの内容に表示された情報をユニット定義ファイルで確認しエラー要因を取り除いてください。なお、ユニット定義ファイルの詳細については、マニュアル「JP1/Automatic Job Management System 3 コマンドリファレンス 2」を参照してください。

KDJH9136-E

カスタムジョブ定義ファイルの出力に失敗しました。詳細情報：詳細情報，原因：原因

カスタムジョブ定義ファイルの出力に失敗しました。

(S)

プログラムを終了します。

(O)

原因に示された内容を確認して、エラー原因を取り除いてください。

- 詳細情報にファイル名が表示されている場合、該当するファイルまたはフォルダの書き読み込み権限が実行ユーザに与えられているか確認してください。

KDJH9160-E

宛先の名前には、30 文字以内の文字列、または JP1/AJS のマクロ変数を指定してください。
なお、宛先の名前には、記号(/¥?*:"'<>@^)は使用できません。また、空白のみ、またはピリオド(.)のみの名前も使用できません。

宛先の名前の指定内容が正しくありません。

(S)

入力画面に戻ります。

(O)

宛先の名前に指定した値を確認して、正しい値を入力してください。

KDJH9161-E

宛先のメールアドレスには、256 文字以内の文字列、または JP1/AJS のマクロ変数を指定してください。
なお、宛先のメールアドレスにマルチバイト文字、コロン (:), ダブルクォート (") は使用できません。

宛先のメールアドレスの指定内容が正しくありません。

(S)

入力画面に戻ります。

(O)

宛先のメールアドレスに指定した値を確認して、正しい値を入力してください。

KDJH9162-E

宛先の所属には、30 文字以内の文字列、または JP1/AJS のマクロ変数を指定してください。
なお、宛先の所属にはコロン (:), ダブルクォート (") は使用できません。

宛先の所属の指定内容が正しくありません。

(S)

入力画面に戻ります。

(O)

宛先の所属に指定した値を確認して、正しい値を入力してください。

KDJH9163-E

通知件名には、30 文字以内の文字列、または JP1/AJS のマクロ変数を指定してください。
なお、通知件名にはダブルクォート (") は使用できません。

通知件名の指定内容が正しくありません。

(S)

入力画面に戻ります。

(O)

通知件名に指定した値を確認して、正しい値を入力してください。

KDJH9164-E

通知本文には、1,000 文字以内の文字列、または JP1/AJS のマクロ変数を指定してください。
なお、通知本文にはダブルクォート (") は使用できません。

通知本文の指定内容が正しくありません。

(S)

入力画面に戻ります。

(O)

通知本文に指定した値を確認して、正しい値を入力してください。

KDJH9165-E

送信ファイル／フォルダには、255 文字以内の文字列、または JP1/AJS のマクロ変数を指定してください。
なお、送信ファイル／フォルダにはダブルクォート (") は使用できません。

送信ファイル／フォルダの指定が正しくありません。

(S)

入力画面に戻ります。

(O)

送信ファイル／フォルダに指定した値を確認して、正しい値を入力してください。

KDJH9166-E

開封パスワードには、6 文字以上 32 文字以内の半角英数字と記号で、2 種類以上の文字種（数字、英小文字、英大文字、記号）を指定してください。記号には、次の文字が使用できます。
!"#\$%&'()*+,-./:;<=>?[¥]^_`{|}~

開封パスワードの指定内容が正しくありません。

(S)

入力画面に戻ります。

(O)

開封パスワードに指定した値を確認して、正しい値を入力してください。

KDJH9167-E

「別ジョブが終了するまで待機する」に指定する数値は、0～86400 までの数値を指定してください。

「別ジョブが終了するまで待機する」に指定する値が正しくありません。

(S)

入力画面に戻ります。

(O)

「別ジョブが終了するまで待機する」に指定した数値を確認して、正しい値を入力してください。

KDJH9168-E

宛先には、メールアドレスの指定が必須です。

メールアドレス/グループ名が指定されていない宛先があります。

(S)

入力画面に戻ります。

(O)

宛先に、メールアドレス/グループ名を入力してください。

KDJH9169-E

開封パスワードと開封パスワード確認が一致していません。

開封パスワードと開封パスワード確認が一致していません。

(S)

入力画面に戻ります。

(O)

開封パスワード確認に、開封パスワードと同じ内容を入力してください。

KDJH9170-E

同時に指定できない特殊記号 (&"<>^|¥%) と半角スペースが項目に指定されています。

送信画面の項目の内、宛先：メールアドレス、宛先：名前、宛先：所属、または通知件名において、特殊記号と半角スペースが同時に使用されています。

(S)

入力画面に戻ります。

(O)

エラーとなった項目に正しい値を入力してください。

KDJH9190-E

受信フォルダには、255 文字以内の文字列、または JP1/AJS のマクロ変数を指定してください。
なお、受信フォルダにはダブルクォート (") は使用できません。

受信フォルダの指定内容が正しくありません。

(S)

入力画面に戻ります。

(O)

受信フォルダに指定した値を確認して、正しい値を入力してください。

KDJH9191-E

「別ジョブが終了するまで待機する」に指定する数値は、0~86400 までの数値を指定してください。

「別ジョブが終了するまで待機する」に指定する値が正しくありません。

(S)

入力画面に戻ります。

(O)

「別ジョブが終了するまで待機する」に指定した値を確認して、正しい値を入力してください。

KDJH9210-E

接続先サーバ URL には、256 文字以内の文字列を指定してください。または JP1/AJS のマクロ変数を指定してください。
なお、接続先サーバ URL にはダブルクォート (") は使用できません。

接続先サーバ URL の指定内容が正しくありません。

(S)

入力画面に戻ります。

(O)

接続先サーバ URL に指定した値を確認して、正しい値を入力してください。

KDJH9211-E

ユーザ ID には、256 文字以内の文字列を指定してください。または JP1/AJS のマクロ変数を指定してください。

なお、ユーザ ID にはマルチバイト文字、ダブルクォート (") は使用できません。

ユーザ ID の指定内容が正しくありません。

(S)

入力画面に戻ります。

(O)

ユーザ ID に指定した値を確認して、正しい値を入力してください。

KDJH9212-E

パスワードには、256 文字以内の文字列を指定してください。

なお、パスワードにはマルチバイト文字、ダブルクォート (") は使用できません。

パスワードの指定内容が正しくありません。

(S)

入力画面に戻ります。

(O)

パスワードに指定した値を確認して、正しい値を入力してください。

KDJH9213-E

プロキシ設定のホスト名には、256 文字以内の文字列を指定してください。または JP1/AJS のマクロ変数を指定してください。

なお、プロキシ設定のホスト名にはダブルクォート (") は使用できません。

プロキシ設定のホスト名の指定内容が正しくありません。

(S)

入力画面に戻ります。

(O)

プロキシ設定のホスト名に指定した値を確認して、正しい値を入力してください。

KDJH9214-E

プロキシ設定のポート番号には、0～65535 までの数値を指定してください。または JP1/AJS のマクロ変数を指定してください。

プロキシ設定のポート番号に指定する数値が正しくありません。

(S)

入力画面に戻ります。

(O)

プロキシ設定のポート番号に指定した値を確認して、正しい値を入力してください。

KDJH9215-E

プロキシ設定の認証 ID には、256 文字以内の文字列を指定してください。または JP1/AJS のマクロ変数を指定してください。

なお、認証 ID にはマルチバイト文字、ダブルクォート (") は使用できません。

プロキシ設定の認証 ID の指定内容が正しくありません。

(S)

入力画面に戻ります。

(O)

プロキシ設定の認証 ID に指定した値を確認して、正しい値を入力してください。

KDJH9216-E

プロキシ設定の認証パスワードには、256 文字以内の文字列を指定してください。

なお、認証パスワードにはマルチバイト文字、ダブルクォート (") は使用できません。

プロキシ設定の認証パスワードの指定内容が正しくありません。

(S)

入力画面に戻ります。

(O)

プロキシ設定の認証パスワードに指定した値を確認して、正しい値を入力してください。

KDJH9250-E

JP1/DH-AJE(ジョブ定義)の起動中に予期しないエラーが発生しました。詳細情報：[詳細情報](#)，エラーコード：エラーコード

JP1/DH - AJE(ジョブ定義)の起動中に予期しないエラーが発生しました。

(S)

プログラムを終了します。

(O)

システム管理者に連絡して、エラー原因の除去を依頼してください。

KDJH9251-E

予期しないエラーが発生しました。詳細情報：[詳細情報](#)

JP1/DH - AJE(ジョブ定義)の実行中に予期しないエラーが発生しました。

(S)

プログラムを終了します。

(O)

システム管理者に連絡して、エラー原因の除去を依頼してください。

5.7 JP1/DH - AJE (ジョブ実行プログラム) のメッセージ

KDJH9300-I

JP1/DH - AJE(ジョブ実行)を開始しました。

JP1/DH - AJE(ジョブ実行)を開始しました。

(S)

特に無し。

(O)

特に無し。

KDJH9301-I

JP1/DH - AJE(ジョブ実行)を終了しました。

JP1/DH - AJE(ジョブ実行)を終了しました。

(S)

特に無し。

(O)

特に無し。

KDJH9302-E

JP1/DH - AJE(ジョブ実行)が起動できません。

(S)

プログラムを終了します。

(O)

JP1/DH - AJE(ジョブ実行)は、JP1/AJS3 - Manager/Agent と連携して起動します。それ以外の方法では起動できません。JP1/AJS3 と連携して起動を行いこのメッセージが出力された場合は、システム管理者に連絡してください。

KDJH9310-E

Boot program has failed getting the installation path of JP1/DH-AJE (Job Execution). : 詳細情報, Error code : エラーコード

JP1/DH - AJE(ジョブ実行)の起動プログラムが、JP1/DH - AJE(ジョブ実行)のインストールパスの取得に失敗しました。

(S)

プログラムを終了します。

(O)

システム管理者に連絡して、エラー原因の除去を依頼してください。

KDJH9311-E

Boot program of JP1/DH-AJE (Job Execution) has failed with an unexpected error.

JP1/DH - AJE(ジョブ実行)の起動プログラムが、予期せぬエラーで終了しました。

(S)

プログラムを終了します。

(O)

システム管理者に連絡して、エラー原因の除去を依頼してください。

KDJH9330-E

カスタムジョブ定義の形式が不正です。詳細情報：パラメータ名

JP1/DH - AJE(ジョブ実行)が実行しようとした DH カスタムジョブの定義の形式が不正です。

(S)

プログラムを終了します。

(O)

JP1/AJS3 のインポート機能を使用してジョブ定義を行った場合は、ジョブ定義内容を確認して再度インポートするか、当該ジョブを削除して再作成してください。インポート機能をしなくてこのメッセージが表示された場合はシステム管理者に連絡してください。

KDJH9331-E

コマンドプロパティファイルの出力に失敗しました。原因：原因

コマンドプロパティファイルの出力に失敗しました。

(S)

プログラムを終了します。

(O)

原因に示された内容を確認して、エラー原因を取り除いてください。

- 原因にファイル名が表示されている場合、該当するファイルまたはフォルダの書き読み込み権限が実行ユーザに与えられているか確認してください。

KDJH9332-E

メッセージファイルの出力に失敗しました。原因：原因

メッセージファイルの出力に失敗しました。

(S)

プログラムを終了します。

(O)

原因に示された内容を確認して、エラー原因を取り除いてください。

- 原因にファイル名が表示されている場合、該当するファイルまたはフォルダの書き読み込み権限が実行ユーザに与えられているか確認してください。

KDJH9333-E

受信済み配送リスト管理ファイルの読み込みに失敗しました。原因：原因

システムが使用するファイルの読み込みに失敗しました。(受信済み配送リストとは、システムが使用しているファイルのことです。)

(S)

プログラムを終了します。

(O)

原因に示された内容を確認して、エラー原因を取り除いてください。

- ジョブ実行プログラム環境設定ファイルの<RecvListDir>に定義されているフォルダの存在を確認してください。フォルダが存在する場合、フォルダとフォルダ以下のファイルの読み込み権限が実行ユーザに与えられているか確認してください。<RecvListDir>の設定詳細は、[「3.3.2\(1\) ジョブ実行プログラム環境設定ファイル」](#)を参照してください。

KDJH9334-E

受信済み配送リスト管理ファイルの内容に誤りがあります。原因：原因

システムが使用するファイルの内容に誤りがあります。(受信済み配送リストとは、システムが使用しているファイルのことです。)

(S)

プログラムを終了します。

(O)

原因に示された内容を確認して、エラー原因を取り除いてください。

- バックアップしているジョブ実行プログラム環境設定ファイルの<RecvListDir>に定義されているフォルダを上書きしてください。詳細は「[6.4.2 JP1/DH - AJE（ジョブ実行プログラム）のリストア](#)」を参照してください。
- バックアップが無い場合、ジョブ実行プログラム環境設定ファイルの<RecvListDir>に定義されているフォルダ以下のファイルを削除してください。その場合、すでに受信済みのファイルが再度受信されることがあります。<RecvListDir>の詳細は、「[3.3.2\(1\) ジョブ実行プログラム環境設定ファイル](#)」を参照してください。

KDJH9335-E

受信済み配送リスト管理ファイルの読み込み中に予期しないエラーが発生しました。原因：原因

システムが使用するファイルの読み込み中に予期しないエラーが発生しました。（受信済み配送リストとは、システムが使用しているファイルのことです。）

(S)

プログラムを終了します。

(O)

システム管理者に連絡してください。

KDJH9336-E

受信済み配送リスト管理ファイルの読み込み中に予期しないエラーが発生しました。JP1/DH-AJE を終了します。

システムが使用するファイルの読み込み中に予期しないエラーが発生しました。（受信済み配送リストとは、システムが使用しているファイルのことです。）

(S)

プログラムを終了します。

(O)

システム管理者に連絡してください。

KDJH9337-E

同時に指定できない特殊記号（&"<>^|¥%）と半角スペースが指定されています。原因：原因

カスタムジョブ定義において、同時に指定できない特殊記号（&"<>^|¥%）と半角スペースが指定されているため、DH カスタムジョブが実行できません。

(S)

プログラムを終了します。

(O)

JP1/AJS3 のインポート機能を使用してジョブ定義を行った場合は、ジョブ定義内容を確認して再度インポートするか、当該ジョブを削除して再作成してください。インポート機能をしなくてこのメッセージが表示された場合はシステム管理者に連絡してください。

KDJH9338-E

指定できないダブルクォート (") が指定されています。原因：原因

カスタムジョブ定義において、指定できないダブルクォート (") が指定されているため、DH カスタムジョブが実行できません。

(S)

プログラムを終了します。

(O)

JP1/AJS3 のインポート機能を使用してジョブ定義を行った場合は、ジョブ定義内容を確認して再度インポートするか、当該ジョブを削除して再作成してください。インポート機能をしなくてこのメッセージが表示された場合はシステム管理者に連絡してください。

KDJH9340-I

環境変数を設定しました。環境変数：DW_CMD_JRE_HOME=JAVA インストールフォルダ
USERNAME=ユーザ名 USERNAME(HASH)=ユーザ名のハッシュ値 TMP=ワークフォルダ

ジョブ実行プログラムが環境変数を設定しました。

(S)

特に無し。

(O)

特に無し。

KDJH9350-I

受信済み配送リスト管理ファイルを他のプロセスが処理中です。再度、受信済み配送リスト管理ファイルの解析処理を実施します。

システムが使用するファイルに対して、複数のプロセスが同時にアクセスしました。(受信済み配送リストとは、システムが使用しているファイルのことです。)

(S)

監視間隔を待ったあと、処理を続行します。

(O)

このメッセージが連続して出力され DH カスタムジョブがエラーとなる場合

- ・ システムが使用するロックファイルが存在すれば削除してください。

ロックファイル名

Windows の場合：

＜ジョブ実行プログラムの環境設定ファイルの<RecvListDir>で定義したフォルダ＞

¥recvuserlist.xml.lck

Linux の場合：

/opt/jp1dh/aje/ajee/recvlist/recvuserlist.xml.lck

- ・ DH カスタムジョブを多重に実行している場合，多重度を見直してください。

KDJH9360-I

送信(データ送受信コマンド UPLOAD)の実行を開始しました。コマンドライン：コマンドライン

送信(データ送受信コマンド UPLOAD)の実行を開始しました。

(データ送受信コマンド の部分は，Windows の場合は DWClient.bat，Linux の場合は DWClient.sh と表示されます。)

(S)

特に無し。

(O)

特に無し。

KDJH9361-I

送信(データ送受信コマンド UPLOAD)の実行を終了しました。コマンドライン：コマンドライン

送信(データ送受信コマンド UPLOAD)の実行を終了しました。

(データ送受信コマンド の部分は，Windows の場合は DWClient.bat，Linux の場合は DWClient.sh と表示されます。)

(S)

特に無し。

(O)

特に無し。

KDJH9362-I

送信(データ送受信コマンド UPLOAD)が正常に終了しました。

送信(データ送受信コマンド UPLOAD)が正常に終了しました。

(データ送受信コマンド の部分は、Windows の場合は DWClient.bat, Linux の場合は DWClient.sh と表示されます。)

(S)

特に無し。

(O)

特に無し。

KDJH9363-E

送信(データ送受信コマンド UPLOAD)の実行中にエラーが発生しました。

送信(データ送受信コマンド UPLOAD)の実行中にエラーが発生しました。

(データ送受信コマンド の部分は、Windows の場合は DWClient.bat, Linux の場合は DWClient.sh と表示されます。)

(S)

プログラムを終了します。

(O)

実行結果詳細画面、または [KDJH9390-I](#) に表示される、DH カスタムジョブ実行時のサブメッセージを確認し、対処に従ってエラー要因を取り除いてから、再度配信要求をしてください。

KDJH9364-I

受信(データ送受信コマンド DOWNLOAD)の実行を開始しました。コマンドライン：コマンドライン

受信(データ送受信コマンド DOWNLOAD)の実行を開始しました。

(データ送受信コマンド の部分は、Windows の場合は DWClient.bat, Linux の場合は DWClient.sh と表示されます。)

(S)

特に無し。

(O)

特に無し。

KDJH9365-I

受信(データ送受信コマンド DOWNLOAD)の実行を終了しました。コマンドライン：コマンドライン

受信(データ送受信コマンド DOWNLOAD)の実行を終了しました。

(データ送受信コマンド の部分は、Windows の場合は DWClient.bat, Linux の場合は DWClient.sh と表示されます。)

(S)

特に無し。

(O)

特に無し。

KDJH9366-I

受信(データ送受信コマンド DOWNLOAD)が正常に終了しました。

受信(データ送受信コマンド DOWNLOAD)が正常に終了しました。

(データ送受信コマンド の部分は、Windows の場合は DWClient.bat, Linux の場合は DWClient.sh と表示されます。)

(S)

特に無し。

(O)

特に無し。

KDJH9367-E

受信(データ送受信コマンド DOWNLOAD)の実行中にエラーが発生しました。

受信(データ送受信コマンド DOWNLOAD)の実行中にエラーが発生しました。

(データ送受信コマンド の部分は、Windows の場合は DWClient.bat, Linux の場合は DWClient.sh と表示されます。)

(S)

プログラムを終了します。

(O)

実行結果詳細画面、または [KDJH9390-I](#) に表示される、DH カスタムジョブ実行時のサブメッセージを確認し、対処に従ってエラー要因を取り除いてから、再度配信要求をしてください。

KDJH9368-I

送信の再開(データ送受信コマンド RESUME)の実行を開始しました。コマンドライン：コマンドライン

送信の再開(データ送受信コマンド RESUME)の実行を開始しました。

(データ送受信コマンド の部分は、Windows の場合は DWClient.bat, Linux の場合は DWClient.sh と表示されます。)

(S)

特に無し。

(O)

特に無し。

KDJH9369-I

送信の再開(データ送受信コマンド RESUME)の実行を終了しました。Return Code:データ送受信コマンドのリターンコード

送信の再開(データ送受信コマンド RESUME)の実行を終了しました。

(データ送受信コマンド の部分は、Windows の場合は DWClient.bat, Linux の場合は DWClient.sh と表示されます。)

(S)

特に無し。

(O)

特に無し。

KDJH9370-I

受信の再開(データ送受信コマンド RESUME)の実行を開始しました。コマンドライン：コマンドライン

受信の再開(データ送受信コマンド RESUME)の実行を開始しました。

(データ送受信コマンド の部分は、Windows の場合は DWClient.bat, Linux の場合は DWClient.sh と表示されます。)

(S)

特に無し。

(O)

特に無し。

KDJH9371-I

受信の再開(データ送受信コマンド RESUME)の実行を終了しました。Return Code:データ送受信コマンドのリターンコード

受信の再開(データ送受信コマンド RESUME)の実行を終了しました。

(データ送受信コマンドの部分は、Windowsの場合はDWClient.bat、Linuxの場合はDWClient.shと表示されます。)

(S)

特に無し。

(O)

特に無し。

KDJH9380-I

AJSJOBNAME:ジョブ名, AJS_AJSCONF:スケジューラーサービス名, AJSEEXECID:ジョブ実行 ID, JP1JobID:ジョブ番号, COMMAND:(*UPLOAD or DOWNLOAD*), Return Code:データ送受信コマンドのリターンコード

データ送受信コマンドが正常終了した場合の結果を表示します。

(S)

特に無し。

(O)

データ送受信コマンドが正常に終了した時、このメッセージは出力されます。

- AJSJOBNAME, AJS_AJSCONF, AJSEEXECID, JP1JobID に出力される値は、JP1/AJS3 からジョブ実行時に設定される環境変数の値です。JP1/AJSのジョブを特定する必要がある場合、使用してください。環境変数の詳細については、マニュアル「JP1/Automatic Job Management System 3 コマンドリファレンス 1」を参照してください。
- COMMAND に出力される値は、ジョブ実行されたデータ送受信コマンドが送信コマンドか受信コマンドかを示します。
- Return Code には、データ送受信コマンドのリターンコードが出力されます。

KDJH9381-E

AJSJOBNAME:ジョブ名, AJS_AJSCONF:スケジューラーサービス名, AJSEEXECID:ジョブ実行 ID, JP1JobID:ジョブ番号, COMMAND:(*UPLOAD or DOWNLOAD*), Return Code:データ送受信コマンドのリターンコード, Contents:データ送受信コマンドが表示するメッセージのうち、先頭がメッセージID (*DWCxxxx-E*) のもの(複数行有る場合、[,] 区切りで連結し表示)

データ送受信コマンドが異常終了した場合の結果を表示します。

(S)

プログラムを終了します。

(O)

データ送受信コマンドが異常終了した時、このメッセージは出力されます。

データ送受信コマンドで発生したエラーの内容を確認し、エラー要因を取り除いてから、再度データ送受信コマンドの実行要求をしてください。

- DH カスタムジョブ定義画面で指定した定義項目に誤りがないか確認してください。
- JP1/DH - Server の設定に誤りがないか確認してください。
- AJSJOBNAME, AJS_AJSCONF, AJSEXECID, JP1JobID に出力される値は、JP1/AJS3 からジョブ実行時に設定される環境変数の値です。JP1/AJS3 のジョブを特定する必要がある場合、使用してください。環境変数の詳細については、マニュアル「JP1/Automatic Job Management System 3 コマンドリファレンス 1」を参照してください。
- COMMAND に出力される値は、ジョブ実行されたデータ送受信コマンドが送信コマンドか受信コマンドかを示します。
- Return Code には、データ送受信コマンドのリターンコードが出力されます。
- Contents には、実行されたデータ送受信コマンドのエラーメッセージが表示されます。

また、受信カスタムジョブにおいて、「受信するファイル/フォルダがない場合の動作」で「警告終了する」を選び、受信するファイルが存在しない場合にも、このメッセージが表示されます。この場合、Contents には「Receiving file not found.」と表示されます。

KDJH9390-I

実行結果詳細画面に表示される、DH カスタムジョブ実行時のサブメッセージ

実行結果詳細画面に表示される、DH カスタムジョブ実行時のサブメッセージを 1 行ごとに出力します。

(S)

特に無し。

(O)

特に無し。

KDJH9460-E

予期しないエラーが発生しました。詳細情報：詳細情報

予期しないエラーが発生しました。

(S)

プログラムを終了します。

(O)

システム管理者に連絡してください。

KDJH9461-E

コマンド実行中に例外が発生しました。コマンド名：コマンド名，詳細情報：詳細情報

コマンド実行中に例外が発生しました。

(S)

プログラムを終了します。

(O)

システム管理者に連絡してください。

KDJH9462-E

データ送受信コマンド が起動できません。

データ送受信コマンド が起動できません。

(データ送受信コマンド の部分は、Windows の場合は DWClient.bat, Linux の場合は DWClient.sh と表示されます。)

(S)

プログラムを終了します。

(O)

次の内容を確認して、エラー原因を取り除いてから、再度要求をしてください。

- データ送受信コマンドが存在しない場合、上書きインストールを行い、データ送受信コマンドを復元してください。

5.8 インストーラのメッセージ

KDJH9901-E

このプラットフォームは未サポートです。インストールを中断します。

未サポートのプラットフォームに製品をインストールしようとしています。

(S)

インストールを中断します。

(O)

サポートしているプラットフォームにインストールしてください。

KDJH9902-E

ログインアカウントはインストールまたはアンインストールするために必要な権限を持っていません。
管理者アカウントを使用してください。

ログインアカウントが管理者アカウントではありません。

(S)

インストールまたはアンインストールが終了し、インストーラ起動前の状態に戻ります。

(O)

管理者権限をもつユーザで実行してください。

KDJH9903-E

インストール先フォルダのパスが長過ぎます。
もう一度インストール先を選択してください。

インストール先フォルダのパスが長過ぎます。

(S)

インストール先の選択ダイアログボックスに戻ります。

(O)

インストール先フォルダのパスは 45 バイト以下で指定してください。

KDJH9904-E

指定されたフォルダ：‘指定したフォルダパス’は無効か、不完全か、または書込みができません。

指定されたフォルダが無効か、不完全か、または書込みができません。

(S)

インストール先の選択ダイアログボックスに戻ります。

(O)

書き込みできるフォルダをインストール先フォルダとして指定してください。

KDJH9905-E

新しいバージョンの JP1/DH - Automatic Job Executor が既にインストールされているため上書きインストールすることができません。インストールされている JP1/DH - Automatic Job Executor をアンインストールしてからもう一度インストールを実行してください。

バージョンダウンを行おうとしています。

(S)

インストールを中断します。

(O)

バージョンダウンのインストールはできません。新しいバージョンをアンインストールしてから再度インストールを行ってください。

KDJH9906-E

レジストリ情報を取得することができないため上書きインストールすることができません。インストールされている JP1/DH - Automatic Job Executor をアンインストールしてからもう一度インストールを実行してください。

レジストリ情報を取得できないため上書きインストールできません。

(S)

インストールまたはアンインストールが終了し、インストーラ起動前の状態に戻ります。

(O)

管理者権限をもつユーザで実行してください。

KDJH9907-E

日立トレースライブラリのインストールに失敗しました。(詳細情報) システム管理者に連絡してください。

日立トレースライブラリのインストールに失敗しました。

(S)

インストールを中断します。

(O)

システムドライブ¥Program Files※ ¥Hitachi 配下のフォルダおよびファイルのアクセス権を確認してください。

インストール媒体に問題がある場合は、開発元へ問い合わせてください。

注※

64 ビット版の Windows の場合は、「Program Files」を「Program Files(x86)」と読み替えてください。

KDJH9908-E

予期しないエラーが発生しました。詳細情報：詳細情報

予期しないエラーが発生しました。

(S)

インストールを中断します。

(O)

インストール先フォルダのアクセス権を確認して、再度インストールしてください。それでもエラーが発生する場合は、インストールログを採取して、開発元へ問い合わせてください。

インストールログは通常、Windows フォルダ※¥Temp¥HCDINST の直下に出力されます。

注※

Windows フォルダのデフォルトは、「C:¥WINDOWS」です。

KDJH9909-E

日立 Java ライブラリのインストールに失敗しました。(詳細情報)

システム管理者に連絡してください。

日立 Java ライブラリのインストールに失敗しました。

(S)

インストールを中断します。

(O)

システム管理者に連絡して、エラー原因の除去を依頼してください。

6

トラブルシュート

この章では、JP1/DH - AJE のトラブル解決の手順について説明します。

6.1 対処の手順

JP1/DH - AJE でトラブルが発生した場合の対処の手順を次に示します。

1. 現象の確認

トラブルが発生したときの現象を確認してください。稼働ログ、ダイアログおよび JP1/AJS3 - View の「実行結果詳細」画面にメッセージが出力されている場合は、メッセージの内容を確認してください。各メッセージの要因と対処方法については、「[5.5 JP1/DH - AJE の共通メッセージ](#)」～「[5.8 インストーラのメッセージ](#)」を参照してください。また、JP1/DH - AJE が出力するログについては「[6.2 ログの種類とログ情報の格納先](#)」を参照してください。「[5.5 JP1/DH - AJE の共通メッセージ](#)」～「[5.8 インストーラのメッセージ](#)」に該当するメッセージがない場合は、JP1/AJS3 側のトラブルであることが考えられます。JP1/AJS3 側のトラブルが発生した場合の対処方法については、「[5.1 メッセージの分類](#)」を参照の上、該当する製品のマニュアルを参照してください。

2. 「[6.5 トラブル別の対処方法](#)」を参考にして対処を行ってください。

3. 資料の採取

トラブルが解決しない場合には、トラブルの要因を調べるために資料の採取が必要です。「[6.3 トラブルが解決しない場合に採取する資料](#)」を参照して、必要な資料を採取してください。資料を採取したあと、システム管理者に連絡してください。

4. リストア

運用では、バックアップを実施していた場合、リストアをすることで、バックアップを取得した時点の状態に戻すことが可能です。

6.2 ログの種類とログ情報の格納先

ログの種類とログ情報の格納先について、次に示します。

6.2.1 ログの種類

JP1/DH - AJE が出力するログは次のとおりです。

(1) 稼働ログ

ジョブ定義プログラムおよびジョブ実行プログラムの稼働ログを次に示します。

(a) ファイルパス

- ジョブ定義プログラムの稼働ファイル

1. Windows XP の場合

```
<ジョブ定義インストールフォルダ>%log%dhaged_information[x].log
```

[x]は面数の番号を示し、1 から保存世代数までの値（保存世代数が3の場合は、1～3）

2. Windows XP 以外の場合

```
%AllUsersProfile%\Hitachi\jp1\jp1_default\JP1DH\AJE\AJED%log%dhaged_information[x].log
```

%AllUsersProfile%は、Windows の環境変数（全 OS ユーザ共通のデータ保存フォルダ）を示します。

[x]は面数の番号を示し、1 から保存世代数までの値（保存世代数が3の場合は、1～3）

- ジョブ実行プログラムの稼働ファイル

1. Windows の場合

```
%AllUsersProfile%\Hitachi\jp1\jp1_default\JP1DH\AJE\AJEE%log%dhaje_information[x].log
```

%AllUsersProfile%は、Windows の環境変数（全 OS ユーザ共通のデータ保存フォルダ）を示します。

2. Linux の場合

```
/var/opt/jp1dh/aje/ajee/log/dhaje_information[x].log
```

[x]は面数の番号を示し、1 から保存世代数までの値（保存世代数が3の場合は、1～3）

補足説明

- ジョブ実行プログラムおよびジョブ定義プログラムの環境設定ファイルでは LogOutDir を変更している場合、ログファイルは LogOutDir で指定したフォルダの下に作成されます。詳細は「[3.3.1\(1\) ジョブ定義プログラム環境設定ファイル](#)」または「[3.3.2\(1\) ジョブ実行プログラム環境設定ファイル](#)」を参照してください。

(b) 出力情報

稼働ログには、次の情報が出力されます。

表 6-1 稼働ログに出力される内容

出力項目	桁数	出力内容
番号	固定長 (4 桁)	トレースレコードの通番
日付	固定長 (10 桁)	出力時のシステム日付 yyyy/mm/dd
時刻	固定長 (12 桁)	出力時のシステム時刻 hh:mm:ss.sss
AP 名	固定長 (16 桁)	JP1/DH - AJE
プロセス ID	固定長 (8 桁)	プロセス ID フォーマット：int 値を 16 進数に変換して表示
スレッド ID	固定長 (8 桁)	スレッド ID フォーマット：int 値を 16 進数に変換して表示
メッセージ ID	固定長 (16 桁)	KDJHnnnn-Z K：システム識別子 DJH：JP1/DH を示す識別子 nnnn：メッセージの番号 Z：メッセージの種類 E：エラー W：警告 I：通知
種別	固定長 (5 桁)	ログレベル フォーマット：ERR,WARN,INFO 出力内容 ERR の場合：ERR のみ WARN の場合：ERR,WARN INFO の場合：ERR,WARN,INFO
メッセージテキスト	可変長	JP1/DH - AJE のメッセージ

また、ログ出力開始時に、次のヘッダを出力します。

0	5	22	31	42	47
****	JP1/DH - AJE	プロセスID	ファイルサイズ	ログ面数	00000002CRLF
0	5	66	83	116	
	OS名 (バージョン)	ローカルホスト名	タイムゾーン	ログ取得開始日時	CRLF
0	5	50	59	68	90
	yyy/mm/dd hh:mm:ss.sss	pid	tid	message-id	message(locale=LOCALE) CRFCF

6.3 トラブルが解決しない場合に採取する資料

トラブルが解決しない場合に採取する資料について、次に示します。

トラブルが解決しない場合は、次の手順に従って、資料の採取をしてください。

6.3.1 JP1/DH - AJE（ジョブ定義プログラム）の情報収集手順

JP1/DH - AJE（ジョブ定義プログラム）の情報収集手順について、次に示します。

JP1/DH - AJE（ジョブ定義プログラム）の情報収集では、ログだけを取得します。

次のフォルダ以下のファイルを、任意の場所にコピーしてください。

1. Windows XP の場合

```
<ジョブ定義インストールフォルダ>%log
```

2. Windows XP 以外の場合

```
%AllUsersProfile%\Hitachi\jp1\jp1_default\JP1DH\AJE\AJED%log
```

%AllUsersProfile%は、Windows の環境変数（全 OS ユーザ共通のデータ保存フォルダ）を示します。
ただし、「[3.3.1\(1\) ジョブ定義プログラム環境設定ファイル](#)」では、LogOutDir を変更している場合、LogOutDir フォルダ以下のファイルを、任意の場所にコピーしてください。

6.3.2 JP1/DH - AJE（ジョブ実行プログラム）の情報収集手順

JP1/DH - AJE（ジョブ実行プログラム）の情報収集手順について、次に示します。

JP1/DH - AJE（ジョブ実行プログラム）の情報収集では、次の 2 つの情報を収集します。

1. JP1/DH - AJE（ジョブ実行プログラム）に関連する情報

2. JP1/AJS3 に関連する情報

(1) JP1/DH - AJE（ジョブ実行プログラム）に関連する情報の収集手順

JP1/DH - AJE（ジョブ実行プログラム）に関連する情報の収集には、情報収集ツールを使用します。情報収集ツールについての詳細を次に示します。

(a) 情報収集ツールについて

情報収集ツールは、バッチファイルです。

Windows の場合

1. ファイルパス

＜JP1/DH - AJE（ジョブ実行プログラム）のインストールフォルダ＞¥tools¥dhaje_log.bat

2. 機能

次の情報を、ファイルとして取得します。

表 6-2 情報収集ツールが取得する情報（Windows の場合）

取得項目	想定容量 (単位:KB)	内容	取得ファイル
JP1/DH - AJE インストールフォルダ以下のファイル	281600+（稼働ログファイルサイズ×稼働ログ面数）	JP1/DH - AJE インストールフォルダ以下のファイル	file¥sdata¥DHAJE¥
ログファイル	環境設定により変化	JP1/DH - AJE のログファイル	デフォルトの場合：file¥pdata¥log¥dhajee_information[x].log ログファイルの出力先を変更した場合：file¥cdata¥log_custom¥dhajee_information[x].log
ジョブ実行プログラムの製品情報を格納したレジストリキー	20	次のレジストリキーの内容 • HKEY_LOCAL_MACHINE¥SOFTWARE¥HITACHI¥JP1DH¥AJE¥AJEE • HKEY_LOCAL_MACHINE¥SOFTWARE¥Wow6432Node¥HITACHI¥JP1DH¥AJE¥AJEE (Wow64 環境の場合)	registry1.txt または registry2.txt※
OS のプロセスリスト	20	• イメージ名 • PID（プロセス ID） • セッション名 • セッション • メモリ使用量 • 状態 • ユーザ名 • CPU 時間 • ウィンドウタイトル	tasklist.txt
OS のシステム情報	15	• ホスト名 • OS 名	systeminfo.txt

6. トラブルシュート

取得項目	想定容量 (単位:KB)	内容	取得ファイル
OS のシステム情報	15	<ul style="list-style-type: none"> • OS バージョン • OS 製造元 • OS 構成 • OS ビルドの種類 • 登録されている所有者 • 登録されている組織 • プロダクト ID • 最初のインストール日付 • システム起動時刻 • システム製造元 • システムモデル • システムの種類 • プロセッサ • BIOS バージョン • Windows フォルダ • システムフォルダ • 起動デバイス • システムロケール • 入力ロケール • タイムゾーン • 物理メモリの合計 • 利用できる物理メモリ • 仮想メモリ最大サイズ • 仮想メモリ利用可能 • 仮想メモリ使用中 • ページファイルの場所 • ドメイン • ログオンサーバ • ホットフィックス (すべての適応ホットフィックス名) • ネットワークカード情報 	systeminfo.txt
Windows イベントログのシステム情報	サーバの状態により変動	<ul style="list-style-type: none"> • 種別 • 日付と時刻 • ソース • イベント • タスク • レベル • キーワード • ユーザ • コンピュータ • 説明 	eventssystem.txt

取得項目	想定容量 (単位:KB)	内容	取得ファイル
Windows イベントログのアプリケーション情報	サーバの状態により変動	<ul style="list-style-type: none"> • 種別 • 日付と時刻 • ソース • イベント • タスク • レベル • キーワード • ユーザ • コンピュータ • 説明 	eventapp.txt
netstat の情報	2	すべての接続とリッスンポート	netstata.txt
netstat の情報	2	イーサネットの統計	netstate.txt
netstat の情報	2	アドレスとポート番号	netstatn.txt
netstat の情報	2	ルーティング テーブル	netstatr.txt
netstat の情報	2	プロトコルごとの統計	netstats.txt
システムが使用するファイル	サーバの状態により変動	システムが使用するファイル	非公開

注※ JP1/DH - AJE（ジョブ実行プログラム）が 32bitOS にインストールされている場合、registry1.txt が、64bitOS にインストールされている場合、registry2.txt が作成されます。

情報収集ツールの出力先には、上記のファイルが保存できるだけの空き容量があることを確認してください。

なお、DH カスタムジョブの実行中に情報収集ツールを実行した場合、DH カスタムジョブの実行に失敗するおそれがあります。情報収集ツール実行中は、DH カスタムジョブが実行されないようにしてください。また、情報収集ツール実行中は、情報収集ツール出力先のファイル/フォルダにアクセスしないでください。

情報収集ツールを任意のフォルダに移動して実行しないでください。

3. 実行権限

Administrators 権限を持つ OS ユーザ

4. 情報収集ツール実行手順

情報収集ツール実行手順を次に示します。

1. 問題が発生した JP1/DH - AJE（ジョブ実行プログラム）がインストールされているサーバに、Administrators 権限を持つ OS ユーザでログインします。
2. 情報収集ツールで収集される各種情報の出力先フォルダを変更する場合、情報収集ツール (dhaje_log.bat) をエディタ等で編集し、OUT_DIR_CUST を変更したい出力先フォルダに変更します。フォルダ名はダブルクォート (") で囲わないでください。スペースを含むフォルダ名の場合も同様です。

変更例：

6. トラブルシュート

```
set OUT_DIR_CUST=C:¥temp¥JP1DHAJE
```

3. 環境設定ファイル (config.xml) で変更可能な項目「ログ出力先フォルダ名< LogOutDir >」, 「システムが使用するファイルの格納フォルダ< RecvListDir >」, 「DH カスタムジョブを実行する場合に使用するワークフォルダ< SendRecvTemp >」を変更している場合、情報収集ツール (dhaje_log.bat) をエディタ等で編集し、CUST_LOG_DIR, CUST_RCV_DIR, CUST_WRK_DIR に変更したフォルダ名を設定します。フォルダ名はダブルクォート (") で囲わないでください。スペースを含むフォルダ名の場合も同様です。

変更例：

```
set CUST_LOG_DIR=C:¥temp¥JP1DHAJE¥log
set CUST_RCV_DIR=C:¥temp¥JP1DHAJE¥recvlist
set CUST_WRK_DIR=C:¥temp¥JP1DHAJE¥work
```

4. 情報収集ツールを実行します。

5. 戻り値

情報収集ツールの戻り値を次の表に示します。

表 6-3 情報収集ツールのリターンコード

リターンコード	意味	内容
0	正常	情報の収集が正常に終了したことを示します。
1	警告	情報収集ツールのフォルダの削除確認の問い合わせで"N"を選択したため、情報収集ツールが中断されたことを示します。
10	エラー	情報の収集に失敗したことを示します。

6. 情報収集結果の保存フォルダ

情報収集ツールで収集したファイルは、次のフォルダの下に出力されます。

```
%TEMP%¥DHAJE¥backlog¥infomation
```

%TEMP%は、Windows 環境変数%TEMP%を示します。

注意

情報収集ツール (dhaje_log.bat) は、10-00 バージョンからの上書きインストールを実施すると初期状態に戻ります。10-00 バージョンで内容を変更している場合、再度、編集してから実行してください。

Linux の場合

1. ファイルパス

```
/opt/jp1dh/aje/ajee/tools/dhaje_log.sh
```

2. 機能

次の情報を、ファイルとして取得します。

6. トラブルシュート

表 6-4 情報収集ツールが取得する情報 (Linux の場合)

取得項目	想定容量 (単位: KB)	内容	取得ファイル
JP1/DH - AJE インストールフォルダ以下のファイル	281600+ (稼働ログ ファイルサイズ×稼働ログ 面数)	JP1/DH - AJE イン ストールフォ ルダ以下の ファイル	file/sdata/
ログファイル	環境設定によ り変化	JP1/DH - AJE のログ ファイル	デフォルトの場合: file/pdata/log/ dhajee_information[x]. log ログファイルの出力先を変更した場合: file/ cdata/log_custom/dhajee_information[x]. log
OS のプロセスリスト	20	システムで 起動中プロ セスの一覧	Process.txt
OS のシステム情報	20	システムの 情報	systeminfo.txt
syslog 情報	システムの状 況により変化	syslog ファ イル	syslog/
netstat の情報	2	すべての接 続とリッス ンポート	netstata.txt
netstat の情報	2	イーサネッ トの統計	netstate.txt
netstat の情報	2	アドレスと ポート番号	netstatn.txt
netstat の情報	2	ルーティ ングテー ブル	netstatr.txt
netstat の情報	2	プロトコル ごとの統計	netstats.txt
OS のパッチ情報	システムの状 況により変化	OS のパッ チ情報	rpminfo.txt
システムが使用するファイル	送受信の状況 により変化	システムが 使用する ファイル	非公開

情報収集ツールの出力先には、上記のファイルが保存できるだけの空き容量があることを確認してください。

なお、DH カスタムジョブの実行中に情報収集ツールを実行した場合、DH カスタムジョブの実行に失敗するおそれがあります。情報収集ツール実行中は、DH カスタムジョブが実行されないようにしてく

ださい。また、情報収集ツール実行中は、情報収集ツール出力先のファイル/フォルダにアクセスしないでください。

情報収集ツールを任意のフォルダに移動して実行しないでください。

3. 実行権限

スーパーユーザ権限を持つ OS ユーザ

4. 情報収集ツール実行手順

情報収集ツール実行手順を次に示します。

1. 問題が発生した JP1/DH - AJE（ジョブ実行プログラム）がインストールされているサーバに、スーパーユーザ権限を持つ OS ユーザでログインします。
2. 情報収集ツールで収集される各種情報の出力先フォルダを変更する場合、情報収集ツール（dhaje_log.sh）をエディタ等で編集し、OUT_DIR_CUST を変更したい出力先フォルダに変更します。

変更例：

```
OUT_DIR_CUST="/tmp/ajee/backlog"
```

3. 環境設定ファイル（config.xml）で変更可能な項目「ログ出力先フォルダ名<LogOutDir>」,「システムが使用するファイルの格納フォルダ<RecvListDir>」,「DH カスタムジョブを実行する場合に使用するワークフォルダ<SendRecvTemp>」を変更している場合、情報収集ツール（dhaje_log.sh）をエディタ等で編集し、CUST_LOG_DIR, CUST_RCV_DIR, CUST_WRK_DIR に変更したフォルダ名を設定します。

変更例：

```
CUST_LOG_DIR="/tmp/DHAJE/log"
CUST_RCV_DIR="/tmp/DHAJE/recvlist"
CUST_WRK_DIR="/tmp/DHAJE/work"
```

4. 情報収集ツールを実行します。

5. 戻り値

情報収集ツールの戻り値を次の表に示します。

表 6-5 情報収集ツールのリターンコード

リターンコード	意味	内容
0	正常	情報の収集が正常に終了したことを示します。
1	警告	情報収集ツールのフォルダの削除確認の問い合わせで"N"を選択したため、情報収集ツールが中断されたことを示します。
10	エラー	情報の収集に失敗したことを示します。

6. 情報収集結果の保存フォルダ

情報収集ツールで収集したファイルは、次のフォルダの下に出力されます。

```
/tmp/ajee/backlog/infomation
```

(2) JP1/AJS3 の情報収集

障害要因の切り分けのため、JP1/AJS3 側の情報収集が必要です。

取得対象となる情報は次の 2 点です。

(a) DH カスタムジョブ定義の内容

定義情報の採取についてはマニュアル「JP1/Automatic Job Management System 3 運用ガイド ジョブ ネットの退避・回復」を参照してください。

(b) ジョブ実行プログラムが実行された JP1/AJS3 - Manager または JP1/AJS3 - Agent の情報

情報の採取についてはマニュアル「JP1/Automatic Job Management System 3 トラブルシューティング 資料の採取方法」を参照してください。

6.4 リストア

リストアは、次の手順で行います。

6.4.1 JP1/DH - AJE（ジョブ定義プログラム）のリストア

1. プログラムを再インストールまたは新規インストールします。
2. 環境設定ファイル（config.xml）をバックアップ先からコピー（上書き）します。

6.4.2 JP1/DH - AJE（ジョブ実行プログラム）のリストア

1. プログラムを再インストールまたは新規インストールします。
2. 環境設定ファイル（config.xml）をバックアップ先からコピー（上書き）します。
3. 次に示すフォルダ以下のファイルおよびフォルダをバックアップ先からすべてコピー（上書き）します。
 - ・ <ジョブ実行プログラムの環境設定ファイルの<RecvListDir>で定義したフォルダ>

各ファイルおよびフォルダについては、「[付録 A ファイルおよびフォルダー一覧](#)」を参照してください。
<RecvListDir>については、「[3.3.2\(1\) ジョブ実行プログラム環境設定ファイル](#)」を参照してください。

6.5 トラブル別の対処方法

JP1/DH - AJE で発生するおそれのあるトラブルに対処する方法について、事例別に説明します。

6.5.1 JP1/DH - AJE（ジョブ定義プログラム）のトラブル

JP1/DH - AJE（ジョブ定義プログラム）で発生するおそれのあるトラブルのケースと、トラブルの回復方法を次に示します。

(1) JP1/AJS3 - View に DH カスタムジョブのアイコンが出てこない

要因

1. JP1/AJS3 のバージョンが 10-00 より低いバージョンであり、DH カスタムジョブアイコンファイルを JP1/AJS3 - View 以下のフォルダへコピーしていない。
2. カスタムジョブ登録情報のクラス名が Windows の場合「DHAJEW」、Linux の場合「DHAJEL」となっていない。

対策

次の対策をしたあと、再度 JP1/AJS3 - View にログインしてください。

1. DH カスタムジョブアイコンファイルを JP1/AJS3 - View 以下のフォルダへコピーしてください。
詳細は、「[3.4 DH カスタムジョブの登録](#)」を参照してください。
2. カスタムジョブ登録情報のクラス名が Windows の場合「DHAJEW」、Linux の場合「DHAJEL」となっていることを確認してください。

(2) JP1/AJS3 - View からジョブ定義プログラムが起動しない

要因

1. 環境設定ファイルの内容に誤りがある。
2. 環境設定ファイルが存在しない。
3. JP1/AJS3 - View の実行ユーザが環境設定ファイルの読み込み権限を持っていない。
4. メモリ不足が発生している。
5. 〈Windows システムドライブ〉 %temp の空き容量が不足している。
6. JP1/AJS3-View を使用している OS ユーザが 〈Windows システムドライブ〉 %temp への書き込み権限または読み込み権限を持っていない。
7. カスタムジョブ登録時の定義プログラムの指定が誤っている。

対策

次の対策をしたあと、詳細定義- [Custom Job] 画面で [キャンセル] ボタンを押して、詳細定義- [Custom Job] 画面を閉じ、再度カスタムジョブの定義を実施してください。

1. 環境設定ファイルの内容に誤りがないか確認してください。
2. 環境設定ファイルが存在しない場合、テンプレートファイルを用いて環境設定ファイルを作成し、運用に合わせて内容を変更してください。
3. JP1/AJS3 - View の実行ユーザが環境設定ファイルを読み込めるようにしてください。
4. 不要なプロセスを停止し、メモリ不足を解消してください。
5. 〈Windows システムドライブ〉 %temp の空き容量を増やしてください。
6. JP1/AJS3-View を使用している OS ユーザが 〈Windows システムドライブ〉 %temp へファイルを作成またはファイルを読み込みできるようにしてください。
7. カスタムジョブ登録時の定義プログラムの指定を見直してください。詳細は「[3.4 DH カスタムジョブの登録](#)」を参照してください。

(3) DH カスタムジョブの登録（更新）でエラーが発生する

要因

1. メモリ不足が発生している。
2. 〈Windows システムドライブ〉 %temp の空き容量が不足している。
3. JP1/AJS3-View を使用している OS ユーザが 〈Windows システムドライブ〉 %temp への書き込み権限を持っていない。

対策

1. 不要なプロセスを停止し、メモリ不足を解消してください。
2. 〈Windows システムドライブ〉 %temp の空き容量を増やしてください。
3. JP1/AJS3-View を使用している OS ユーザが 〈Windows システムドライブ〉 %temp へファイルを作成できるようにしてください。

(4) DH カスタムジョブの読み込みでエラーが発生する

要因

1. メモリ不足が発生している。
2. JP1/AJS3-View を使用している OS ユーザが 〈Windows システムドライブ〉 %temp への読み込み権限を持っていない。

対策

1. 不要なプロセスを停止し、メモリ不足を解消してください。

2. JP1/AJS3-View を使用している OS ユーザが〈Windows システムドライブ〉¥temp 以下のファイルを読み込むことができるようにしてください。

6.5.2 JP1/DH - AJE（ジョブ実行プログラム）のトラブル

JP1/DH - AJE（ジョブ実行プログラム）で発生するおそれのあるトラブルのケースと、トラブルの回復方法を次に示します。

(1) JP1/AJS3 - View からジョブ実行プログラムが起動しない

要因

1. 環境設定ファイルの内容に誤りがある。
2. 環境設定ファイルが存在しない。
3. システムが使用するファイル（〈ジョブ実行プログラムの環境設定ファイルの<RecvListDir>で定義したフォルダ>以下のファイル）の内容に誤りがある。
4. JP1/AJS3 - Agent（または Manager）の実行ユーザが環境設定ファイルの読み込み権限を持っていない。
5. メモリ不足が発生している。
6. カスタムジョブ登録時の実行プログラムの指定が誤っている。

対策

1. 環境設定ファイルの内容に誤りがないか確認してください。
2. 環境設定ファイルが存在しない場合、テンプレートファイルを用いて環境設定ファイルを作成し、運用に合わせて内容を変更してください。
3. システムが使用するファイル（〈ジョブ実行プログラムの環境設定ファイルの<RecvListDir>で定義したフォルダ>以下のファイル）のバックアップがある場合は、バックアップしてあるシステムが使用するファイル（〈ジョブ実行プログラムの環境設定ファイルの<RecvListDir>で定義したフォルダ>以下のファイル）を上書きしてください。バックアップが無い場合は、〈ジョブ実行プログラムの環境設定ファイルの<RecvListDir>で定義したフォルダ>recvuserlist.xml および〈ジョブ実行プログラムの環境設定ファイルの<RecvListDir>で定義したフォルダ>list フォルダ以下のファイルをすべて削除してください。その場合、ジョブ実行プログラムはすでに受信済みのファイルを再度受信することがあります。<RecvListDir>については、[「3.3.2\(1\) ジョブ実行プログラム環境設定ファイル」](#)を参照してください。
4. JP1/AJS3 - Agent（または Manager）の実行ユーザが環境設定ファイルを読み込めるようにしてください。
5. 不要なプロセスを停止し、メモリ不足を解消してください。
6. カスタムジョブ登録時の実行プログラムの指定を見直してください。詳細は「[3.4 DH カスタムジョブの登録](#)」を参照してください。

(2) DH カスタムジョブの読み込みでエラーが発生する

要因

1. メモリ不足が発生している。
2. JP1/AJS3 - Agent（または Manager）に登録されている DH カスタムジョブの定義内容が壊れている。

対策

1. 不要なプロセスを停止し、メモリ不足を解消してください。
2. 読み込みエラーとなるカスタムジョブを削除し、再度定義をなおしてください。

(3) 送信・受信でエラーが発生する

要因

1. DH カスタムジョブの基本情報設定の内容が間違っている。
2. JP1/DH - Server に接続できない。
3. 送信対象のファイルの指定に誤りがある。
4. ジョブ実行プログラムの実行ユーザが、送信対象のファイルへのアクセス権限を持っていない。
5. ジョブ実行プログラムの実行ユーザが、受信フォルダへの書き込み権限を持っていない。
6. システムが使用しているファイルが何らかの理由で削除されず、残ったままとなっている。
7. サーバ証明書のインポートが実施されていない。

対策

1. DH カスタムジョブの基本設定情報の内容を確認してください。
2. DH カスタムジョブの基本設定情報の内容を用いて、JP1/DH - Server にログインできることを手動で確認してください。
3. DH カスタムジョブの転送設定（送信）画面で指定したファイルが存在することを確認してください。
4. JP1/AJS3 - Agent（または Manager）の実行ユーザが DH カスタムジョブの転送設定（送信）画面で指定したファイルにアクセスできるようにしてください。
5. ジョブ実行プログラムの実行ユーザが受信フォルダへファイルを作成できるようにしてください。
6. 次のファイルが存在する場合、削除してください。

〈環境設定ファイルで SendRecvTemp に設定したフォルダ〉 ¥dwcXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXX. X(Xは数値)
システムが使用するロックファイルが存在すれば削除してください。

Windowsの場合：

〈ジョブ実行プログラムの環境設定ファイルの〈RecvListDir〉で定義したフォルダ〉¥recvuserlist.xml.lck

Linuxの場合：

/opt/jp1dh/aje/ajee/recvlist/recvuserlist.xml.lck

7.「3.6 サーバ証明書の登録」を参照し、サーバ証明書のインポートを実施してください。

6.5.3 クラスタシステムでのトラブル

JP1/DH - AJE をクラスタシステム上で運用している際に、トラブルが発生し、フェールオーバーが発生した場合の回復方法を次に示します。

回復方法

次の手順に従い、回復を行ってください。

1. フェールオーバーしたあと、障害の回復を実施してください。
2. 実行系で実行中の DH カスタムジョブが存在したかどうか確認してください。
3. 実行中だった DH カスタムジョブの状態が「強制終了」または「終了状態不明」の場合、JP1/DH - Server へログインし、送信または受信の状態を確認してください。対象となるファイルまたはフォルダが未送信または未受信の場合、その DH カスタムジョブを再実行してください。

7

データ送受信コマンド

この章では、データ送受信コマンドの使用方法について説明します。

7.1 データ送受信コマンドの概要

データ送受信コマンドの概要について、次に示します。

7.1.1 データ送受信コマンドとは

データ送受信コマンドは、JP1/DH - Server のファイル転送機能をコマンドラインインターフェースから利用する方式を提供します。これにより、データ送受信コマンドを使って、JP1/DH - Server と他システムとを連携し、ファイル転送をすることができます。

ファイル転送を管理するデータ送受信管理コマンドと組み合わせて使用することで、柔軟なファイル転送を可能とします。

なお、JP1/DH - Server の詳細については、JP1/DH - Server のマニュアルを参照してください。ファイル転送を管理するデータ送受信管理コマンドについては、「[8. データ送受信管理コマンド](#)」を参照してください。

データ送受信コマンドでは、次の機能を提供しています。

- ファイル送信
- ファイル受信
- 一時停止中のファイル転送の再開

7.1.2 導入のための前提条件

データ送受信コマンドを利用するときの、クライアント PC に必要な前提条件を次に示します。

(1) 前提ソフトウェア

クライアント PC の前提ソフトウェアを次に示します。

表 7-1 クライアント PC の前提ソフトウェア (Windows の場合)

項目	製品名
OS	次のどれかが必要です。 <ul style="list-style-type: none">• Windows XP Professional (32bit 版) (Service Pack 3 以降)• Windows Server 2008 R2 (Service Pack 1 以降)• Windows 7 (32bit 版/64bit 版) (Service Pack 1 以降)• Windows(R) 8• Windows(R) 8 Pro• Windows(R) 8 Enterprise• Windows(R) 8.1

項目	製品名
OS	<ul style="list-style-type: none"> • Windows(R) 8.1 Pro • Windows(R) 8.1 Enterprise • Windows Server 2012 Standard • Windows Server 2012 Datacenter • Windows Server 2012 R2 Standard • Windows Server 2012 R2 Datacenter

表 7-2 クライアント PC の前提ソフトウェア（Linux の場合）

項目	製品名
OS	<p>次のどちらかが必要です。</p> <ul style="list-style-type: none"> • Red Hat Enterprise Linux 5 • Red Hat Enterprise Linux 6

(2) ハードディスクの空き容量

ファイルをダウンロードする場合、そのファイルの 2 倍のハードディスク空き容量が必要です。

また、データ送受信コマンドをインストールしたドライブには、ダウンロードするファイルサイズ以上の空きが必要です。

(3) 制限事項

このコマンドでは、サロゲートペア文字は使用できません。ユーザ名、インストールフォルダ名、引数（件名、メッセージ、ファイルパスなど）にサロゲートペア文字は使用しないでください。

7.2 データ送受信コマンドの導入

データ送受信コマンドの導入について、次に示します。

7.2.1 データ送受信コマンドのインストール

データ送受信コマンドは、JP1/DH - AJE（ジョブ実行プログラム）に同梱されています。したがって、データ送受信コマンドを使用する PC へ、JP1/DH - AJE（ジョブ実行プログラム）をインストールする必要があります。JP1/DH - AJE（ジョブ実行プログラム）のインストールについては、「[3.2 JP1/DH - AJE のインストール](#)」を参照してください。

データ送受信コマンドは、Windows の場合（＜ジョブ実行プログラムインストールフォルダ＞¥bin ¥DWClient）以下に、Linux の場合は、（/opt/jp1dh/aje/ajee/bin/DWClient）以下に格納されます。

注意

- データ送受信コマンドを格納先のフォルダから、移動またはコピーして使用しないでください。

7.2.2 データ送受信コマンドの環境設定

(1) 環境変数の設定

データ送受信コマンドで使用するライブラリのインストールフォルダを環境変数に指定します。ライブラリは、Windows の場合（＜ジョブ実行プログラムインストールフォルダ＞¥csmi¥jdk¥jre）以下に、Linux の場合は、（/opt/jp1dh/aje/ajee/csmi/jdk/jre）以下に格納されています。

(a) Windows の場合

次に示す環境変数を設定します。

例）＜ジョブ実行プログラムインストールフォルダ＞が

C:¥Program Files (x86)¥HITACHI¥JP1DH¥AJE¥AJEE の場合

環境変数名称：DW_CMD_JRE_HOME

変数値：C:¥Program Files (x86)¥HITACHI¥JP1DH¥AJE¥AJEE¥csmi¥jdk¥jre

(b) Linux の場合

環境変数に、「DW_CMD_JRE_HOME=/opt/jp1dh/aje/ajee/csmi/jdk/jre」を設定します。

/.bashrc に追加する場合の例

```
export DW_CMD_JRE_HOME=/opt/jp1dh/aje/ajee/csmi/jdk/jre
```

(2) データ送受信コマンドの設定

データ送受信コマンドの設定では、次の設定ファイルを編集します。なお、設定ファイルの詳細については「[7.3.1\(6\) 設定ファイル](#)」を参照してください。

コマンドプロパティファイル (property.xml) のサンプルファイルをインストールフォルダから任意の場所にコピーします。

サンプルファイルは、Windows の場合 (<ジョブ実行プログラムインストールフォルダ>\bin\DWClient) 以下に、Linux の場合 (/opt/jp1dh/aje/ajee/bin/DWClient) 以下に格納されています。サンプルファイルは上書きインストールにより初期化されるため、サンプルファイルを直接編集して使用しないでください。

コピーしたコマンドプロパティファイル (property.xml) を開き、次の情報を入力し保存します。

- 接続先サーバの URL
- ユーザ ID
- パスワード
- 認証方式
- 証明書ファイルのパス
- 証明書ファイルのパスワード
- プロキシサーバ認証情報

7.2.3 データ送受信コマンドのアンインストール

データ送受信コマンドをアンインストールする場合、JP1/DH - AJE (ジョブ実行プログラム) をアンインストールする必要があります。JP1/DH - AJE (ジョブ実行プログラム) のアンインストールについては、「[3.8 JP1/DH - AJE のアンインストール](#)」を参照してください。

7.2.4 データ送受信コマンドの環境設定を解除

(1) 環境変数の解除

インストール時に「[7.2.2\(1\) 環境変数の設定](#)」をした場合だけ実施します。管理者権限が必要です。

(a) Windows の場合

次に示す環境変数を削除します。

例) <ジョブ実行プログラムインストールフォルダ>が

C:¥Program Files (x86)¥HITACHI¥JP1DH¥AJE¥AJEE の場合

環境変数名称: DW_CMD_JRE_HOME

変数値: C:¥Program Files (x86)¥HITACHI¥JP1DH¥AJE¥AJEE¥csmi¥jdk¥jre

(b) Linux の場合

環境変数から, 「DW_CMD_JRE_HOME=/opt/jp1dh/aje/ajee/csmi/jdk/jre」 を削除します。

/.bashrc に追加した場合の例

追加した次の行を削除してください。

```
export DW_CMD_JRE_HOME=/opt/jp1dh/aje/ajee/csmi/jdk/jre
```

7.3 リファレンス

データ送受信コマンドが提供するコマンドと設定について説明します。

7.3.1 共通仕様

データ送受信コマンドの共通仕様について説明します。説明する項目を次に示します。

- コマンドの形式と文法規則
- 共通オプション
- 終了コード
- ログ出力
- ファイルパスについて
- 設定ファイル
- データ送受信失敗時の動作について
- 同一 PC 上での同時実行について

(1) コマンドの形式と文法規則

データ送受信コマンドの形式と文法規則，および値の指定方法について説明します。形式を次に示します。なお，Linux の場合は，コマンド名の拡張子「bat」を「sh」と読み替えてください。

```
DWClient.bat
△コマンド種別
[△オプションA[△値a[△値b[△値c...]]]] ... (i) } (ii)
[△オプションB[△値a[△値b[△値c...]]]] ... (i)
```

(i)を「オプション」，(ii)を「引数」と呼びます。

データ送受信コマンドは，次の文法規則に従って指定してください。

- オプションを複数指定する場合，指定順序は任意です。
- 同一オプションを複数指定することはできません。
- 存在しないオプションを指定した場合，エラーとなります。
- 値に「△(空白文字)」を含める場合は，値を「" (ダブルクォート)」で囲んでください。
- & (アンパサンド)，^ (サーカムフレックスアクセント) などのコマンドライン特殊文字を指定する場合は，文字の前にエスケープ文字 (^) を記述してください。
- 値に「" (ダブルクォート)」は利用できません。

- コマンド長は、8,191 文字を超えないように指定してください。
- 1つのオプションに対し、値を複数指定する場合は、値間を「△（スペース）」で区切って指定してください。
- オプションに複数の値を指定した場合、値を1つしか持たないオプションでは最初に指定された値を使用します。値を複数持つオプションではすべての値が使用されます。

(2) 共通オプション

データ送受信コマンドの共通オプションを次に示します。

表 7-3 共通オプションの一覧

項番	オプション	意味
1	-property	送受信するユーザ ID/パスワードなどの情報を記述したコマンドプロパティファイル (property.xml) のパスを指定します。コマンドプロパティファイルの詳細は「7.3.1(6)(a) コマンドプロパティファイル (property.xml)」を参照してください。
2	-concurrenttimeout	すでにデータ送受信コマンド実行がされている場合、他実行の終了を待つ際のタイムアウト時間 (秒) です。0 から 86400 (24 時間) まで指定できます。0 を指定した場合は、他のデータ送受信コマンドの実行終了を待たずに終了します。指定を省略した場合は、0 が使用されます。

(3) 終了コード

データ送受信コマンドの実行によって出力される終了コードを次に示します。

Windows の場合、終了コードの値は、データ送受信コマンドの実行直後であれば、環境変数「ERRORLEVEL」で参照できます。例えば、データ送受信コマンドの実行直後にコマンドラインインターフェースで「echo△%ERRORLEVEL%」を実行すると、終了コードを標準出力へ出力できます。

表 7-4 終了コードの一覧

終了コード	説明
0	データ送受信コマンドの実行が正常終了したことを示します。
2	一時停止終了
3	受付拒否終了
4	データ送受信コマンドの実行が警告終了したことを示します。処理の一部で正常ケースではない事象が発生しましたが、他の処理は継続したことを示します。
8	すでに別のデータ送受信コマンドが起動済みのため、データ送受信コマンドの実行が終了したことを示します。
12	中止終了

終了コード	説明
16	データ送受信コマンドの実行が異常終了したことを示します。異常発生以降の処理は実行されません。エラーの詳細はログファイルに出力されます。
32	Java VM が異常終了したことを示します。
64	環境変数に指定するパスに誤りがあるため、Java の実行に失敗したことを示します。

(4) ログ出力

データ送受信コマンドで出力されるアプリケーションログについて説明します。

(a) ログレベル

アプリケーションログのログレベルの一覧を次の表に示します。

表 7-5 アプリケーションログのログレベルの一覧

項番	ログレベル	ID	重要度	内容	監視対象
1	Error	E	代表ユーザ対応レベル、またはシステム管理者対応レベル	ネットワーク環境などの実行環境の問題や、データ送受信コマンドの入力パラメータの問題により、データ送受信コマンドの処理が続行できないことを示します。 代表ユーザによる対処が必要な障害です。システム管理者による対処が必要になることもあります。 終了コード 16, 8 のケースのログです。	○
2	Warn	W	一時的な障害	データ送受信コマンドの処理で正常ケースではない事象が発生したことを示します。 データ送受信コマンドの処理は続行されます。終了コード 4 のケースのログです。	△
3	Info	I	通常イベント	正常処理の進行を通知するログです。	×

(凡例)

○：監視対象のログレベル

△：システムの性質によって監視する／しないを検討するレベル

×：監視対象外のログレベル

(b) ログファイル

ログファイルの仕様を次の表に示します。

表 7-6 ログファイルの仕様

項番	項目	形式または値
1	ファイル形式	テキスト形式
2	文字コード	UTF-8
3	改行コード	CR+LF

ログファイルは次のパスに出力されます。保管日数は 30 日です。

<インストールフォルダ>¥log¥dwc-yyyyMMddhhmmss-GUID. log

(凡例)

- ・ <インストールフォルダ>：データ送受信コマンドをインストールしたフォルダ
- ・ yyyyMMddhhmmss：データ送受信コマンドの実行日時（yyyy：西暦 4 桁，MM：月 2 桁，dd：日付 2 桁，hh：時間 2 桁（24 時間表示），mm：分，ss：秒）
- ・ GUID：GUID 形式のランダム文字列

注意

データ送受信コマンドを実行するごとに、既定の出力先に新しいログファイルが出力されます。ログ出力先が存在しない場合は、ログ出力先フォルダを自動的に作成し、ログを出力します。なお、ログファイルは、保管日数の経過後にデータ送受信コマンドを起動すると自動的に削除されます。

(c) 出力形式

アプリケーションログの出力形式を次に示します。

日付 区切り文字 時刻△バージョン番号△ログレベル△メッセージID△メッセージテキスト

(凡例)

△：1 バイト（半角）の空白文字を示します。

アプリケーションログの出力例を次に示します。

```
2011/04/19T20:38:21.500 01-07 INFO DWC01001_I Command start.
2011/04/19T20:38:28.250 01-07 INFO DWC01041_I ファイルの送信を完了しました。
2011/04/19T20:38:28.250 01-07 INFO DWC01002_I Command finished.
```

アプリケーションログの出力内容を次の表に示します。具体的なメッセージについては、「[7.4.2 データ送受信コマンドのメッセージ](#)」を参照してください。

表 7-7 ログファイルの出力内容

項番	項目	桁数	出力内容
1	日付	10	yyyy/MM/dd

項番	項目	桁数	出力内容
1	日付	10	<ul style="list-style-type: none"> yyyy：西暦 4 桁 MM：月 2 桁 dd：日付 2 桁
2	区切り文字	1	T
3	時刻	12	HH:mm:ss.SSS <ul style="list-style-type: none"> HH：時間 2 桁（24 時間表示） mm：分 ss：秒 SSS：ミリ秒 なお、出力時刻はクライアント側の時刻となります。
4	バージョン番号	8	01-05 左詰めとなり、右側は△で埋められます。
5	ログレベル	5	ログレベルです。左詰めとなります。 詳細は「 7.3.1(4)(a) ログレベル 」を参照してください。
6	メッセージ ID	10	メッセージを特定する ID XXXXYYYY_Z <ul style="list-style-type: none"> XXXX：製品コード YYYY：メッセージ番号 Z：ログレベル ID（I：Info, W：Warn, E：Error）
7	メッセージテキスト	可変長	メッセージの内容 Java のスタックトレース情報を含む場合、改行が含まれることがあります。

(5) ファイルパスについて

データ送受信コマンドで使用するファイルパスは、絶対パスで指定してください。

パス表記は UNC 形式とローカルパス形式の両方の形式で指定できますが、ネットワーク上にあるファイルを送信する場合、またはネットワークフォルダでファイルを受信する場合、クライアントとネットワークフォルダ間の通信速度がボトルネックとなり、通信速度が低速になることがあります。このような場合は、JP1/DH - Server の特長であるファイル高速通信が生かせないため、データ送受信コマンドに指定するパスは、ローカルファイルパスをお勧めします。

(6) 設定ファイル

設定ファイルについての説明を次の表に示します。

表 7-8 設定ファイル一覧

項番	設定ファイル	説明
1	コマンドプロパティファイル	利用者のユーザ ID/パスワードなどの情報を設定します。

項番	設定ファイル	説明
2	受信済み配送リストファイル	受信済みの配送情報が記載されます。

(a) コマンドプロパティファイル (property.xml)

利用者のユーザ ID/パスワードなどの情報を記述した XML ファイルです。データ送受信コマンドの実行時引数として指定します。パスワードはそのままの文字列で記述しますので、アクセス権を設定するなど適切なセキュリティを設定してください。

コマンドプロパティファイルの仕様を次の表に示します。

表 7-9 コマンドプロパティファイルの仕様

項番	項目	形式または値
1	ファイル形式	XML 形式
2	文字コード	UTF-8
3	改行コード	CR+LF

コマンドプロパティファイルは次の形式で記述します。

```
<?xml version="1.0" encoding="utf-8" ?>
<property>
  <serverUrl>値</serverUrl>
  <userId>値</userId>
  <password>値</password>
  <authenticationMethod>値</authenticationMethod>
  <certificatePath>値</certificatePath>
  <certificatePassword>値</certificatePassword>
  <useProxy>値</useProxy>
  <proxyHost>値</proxyHost>
  <proxyPort>値</proxyPort>
  <proxyId>値</proxyId>
  <proxyPassword>値</proxyPassword>
</property>
```

それぞれの設定項目について、次の表に示します。

表 7-10 コマンドプロパティファイルの設定項目

項番	設定項目	要素名	説明	初期設定値
1	接続先サーバの URL	serverUrl	接続先サーバの URL を指定します。 (例) https://jpldh-hitachi.co.jp/	なし
2	ユーザ ID	userId	接続先サーバへのログインユーザ ID を指定します。 認証方式が「電子証明書認証」の場合は指定を省略できます。「標準パスワード認証」の場合は必ず指定する必要があります。	なし

項番	設定項目	要素名	説明	初期設定値
2	ユーザ ID	userId	(例) user@company	なし
3	ユーザパスワード	password	<p>接続先サーバへのログインユーザパスワードを指定します。</p> <p>認証システムが「LDAP 認証システム」の場合は、接続先のディレクトリ・サーバに登録されているパスワードを指定します。</p> <p>認証方式が「電子証明書認証」の場合は指定を省略できます。「標準パスワード認証」の場合は必ず指定する必要があります。</p> <p>パスワード文字列※1 を平文で記述するか、パスワード文字列のダイジェスト※2 を 16 進表記で記述してください。認証システムに「LDAP 認証」を使用している場合、ダイジェスト形式は指定できません。</p> <p>平文での記述例：password</p> <p>ダイジェストで指定する場合は「text:HEX:」のあとに、40 文字のダイジェスト文字列を記入します。ダイジェスト文字列部分には、大文字・小文字の区別はありません。</p> <p>ダイジェストは、エクスポート時にパスワード欄に表示されているものを記述できます。</p> <p>ダイジェストでの記述例</p> <p>text:HEX: 5baa61e4c9b93f3f0682250b6cf8331b7ee68fd8</p> <p>なお、平文のパスワード文字列として「text:HEX:」で始まる文字列は指定できません。</p> <p>(例) password</p>	なし
4	認証方式	authenticationMethod	<p>認証方式を指定します。省略した場合は標準パスワード認証で動作します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • PASSWORD：標準パスワード認証 • CERTIFICATION：証明書認証 	PASSWORD
5	証明書ファイルのパス	certificatePath	<p>証明書ファイルのパスを絶対パス形式で指定します。</p> <p>認証方式に「標準パスワード認証」を使用する場合は、指定を省略できます。「電子証明書認証」を使用する場合は、必ず指定する必要があります。</p>	なし
6	証明書ファイルのパスワード	certificatePassword	<p>証明書ファイルのパスワードを指定します。</p> <p>認証方式に「標準パスワード認証」を使用する場合は、指定を省略できます。「電子証明書認証」を使用する場合は、必ず指定する必要があります。</p>	なし
7	プロキシ使用フラグ	useProxy	<p>プロキシサーバを使用するかどうかを指定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 使用する場合：true • 使用しない場合：false 	false

項番	設定項目	要素名	説明	初期設定値
7	プロキシ使用フラグ	useProxy	大文字・小文字は区別しません。指定できる値以外を指定した場合は、エラーとなります。 (例) true	false
8	プロキシサーバホスト名	proxyHost	プロキシサーバのホスト名または IP アドレスを指定します。 (例 1) Proxyserver (例 2) 192.168.0.1	なし
9	プロキシサーバポート番号	proxyPort	プロキシサーバのポート番号を指定します。0～65535 の範囲で指定できます。 (例) 3128	なし
10	プロキシ認証 ID	proxyId	プロキシサーバの認証 ID を指定します。 (例) user	なし
11	プロキシ認証パスワード	proxyPassword	プロキシサーバの認証パスワードを指定します。 (例) password	なし

注※1

入力できる文字数、文字の種類は、認証ルールで設定された文字数以内の半角英数字と記号です。
使用できる記号は「!\"#\$%&'()*+,-./:;<=>?[¥]^_`{|}~」です。

注※2

ダイジェストは JP1/DH - Server がパスワードをデータベースに保管する形式で、この値から実際のパスワード文字列を復元することができない形式です。エクスポート CSV のパスワード項目には、ダイジェストの形式でパスワードの情報が出力されます。

値は、XML の入力規則に従って入力してください。特に、XML での特殊な記号を使う際は注意してください。次の文字を使用する場合は、エンティティ参照（エスケープ文字）に置き換えるか、CDATA セクションを利用してください。

表 7-11 XML のエスケープ文字

項番	文字	エンティティ参照による表記
1	<	<
2	>	>
3	&	&
4	”	"
5	’	'

なお、改行などの制御文字は、XML の規格に従ったエンティティで表示される場合があります。XML の属性の出現順は、XML の規約に従い順序性を持ちません。

日時を表すデータは ISO8601:2004 に基づいた W3C-DTF 形式である「YYYY-MM-DDThh:mm:ssTDZ」で表現されます。タイムゾーン (TDZ) は、OS のタイムゾーンに応じたオフセット時間となります。日本の場合は+09:00 です。

設定例を次に示します。

```
<?xml version="1.0" encoding="utf-8" ?>
<property>
  <serverUrl>https://jp1dh-hitachi.co.jp/</serverUrl>
  <userId>user@company</userId>
  <password>password</password>
  <authenticationMethod>CERTIFICATION</authenticationMethod>
  <certificatePath>C:/hitachi/hitachi01.dat</certificatePath>
  <certificatePassword>hitachi01</certificatePassword>
  <useProxy>true</useProxy>
  <proxyHost>proxyserver</proxyHost>
  <proxyPort>8080</proxyPort>
  <proxyId>proxyid</proxyId>
  <proxyPassword>proxypassword</proxyPassword>
</property>
```

(b) 受信済み配送リストファイル

受信済みの配送リストが記述されたファイルです。実行時引数として指定してください。このファイルに記載されている配送は受信済みとされ、その後受信されません。

このファイルは受信時に自動的に更新されますので、変更しないでください。また、JP1/DH - Server のユーザごとに別のファイルを用意する必要があります。

(7) データ送受信失敗時の動作について

データ送受信中に何らかのエラーが発生し、データの送受信に失敗した場合、送受信はその後の処理も含めて中止されます。自動的にリトライは行われません。再度、送信または受信を行ってください。

(8) 同一 PC 上での同時実行について

データ送受信コマンドは同一 PC 上での複数同時実行はできません。同一 PC 上で同時実行した場合、オプションで指定したタイムアウト時間だけ待機状態となります。

ただし、同一 PC 上の場合でも、データ送受信コマンドを実行する OS アカウントを分けたときは、その実行アカウントの数だけ複数同時実行が可能となります。

また、複数のデータ送受信コマンドが同時に待機状態となった場合、実行順序はデータ送受信コマンドを起動した順序と異なる場合があります。例えば、データ送受信コマンド A を実行中にデータ送受信コマンド B とデータ送受信コマンド C が待機状態となった場合、データ送受信コマンド A が終了したあとに実行されるコマンドは、データ送受信コマンド B またはデータ送受信コマンド C のどちらかになります。

7.3.2 データ送受信コマンド一覧

データ送受信コマンドの一覧を次の表に示します。なお、Linux の場合は、コマンド名の拡張子「bat」を「sh」と読み替えてください。

表 7-12 コマンド一覧

項番	機能	コマンド	説明	参照先
1	ファイルの送受信	DWClient.bat△UPLOAD	ファイルを送信します。	7.3.2(1) ファイルの送信
2		DWClient.bat△DOWNLOAD	ファイルを受信します。	7.3.2(2) ファイルの受信
3	一時停止中のファイル転送の再開	DWClient.bat△RESUME	一時停止状態のファイル転送を再開します。	7.3.2(3) 一時停止中のファイル転送の再開

注意

システムに未登録のユーザが、データ送受信コマンドを使用してファイルの送受信をすることはできません。未登録のユーザ宛てへのファイルの送信は可能ですが、未登録のユーザ宛ての送信を、データ送受信コマンドで受信することはできません。

(1) ファイルの送信

ファイルを送信します。

(a) 形式

```
DWClient.bat△UPLOAD
[[[△-to△メールアドレス [-toname 名前 ][-todivision 所属]]|※
  [△-cc△メールアドレス [-ccname 名前 ][-ccdivision 所属]]|※
  [△-bcc△メールアドレス [-bccname 名前 ][-bccdivision 所属]]]|※
[△-destinationfile△宛先ファイルパス]]
△-file△[ファイルパス [△ファイルパス]]|[フォルダパス [△フォルダパス]]…
[△-title△タイトル]
[△-message△メッセージ | -messagefile△メッセージファイル]
[△-openpassword△開封パスワード]
[△-resumestatus△ファイル転送再開情報ファイルの格納フォルダ]
△-property△コマンドプロパティファイルパス
[△-concurrenttimeout△タイムアウト時間(秒)]
```

注※ このうち 1 つ以上のオプションを指定します。

(b) 引数

表 7-13 ファイル送信の引数

項番	オプション	説明
1	-to	to で送信する宛先を指定します。メールアドレス、またはグループ名（英語）を指定できます。大文字・小文字は区別されません。 値に@（アットマーク）が含まれていない場合は、グループ名として登録します。 複数の宛先を指定する場合は、コロン（:）で区切ります。to/cc/bcc 合わせて、JP1/DH - Server 側で設定された宛先の上限数まで指定できます。上限値設定の詳細については、マニュアル「JP1/Data Highway - Server 構築・運用ガイド」を参照してください。メールアドレスとグループ名を混在して指定することもできます。
2	-toname	-to オプションで指定した宛先の名前を、コロン(:)区切りで指定します。 -to オプションで指定した個数まで指定できます。指定した引数が-to オプションより少ない場合は、指定を省略したと判断されます。 宛先にグループ名を指定した場合は、ここでの指定は無視されます。
3	-todivision	-to オプションで指定した宛先の所属をコロン(:)区切りで指定します。 -to オプションで指定した個数まで指定できます。指定した引数が-to オプションより少ない場合は、指定を省略したと判断されます。なお、区切り文字のコロン（:）を所属に含めることはできません。 宛先にグループ名を指定した場合は、ここでの指定は無視されます。
4	-cc	cc で送信する宛先を指定します。メールアドレス、またはグループ名（英語）を指定できます。指定方法は-to オプションと同様です。
5	-ccname	-cc オプションで指定した宛先の名前をコロン(:)区切りで指定します。 -cc オプションで指定した個数まで指定できます。指定した引数が-cc オプションより少ない場合は、指定を省略したと判断されます。
6	-ccdivision	-cc オプションで指定した宛先の所属をコロン(:)区切りで指定します。 -cc オプションで指定した個数まで指定できます。指定した引数が-cc オプションより少ない場合は、指定を省略したと判断されます。なお、区切り文字のコロン(:)を所属に含めることはできません。
7	-bcc	bcc で送信する宛先を指定します。メールアドレス、またはグループ名（英語）を指定できます。 指定方法は-to オプションと同様です。
8	-bccname	-bcc オプションで指定した宛先の名前をコロン(:)区切りで指定します。 -bcc オプションで指定した個数まで指定できます。指定した引数が-bcc オプションより少ない場合は、指定を省略したと判断されます。
9	-bccdivision	-bcc オプションで指定した宛先の所属をコロン(:)区切りで指定します。 -bcc オプションで指定した個数まで指定できます。指定した引数が-bcc オプションより少ない場合は、指定を省略したと判断されます。なお、区切り文字のコロン（:）を所属に含めることはできません。
10	-destinationfile	宛先の指定を CSV 形式のファイルで行う場合に使用します。宛先を記載した宛先ファイルのパスを指定します。次に示す、他の宛先指定オプションと同時に指定できません。

項 番	オプション	説明
10	-destinationfile	<ul style="list-style-type: none"> • -to, -cc, -bcc • -toname, -ccname, -bccname, • -todivision, -ccdivision, -bccdivision <p>宛先ファイルの詳細については、(e)宛先ファイルを参照してください。</p> <p>このオプションは、JP1/DH - Server のバージョンが 10-50 以降の場合、使用が可能です。10-50 より低いバージョンの JP1/DH - Server にこのオプションを指定した場合、「DWCO1913_E サーバからエラーが返されました。接続先のサーバが本コマンドに対応していません」のエラーが発生します。</p>
11	-file	<p>送信するファイル、またはフォルダのパスを指定します。</p> <p>複数のファイル、またはフォルダを指定する場合は、半角スペース（△）で区切ります。最大で 10 個まで指定できます。ただし、配送ポリシーでファイル数が 10 個未満に指定されている場合は、その個数まで指定できます。</p>
12	-title	<p>件名を指定します。最大で 100 文字まで入力できます。</p> <p>省略した場合、件名は空になります。ただし、メールの件名は、システムでデフォルトの件名が使用されます。</p>
13	-message	<p>メールに記載されるメッセージを指定します。最大で 256 文字まで入力できます。省略した場合、メッセージは空になります。改行は使用できません。</p>
14	-messagefile	<p>メールに記載するメッセージが書かれたテキストファイルのパスを指定します。</p> <p>テキストファイルの文字コードは UTF-8 で記述してください。UTF-8 以外の文字コードで記述すると文字化けする場合があります。</p> <p>なお、BOM、および改行コードの有無は問いません。最大で 4,096 文字まで入力できます。ただし、BOM が付与されている場合は、4,095 文字となります。</p> <p>改行は 1 文字として扱われます。</p> <p>指定を省略した場合、メッセージは空となります。同時に -message オプションを指定していた場合、エラーとなります。</p>
15	-openpassword	<p>未登録宛先送信時の開封パスワードを指定します。指定を省略した場合、開封パスワードは空となりますが、未登録宛先送信時には開封パスワードが必須となるため、エラーとなります。登録済み宛先送信時には開封パスワードを入力しても使用されずに、無視されます。</p> <p>開封パスワードは 6～32 文字の半角英数字と記号で、2 種類以上の文字種（数字、英小文字、英大文字、記号）を使用して設定してください。記号には次の文字を使用できます。</p> <p>!"#\$%&'()*+,-./:;<=>?[¥]^_`{ }~</p> <p>なお、開封パスワードを「"(ダブルクォート)」で囲んだ場合、"内の文字がパスワードとなります。例えば、「"Password01"」と指定した場合は、「Password01」がパスワードとなります。</p>
16	-resumestatus	<p>送信を再開するための情報を格納したフォルダのパスを指定します。</p> <p>JP1/DH - Server からの一時停止要求により送信が中断された場合は、ここで指定したパスに再開情報ファイルが保存されます。</p> <p>指定したフォルダ下に、すでに再開情報ファイルが存在する場合は上書きされます。なお、このオプションを指定しても、次の場合は送信できません。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 配送ポリシーの圧縮方式が【標準】※の場合 • -file オプションにフォルダが含まれる場合 • 配送ポリシーに圧縮強度【強】 / 【中】 / 【弱】のどれかが設定されている場合

項番	オプション	説明
16	-resumestatus	<p>注※ [拡張] の場合、または、配送ポリシーの圧縮方式が選択不可能な場合は送信できません。</p> <p>ファイル転送が正常に終了した場合、または JP1/DH - Server からの中止要求によりファイル転送が中止された場合は、再開情報ファイルは削除されます。</p>
17	-property	「7.3.1(2) 共通オプション」を参照してください。
18	-concurrenttimeout	

(c) 解説

ファイルの送信コマンドの詳細を次に示します。

(i) ファイルの送信コマンドで指定できないオプションについて

ファイル送信時の次のオプションについては、実行時引数などでの設定はできません。次の表に示す規定値を使用します。

表 7-14 送信時のオプション

項番	分類	項目	値
1	配送ルール	配送ルール	Web 画面と同じく、送信元および宛先により決定される配送ルールが適用されます。
2	配送ポリシー	配送ポリシー	Web 画面と同じく、配送ルールに設定されている配送ポリシーが適用されます。
3	標準オプション	保管設定期限	適用された配送ポリシーの標準値を使用します。 標準値が設定されていない場合は、最大値を使用します。
4		ダウンロード回数制限	適用された配送ポリシーの標準値を使用します。 標準値が設定されていない場合は、制限なしになります。
5		開封(未開封)通知	適用された配送ポリシーの標準値を使用します。 標準値が設定されていない場合は、通知なしになります。
6		圧縮	適用された配送ポリシーの圧縮強度を使用します。 複数の圧縮強度が利用可能になっている場合は、優先順位の高いものが使用されます。優先順位は、次のとおりです。 1. 圧縮なし 2. [強] 3. [中] 4. [弱]
7		高速通信モード	常に使用します。

項番	分類	項目	値
8	拡張オプション	通知設定	常に、詳細情報を通知メールに表示します。
9	通知メール	言語	コマンド実行ユーザのユーザ言語になります。

(ii) Web 画面上から送信した場合との差異について

ファイルの送信コマンドでは、Web 画面からの操作をした場合と比べて、次の差異があります。

- ショートカットファイルは送信できません。
- メッセージだけの配送はできません。必ず 1 つ以上のファイルを送信する必要があります。

(iii) 配送通知メールに記載されるお届け先などのユーザの名前について

宛先の名前を省略して送信した場合は、システムに登録されている名前になります。

(iv) アドレス帳に表示されないユーザへファイルを送信した場合について

任意のメールアドレスへの送信権限がない場合に、アドレス帳に表示されていないユーザへファイルを送信しようとしたときは、ファイルの送信に失敗します。

また、監査ログに"ILLEGAL_INTERFACE_CALL"として記録されます。

(v) 無効ユーザに対する送信について

無効化されたユーザに対してもファイルを送信することができます。

(d) 実行例

```
DWClient.bat UPLOAD
-to "user@mailaddress.com"
-file "C:¥send¥file.txt"
-title "title"
-message "message"
-resumestatus "C:¥DWClient¥temp"
-property "C:¥DWClient¥property.xml"
```

(e) 宛先ファイル

CSV 形式のファイルで宛先の指定を行う場合に使用します。

1 行に 1 つの宛先を記載します。文字コードは UTF-8 で作成してください。

表 7-15 宛先ファイルのフォーマット

項番	項目	説明
1	ADDRESS_TYPE (宛先種別)	宛先の種別を指定します。 [TO][CC][BCC]のどれか 1 つを指定します。 大文字・小文字は区別しません。 指定は必須です。
2	DESTINATION (宛先)	宛先のメールアドレスまたはグループ名（英語）を指定します。 指定可能な文字は[-to][-cc][-bcc]オプションと同じです。

項番	項目	説明
2	DESTINATION (宛先)	指定は必須です。
3	NAME (宛先の名前)	宛先の名前を指定します。 指定可能な文字は[-toname][-ccname][-bccname]オプションと同じです。 [DESTINATION]にグループ名を指定した場合は、ここでの指定は無視されます。 指定は必須ではありません。
4	DIVISION (宛先の所属)	宛先の所属を指定します。 指定可能な文字は[-todivision][-ccdivision][-bccdivision]オプションと同じです。 [DESTINATION]にグループ名を指定した場合は、ここでの指定は無視されます。 指定は必須ではありません。

宛先ファイルのサンプルを次に示します。

```
T0, testuser01@hitachi.co.jp, テストユーザ 1, 第 1 設計部
CC, testuser02@hitachi.co.jp, テストユーザ 2, 第 1 設計部
BCC, group01,,
```

宛先は、JP1/DH - Server 側で設定された宛先の上限数まで指定できます。設定の詳細については、マニュアル「JP1/Data Highway - Server 構築・運用ガイド」を参照してください。

(2) ファイルの受信

受信済み配送リストファイルに記載されていない配送のファイル/フォルダを受信します。

なお、システムに未登録のユーザ宛での送信を、ファイルの受信コマンドで受信することはできません。

(a) 形式

```
DWClient.bat△DOWNLOAD
△-savedir△ダウンロードファイル保存フォルダパス
△-receivedlist△受信済み配送リストファイルパス
[△-makesubdir]
[△-notoverwrite]
[△-resumestatus△ファイル転送再開情報ファイルの格納フォルダ]
[△-getdeliveryinfo]
[△-newarrivalexitcode]
[△-deliveryid△配送ID]
△-property△コマンドプロパティファイルパス
[△-concurrenttimeout△タイムアウト時間(秒)]
```

(b) 引数

表 7-16 ファイル受信の引数

項番	オプション	説明
1	-saverdir	ダウンロードファイルの保存フォルダパスを指定します。 存在するフォルダを指定してください。指定したフォルダが存在しない場合はエラーになります。
2	-receivedlist	受信済み配送リストファイルのパスを指定します。 指定されたファイルが存在しない場合は、自動的に作成されます。
3	-makesubdir	このオプションを指定した場合、-saverdir オプションで指定したフォルダに配送（配送 ID）単位でフォルダ（配送 ID サブフォルダ）を作成し、配送ごとに分割してファイルを保存します。このため、同名のファイル/フォルダでも、配送が異なれば保存することができます。配送単位で作成されるフォルダ名は配送 ID と同じ最大 19 桁の数字です。 同じ配送内に同名のファイル/フォルダが存在した場合で、同時に-notooverwrite オプションを指定しなかったときは、ファイル ID の新しいファイル/フォルダで上書きして保存されます。 このオプションを省略した場合は、-saverdir オプションで指定したフォルダにファイル/フォルダをダウンロードします。
4	-notooverwrite	このオプションを指定した場合、ダウンロードファイルの保存先に同名のファイル/フォルダが存在すると、ダウンロードをスキップします。 ダウンロードをスキップした場合は、メッセージとログを出力します。 このオプションを省略した場合は、ダウンロードファイルの保存先に同名のファイル/フォルダが存在しても上書きします。
5	-resumestatus	受信を再開するための情報を格納するフォルダのパスを指定します。JP1/DH - Server からの一時停止要求により受信が中断された場合は、ここで指定したパスに再開情報ファイルが保存されます。 -resumestatus オプションで指定したフォルダ下に、すでに再開情報ファイルが存在する場合は、上書きされます。 なお、ファイル転送が正常に終了した場合、JP1/DH - Server からの中止要求によりファイル転送が中止された場合は、再開情報ファイルは削除されます。
6	-getdeliveryinfo	このオプションを指定した場合、引数-saverdir で指定したフォルダ下に metadata フォルダを作成し、ファイルのダウンロード時に配送（配送 ID）単位で XML 形式の配送情報ファイルを取得します。配送単位で作成されるファイル名は配送 ID と同じ最大 19 桁の数字です。 ファイルのダウンロードに失敗し、すべてのファイルがダウンロードできなかった場合でも、配送情報はすべてのファイルについて取得が完了している状態となります。 なお、引数-saverdir で指定したフォルダ下にすでに metadata フォルダが存在する場合は、あらかじめ削除するか別名としてください。同名のフォルダが存在する場合は、上書きします。また、ダウンロードするファイル/フォルダが存在しない場合に、このオプションを指定したときは、配送情報ファイルは出力されません。
7	-newarrivalexitcode	このオプションを指定した場合、ファイル/フォルダを含む配送を受信したときには、128 が加算された終了コードが出力されます。

項番	オプション	説明
7	-newarrivalexitcode	ファイル/フォルダがなく、メッセージだけの配送の場合は、通常の終了コードが出力されます。 Java VM の強制終了の場合は、128 は加算されません。
8	-deliveryid	<ul style="list-style-type: none"> このオプションは受信ボックスにある配送から、特定の配送だけを選択して受信する場合に使用します。 <p>受信する配送の配送 ID を指定します。指定可能な配送 ID は 1 つです（複数の配送 ID を指定することはできません）。受信ボックスにある配送の配送 ID は、データ送受信管理コマンドの受信ボックス一覧取得（GETINBOX）を使用して取得してください。受信ボックス一覧取得の詳細は、「8.3.2(2) 受信ボックス一覧取得」を参照してください。</p> <p>このオプションを省略した場合は、-receivedlist オプションで指定された受信済み配送リストに従い、未受信の配送をすべて受信します。</p> <ul style="list-style-type: none"> このオプションは、JP1/DH - Server のバージョンが 10-50 以降の場合、使用が可能です。10-50 より低いバージョンの JP1/DH - Server にこのオプションを指定した場合、「DWCO1913_E サーバからエラーが返されました。接続先のサーバが本コマンドに対応していません」のエラーが発生します。
9	-property	「 7.3.1(2) 共通オプション 」を参照してください。
10	-concurrenttimeout	

(c) 解説

ファイルの受信コマンドの詳細を次に示します。

(i)受信時に一時的に使用するディスク領域について

受信時、一度すべてのファイルは一時領域（データ送受信コマンドをインストールしたフォルダの下 work フォルダ）にダウンロードされます。その後、実行時引数で指定されたフォルダに移動されます。そのため、受信時には一時領域に、受信するファイルサイズ分のディスク領域が必要になります。また、受信中断・失敗時に、一時領域内に不完全なファイルが残ることがあります。その場合は、一時領域内のファイルを削除してください。

(ii)同名ファイル受信時の上書きについて

ダウンロードファイルは、実行時引数で指定されたフォルダに保存されます。同名ファイルが存在していた場合、新しい日付の配送のデータで上書きされます。フォルダの場合も同様です。

上書きされたファイル/フォルダについても、通常どおりにダウンロード量のカウント対象となりますので注意してください。

(iii)受信する配送について

-deliveryid オプションを指定した場合：

-deliveryid で指定した配送だけを受信します。過去に受信した配送を受信することも可能です。

-deliveryid オプションを省略した場合：

新着配送（受信済み配送リストファイルに記載されていない配送）だけ、受信します。過去に受信したファイルは、ファイルの受信コマンドでは受信できません。

(iv)ダウンロード制限により受信できなかったファイルについて

1 か月間のダウンロード制限を超過するため、ファイルを受信できなかった場合、その配送またはファイルは受信済み配送リストファイルへ登録され、その後再度ファイルの受信コマンドを実行してもダウンロードされなくなります。

このようなファイルをダウンロードするには、代表ユーザによるダウンロード制限値の緩和を行ったのち、Web 画面からダウンロードしてください。

(v)-makesubdir オプションを指定した場合について

ダウンロードが途中で中断され、すべてのファイルをダウンロードできなかった場合、再ダウンロード時は次の動作となります。

- 配送が異なるファイル/フォルダの場合

新たに配送単位でフォルダを作成し、ダウンロードします。

- 配送が同一のファイル/フォルダの場合

ダウンロードが途中で中断された時点での配送単位で、フォルダが作成されていない場合は、新たに配送単位でフォルダを作成してダウンロードします。すでに配送単位でフォルダが作成されている場合は、同一フォルダ内にダウンロードします。

- 再ダウンロード時に初回と異なる保存先を指定した場合

ダウンロードが同一配送内で中断された場合で、再ダウンロード時に初回と異なる保存先を指定したときは、再ダウンロード時に指定した保存先に新たに配送単位でフォルダを作成してダウンロードをします。このような場合は、同一配送内のファイルが異なる保存先に分散して保存されます。

保存先フォルダに配送 ID と同名のファイルが存在する場合、同名のフォルダの作成はできないためエラーが発生します。

配送単位で作成されるフォルダも含めた保存先フォルダパスが、260 文字を超えないようにしてください。保存先フォルダパスが 260 文字を超えた場合、ダウンロードできません。

(vi)実行中にユーザ無効化された場合の動作について

ファイルの受信コマンド実行中に、受信を行っているユーザが無効化された場合、受信処理は継続され、正常にファイルを受信します。また、その後も処理を継続し、すべての配送を取得します。次のファイルの受信コマンド実行時からは、そのユーザはすべての配送を受信できません。

(vii)受信済み配送リストに記載されている配送の警告ログについて

以前受信に成功し、受信済み配送リストに記載されている配送が次の状態に変更された場合、ファイルの受信コマンドを再度実行したときに警告ログが出力されます。

- 配送の送信者が削除・無効化された場合
- 有効な配送ルールがない場合
- 配送がファイルの受信コマンド実行中に削除された場合
- 配送を承認した承認者が削除された場合

(viii)引数-getdeliveryinfo を指定した場合について

引数-getdeliveryinfo を指定した場合に出力される配送情報ファイルの形式を次に示します。

```
<?xml version="1.0" encoding="UTF-8" standalone="yes"?>
<data>
  <delivery id="123" send-date=" 2012/11/20 02:25" subject="〇〇の件">
    <sender email="user1@domain1.co.jp">
      <files>
        <file id="27" type="file" name="××会議資料.txt" size="1024524"/>
        <file id="28" type="file" name="△△検討結果.doc" size="3134562"/>
      </files>
    </sender>
    <message>送信者の入力メッセージ</message>
  </delivery>
</data>
```

注意

- 配送情報ファイルには送信時の情報が出力されるため、送信が完了してから送信者がメールアドレスを変更した場合は、変更前のメールアドレスが出力されます。
- 送信が完了してから送信者ユーザが削除された場合、送信したファイルも併せて削除されるため、配送情報ファイルは出力されません。
- 保管期限が切れている配送を受信しようとした場合、ファイルの受信は、終了コード 4（警告終了）で終了します。その際、「DWCO1065_W 配送の保管期限が切れているため受信できません。」のエラーメッセージが表示されます。

配送情報ファイルに出力される要素の意味を次の表に示します。

表 7-17 配送情報ファイルの意味

要素/属性		個数	説明
data 要素		1	常に出力されます。
delivery 要素		1	配送情報タグ
	id 属性	1	配送 ID が出力されます。
	send-date 属性	1	配送（送信）が完了した日時が表示されます。
	subject 属性	1	配送の件名が出力されます。
sender 要素		1	送信者情報タグ
	email 属性	1	送信者のメールアドレスが出力されます。
files 要素		1	配送ファイル/フォルダリストタグ
file 要素		1 以上	配送ファイル/フォルダ情報タグ
	id 属性	1	配送ファイル/フォルダの ID が出力されます。
	type 属性	1	配送ファイル/フォルダの種別が出力されます。 <ul style="list-style-type: none"> • ファイル："file" • フォルダ："folder"
	name 属性	1	配送ファイル/フォルダ名が出力されます。
	size 属性	1	配送ファイル/フォルダのサイズが、バイト数で出力されます。フォルダの場合、フォルダの内容をアーカイブする前の合計バイト数が出力されます。

要素/属性	個数	説明
message 要素	1	送信者の入力メッセージ

(d) 実行例

```
DWClient.bat DOWNLOAD
-savedir "C:¥receive"
-receivedlist "C:¥DWClient¥receivedlist.txt"
-makesubdir
-getdeliveryinfo
-resumestatus "C:¥DWClient¥temp"
-newarrivalexitcode
-property "C:¥DWClient¥property.xml"
```

(3) 一時停止中のファイル転送の再開

一時停止状態のファイル転送を再開します。

(a) 形式

```
DWClient.bat△RESUME
△-property△コマンドプロパティファイルパス
△-resumestatus△ファイル転送再開情報ファイルの格納フォルダ
```

(b) 引数

表 7-18 一時停止中のファイル転送の再開の引数

項番	オプション	説明
1	-resumestatus	ファイル転送を再開するための情報が格納されたフォルダのパスを指定します。
2	-property	「7.3.1(2) 共通オプション」を参照してください。

(c) 解説

(i)一時停止を再開できない場合

- 配送ポリシーの圧縮方式が「標準」の場合は、配送の再開はできません。「拡張」の場合、または、配送ポリシーの圧縮方式が選択不可能な場合は送信できます。
- 配送ポリシーの圧縮強度が「圧縮なし」以外のファイルを指定した場合は、配送の再開はできません。
- JP1/DH - Server のファイル転送機能の受付状態が「受付拒否」の場合は、終了コードに 3（受付拒否終了）を出力して終了します。

(ii)ファイルの送信を再開する場合

- 送信を再開するファイルが、一時停止したあとにクライアントから削除されていた場合は、一時停止中のファイル転送の再開コマンドは異常終了します。

- 配送ポリシーの圧縮方式が〔標準〕の場合は、送信の再開はできません。〔拡張〕の場合、または、配送ポリシーの圧縮方式が選択不可能な場合は送信できます。
- 配送ポリシーの圧縮強度が〔圧縮なし〕以外のファイル、およびフォルダの場合は、送信の再開はできません。
- 送信中のファイルのファイル名、ファイルサイズ、更新日時のどれかが変更された場合は、送信できません。
- 未送信のファイルのファイル転送を再開する場合、ファイル名、ファイルサイズのどちらかが変更されていると、送信できません。

(iii) ファイルの受信を再開する場合

- 指定したファイルが、代表ユーザの設定した保管期限により、JP1/DH - Server 上で削除された場合は、ファイルの受信はスキップされます。また、受信途中のファイル、および再開情報ファイルは削除されます。終了コードには 4（警告終了）を出力して終了します。
- 指定した配送が JP1/DH - Server 上で削除済みの場合、および受信済みの場合は、ファイルの受信はスキップされます。終了コードには 4（警告終了）を出力して終了します。
- 指定されていない受信時のオプションは、前回の受信コマンドで指定したオプションが使用されます。
- 再開する受信が、[-deliveryid] オプションなしの場合、かつ、一時停止のあとに新しく受信したファイルが存在する場合は、合わせてダウンロードされます。
- 一時停止の再開に失敗した場合、一時停止のあとに新しく配送されたファイル転送のダウンロードはされません。この場合、再開情報ファイルは上書きしません。
- 配送ポリシーの圧縮方式が〔標準〕の場合
 - ・ 配送ポリシーの圧縮強度が〔圧縮なし〕のファイルの受信を再開する場合、前回の受信途中の続きから受信を再開します。
 - ・ 配送ポリシーの圧縮強度が〔圧縮なし〕以外のファイル、およびフォルダを指定した場合、受信途中の配送の再開はできないため、受信コマンドと同様に新規に受信を開始します。
- 配送ポリシーの圧縮方式が〔拡張〕の場合、または、配送ポリシーの圧縮方式が選択不可能な場合
 - ・ 配送ポリシーの圧縮強度が〔強〕 / 〔中〕 / 〔弱〕のどれかでファイル/フォルダの受信を再開する場合、前回の受信途中のファイルの始めから受信を再開します。

(d) 実行例

```
DWClient.bat RESUME
-property "C:¥DWClient¥property.xml"
-resumestatus "C:¥DWClient¥temp"
```


7.4 データ送受信コマンドのトラブルシュート

データ送受信コマンドを利用するときの、トラブル解決の手段を次に示します。

7.4.1 データ送受信コマンドの FAQ

データ送受信コマンドに関する FAQ を次の表に示します。

表 7-19 FAQ

項番	Question	Answer
1	ファイルの送信/受信がどの程度進んでいるか表示する方法はありますか。	データ送受信コマンドでは、進捗状況は表示されません。 送信/受信にかかる時間は、Web 画面から操作した場合と、ほぼ同じです。大容量のファイルを送信/受信する際は、時間がかかるため注意してください。

7.4.2 データ送受信コマンドのメッセージ

データ送受信コマンドのメッセージ一覧を次の表に示します。

表 7-20 メッセージ一覧

メッセージ ID	メッセージ内容	説明
DWCO1001_I	Command start.	データ送受信コマンドが処理を開始したことを通知します。
DWCO1002_I	Command finished.	データ送受信コマンドが処理を終了したことを通知します。
DWCO1031_I	送信の準備を開始しました。(コマンド引数:{0})	送信の準備を開始したことを通知します。 {0}にはコマンド引数が出力されます。
DWCO1032_I	送信の準備を終了しました。(配送 ID:{0})	送信の準備を終了したことを通知します。 {0}には配送 ID が出力されます。
DWCO1036_I	サーバへの送信を開始しました。(ファイル/フォルダパス:{0}, ファイル/フォルダサイズ:{1}Byte, 最終更新日時:{2})	サーバへの送信を開始したことを通知します。 {0}にはファイル/フォルダパス名が, {1}にはファイル/フォルダサイズが, {2}には最終更新日時が出力されます。
DWCO1037_I	サーバへの送信を終了しました。(ファイル ID:{0}, ファイル/フォルダサイズ:{1}Byte, 最終更新日時:{2})	サーバへの送信を終了したことを通知します。 {0}にはファイル ID が, {1}にはファイル/フォルダサイズが, {2}には最終更新日時が出力されます。

メッセージ ID	メッセージ内容	説明
DWCO1041_I	ファイルの送信を完了しました。	ファイルの送信が完了したことを通知します。
DWCO1042_I	ファイルのダイジェスト計算をスキップしました。	ファイルのダイジェスト計算をスキップしたことを通知します。
DWCO1043_I	ダイジェストの計算を開始しました。(ファイル/フォルダパス:{0}, ファイル/フォルダサイズ:{1}Byte, 最終更新日時:{2})	ダイジェスト計算を開始したことを通知します。 {0}にはファイル/フォルダパス名が, {1}にはファイル/フォルダサイズが, {2}には最終更新日時が出力されます。
DWCO1044_I	ダイジェストの計算を終了しました。(ダイジェスト値:{0}, ファイル/フォルダサイズ:{1}Byte, 最終更新日時:{2})	ダイジェスト計算を終了したことを通知します。 {0}にはダイジェスト値が, {1}にはファイル/フォルダサイズが, {2}には最終更新日時が出力されます。
DWCO1051_I	受信の準備を開始しました。(コマンド引数:{0})	受信の準備を開始したことを通知します。 {0}にはコマンド引数が出力されます。
DWCO1052_I	受信の準備を終了しました。(新着ファイル数:{0})	受信の準備を終了したことを通知します。 {0}には新着ファイル数が出力されます。
DWCO1056_I	サーバからの受信を開始しました。(配送 ID:{0}, ファイル ID:{1}, ファイル/フォルダパス:{2}, ファイル/フォルダサイズ:{3}Byte)	サーバからの受信を開始したことを通知します。 {0}には配送 ID が, {1}にはファイル ID が, {2}にはファイル/フォルダパス名が, {3}にはファイル/フォルダサイズが出力されます。
DWCO1057_I	サーバからの受信を終了しました。(配送 ID:{0}, ファイル ID:{1}, ファイル/フォルダパス:{2}, ファイル/フォルダサイズ:{3}Byte, 最終更新日時:{4})	サーバからの受信を終了したことを通知します。 {0}には配送 ID が, {1}にはファイル ID が, {2}にはファイル/フォルダパス名が, {3}にはファイル/フォルダサイズが, {4}には最終更新日時が出力されます。
DWCO1059_I	作業フォルダから保存先フォルダへの移動を開始しました。(移動元パス:{0}, 移動先パス:{1}, ファイル/フォルダサイズ:{2}Byte, 最終更新日時:{3})	作業フォルダから保存先フォルダへの移動を開始したことを通知します。 {0}には移動元パス名が, {1}には移動先パス名が, {2}にはファイル/フォルダサイズが, {3}には最終更新日時が出力されます。
DWCO1060_I	作業フォルダから保存先フォルダへの移動を終了しました。(移動元パス:{0}, 移動先パス:{1}, ファイル/フォルダサイズ:{2}Byte, 最終更新日時:{3})	作業フォルダから保存先フォルダへの移動を終了したことを通知します。 {0}には移動元パス名が, {1}には移動先パス名が, {2}にはファイル/フォルダサイズが, {3}には最終更新日時が出力されます。
DWCO1061_I	ファイル/フォルダを受信しました。(配送 ID:{0}, ファイル ID:{1}, ファイル/フォルダ名:{2})	配送を受信したことを通知します。 {0}には配送 ID が, {1}にはファイル ID が, {2}にはファイル/フォルダ名が出力されます。
DWCO1062_I	同名のファイル/フォルダが存在したため上書きしました。(配送 ID:{0}, ファイル ID:{1}, ファイル/フォルダ名:{2})	出力フォルダに同名ファイル/フォルダが存在したため, ファイルを上書きしたことを通知します。 {0}には配送 ID が, {1}にはファイル ID が, {2}にはファイル/フォルダ名が出力されます。

メッセージ ID	メッセージ内容	説明
DWCO1063_W	ファイル/フォルダを受信できません。保管期限が切れている、ダウンロード回数が制限されている、ダウンロードファイルサイズの制限を超えているなどの理由が考えられます。(配送 ID:{0}, ファイル ID:{1}, ファイル/フォルダ名:{2})	<p>配送の保管期限が切れている、ファイルのダウンロード回数が制限されている、ダウンロードのファイルサイズの制限を超えているなどの理由により、配送を受信することができません。</p> <p>この配送のダウンロード処理はスキップされますが、受信済みリストに配送が追加されます。</p> <p>制限が解除されたなどの理由でこの配送を受信したい場合、配送 ID を参考に Web 画面から受信してください。</p> <p>{0}には配送 ID が、{1}にはファイル ID が、{2}にはファイル/フォルダ名が出力されます。</p>
DWCO1064_W	メッセージのみの配送です。(配送 ID:{0})	<p>メッセージのみの配送のため、ファイルのダウンロードを行いませんが、受信済み扱いとなります。</p> <p>{0}には配送 ID が出力されます。</p>
DWCO1065_W	配送の保管期限が切れているため受信できません。(配送 ID:{0})	<p>配送の保管期限が切れているため、配送を受信することができません。この配送のダウンロード処理はスキップされますが、受信済みリストに配送が追加されます。</p> <p>{0}には配送 ID が出力されます。</p>
DWCO1066_W	配送の送信者が削除・無効化されているか、有効な配送ルールが存在しないため受信できません。(配送 ID:{0})	<p>配送の送信者が無効化または削除されているか、有効な配送ルールが存在しないため、配送を受信することができません。この配送のダウンロード処理はスキップされますが、受信済みリストに配送が追加されます。</p> <p>{0}には配送 ID が出力されます。</p>
DWCO1067_W	配送が取得直前に削除されたか、配送の承認者が削除されたため受信できません。(配送 ID:{0})	<p>配送が取得直前に削除されたか、または、配送の承認者が削除されたため、配送を受信することができません。この配送のダウンロード処理はスキップされますが、受信済みリストに配送が追加されます。</p> <p>{0}には配送 ID が出力されます。</p>
DWCO1068_W	受信したファイル/フォルダの検証に失敗しました。(配送 ID:{0}, ファイル ID:{1}, ファイル/フォルダ名:{2})	<p>ダウンロードしたファイル/フォルダの検証に失敗しました。ダウンロードしたファイルは削除されます（サーバのファイルは削除されません）。</p> <p>この配送のダウンロード処理はスキップされます。</p> <p>{0}には配送 ID が、{1}にはファイル ID が、{2}にはファイル/フォルダ名が出力されます。</p>
DWCO1069_W	ファイル/フォルダが削除されているため受信できません。(配送 ID:{0}, ファイル ID:{1}, ファイル/フォルダ名:{2})	<p>ファイルが削除されているため、ダウンロードできません。この配送のダウンロード処理はスキップされますが、受信済みリストに配送が追加されます。</p> <p>{0}には配送 ID が、{1}にはファイル ID が、{2}にはファイル/フォルダ名が出力されます。</p>

メッセージ ID	メッセージ内容	説明
DWC01070_W	同名のファイル/フォルダが存在するため受信しませんでした。(配送 ID:{0}, ファイル ID:{1}, ファイル/フォルダ名:{2})	出力フォルダに同名ファイル/フォルダが存在したため、ダウンロードをスキップしたことを通知します。 {0}には配送 ID が, {1}にはファイル ID が, {2}にはファイル/フォルダ名が出力されます。
DWCO1071_I	ファイルのダイジェスト検証をスキップしました。	ファイルのダイジェスト検証をスキップしたことを通知します。
DWCO1101_E	同名のオプション[{0}]を複数指定することはできません。	データ送受信コマンドの引数に同名のオプションが複数指定されました。同名のオプションを複数指定しないでください。 {0}には複数指定したオプションが出力されます。
DWCO1102_E	引数にはオプションのキーと値のペアを指定してください。	データ送受信コマンドの引数にオプションのキーのみ, または値のみが指定されました。キーと値のペアを指定してください。
DWCO1103_E	無効なオプション[{0}]を指定することはできません。	データ送受信コマンドの引数に無効なオプションが指定されました。 [7.3.2 データ送受信コマンド一覧] を参考に, 有効なオプションを指定してください。 {0}には指定した無効なオプションが出力されます。
DWCO1104_E	オプション[{1}]を指定してください。	必須のオプションが指定されていません。必須のオプションを指定してください。 {1}には必須のオプションが出力されます。
DWCO1105_E	オプション[{1}]は[{0}]文字以下で指定してください。	オプションに指定した値の文字数が指定可能な文字数を超えています。 指定オプションに指定する値の文字数は指定可能な文字数以下にしてください。
DWCO1106_E	オプション[-to -cc -bcc]に指定可能なメールアドレス/グループ名のは合計で[{0}]までです。	オプション[-to -cc -bcc]に指定したメールアドレス, またはグループ名のは, 指定可能な数を超えています。 指定するメールアドレス, またはグループ名のは, 指定可能な数以下にしてください。 {0}には指定可能なメールアドレスの数が出力されます。
DWCO1107_E	メールアドレスは[{1}]～[{2}]文字で指定してください。	メールアドレスの文字数が正しくありません。メールアドレスの文字数を確認してください。 {1}にはメールアドレスの最小文字数が, {2}には最大文字数が出力されます。
DWCO1108_E	オプション[-file]に指定可能なファイルの数は[{1}]～[{2}]です。	オプション[-file]に指定したファイルの数が, 指定可能なファイルの数を超えています。指定するファイルの数を確認してください。 {1}にはオプション[-file]に指定可能な最小ファイル数が, {2}には最大ファイル数が出力されます。

メッセージID	メッセージ内容	説明
DWCO1109_E	指定されたファイル/フォルダが存在しないか、または読み取ることができません。(パス:{0})	指定されたファイル/フォルダに証明書ファイルが存在しないか、または読み取ることができません。指定したファイル/フォルダに証明書ファイルが存在するか、読み込み権限があるか、文字コードは適切かなどを確認してください。 {0}には指定したファイル/フォルダのパスが出力されます。
DWCO1110_E	オプション[{3}]は[{1}]～[{2}]の整数値を指定してください。(値:{0})	オプションに規定範囲の整数値以外が指定されました。オプションには指定可能な範囲内の整数値を指定してください。 {0}にはオプションに指定した値が、{1}にはオプションに指定可能な最小整数値が、{2}にはオプションに指定可能な最大整数値が、{3}にはオプションが出力されます。
DWCO1112_E	コマンドプロパティファイルの設定内容に誤りがあります。(設定項目名:{0}、設定値:{1})	コマンドプロパティファイル(property.xml)の設定内容に誤りがあります。次の項目を確認してください。 <ul style="list-style-type: none"> • 認証方式に「PASSWORD」、 「CERTIFICATION」以外の文字列を指定していないか • 認証方式が「電子証明書認証」の場合に、証明書ファイルのパスの指定があるか • 認証方式が「電子証明書認証」の場合に、証明書ファイルのパスワードの指定があるか 誤りのある項目を修正してから、再度実行してください。{0}には設定項目名、{1}には設定値が出力されます。
DWCO1113_E	指定されたファイル/フォルダが存在しないか、または書き込むことができません。(パス:{0})	指定されたファイル/フォルダが存在しないか、または書き込むことができません。指定したファイル/フォルダが存在するか、書き込み権限があるかを確認してください。 {0}には指定したファイル/フォルダのパスが出力されます。
DWCO1114_E	受信済み配送リストファイルに書き込むことができません。(パス:{0})	受信済み配送リストファイルへの書き込みに失敗しました。指定した受信済み配送リストファイルに書き込み権限があるかを確認してください。 {0}には指定した受信済み配送リストファイルのパスが出力されます。
DWCO1115_E	受信済み配送リストファイルを読み取ることができません。(パス:{0})	受信済み配送リストファイルの読み込みに失敗しました。指定した受信済み配送リストファイルに読み込み権限があるかを確認してください。 {0}には指定した受信済み配送リストファイルのパスが出力されます。

メッセージID	メッセージ内容	説明
DWCO1116_E	受信済み配送リストファイルの作成に失敗しました。(パス:{0})	受信済み配送リストファイルの作成に失敗しました。指定した受信済み配送リストファイルのパスに書き込み権限があるかを確認してください。 {0}には指定した配送リストファイルのパスが出力されます。
DWCO1117_E	オプション[{0}]と[{1}]はどちらか一方のみ指定してください。	オプション-message と-messagefile のどちらか一方のみを指定してください。 {0}にはメッセージ (-message オプション), {1}にはメッセージファイル (-messagefile オプション) が出力されます。
DWCO1118_E	不要な値は指定することはできません。(値:{0})	データ送受信コマンドの引数のオプションの後ろに不要な値が指定されました。オプションに指定した値を見直してください。 {0}には指定したオプションの値が出力されます。
DWCO1121_E	メッセージは[{2}]文字以下で指定してください。	ファイル内のメッセージは 4096 文字以内で指定してください。 {2}には 4096 が出力されます。
DWCO1122_E	開封パスワードは[{1}]～[{2}]文字で指定してください。	開封パスワードの文字数が正しくありません。開封パスワードの文字数を確認してください。 {1}には最小文字数が, {2}には最大文字数が出力されます。
DWCO1123_E	開封パスワードは[{1}]～[{2}]文字、2 種類以上の文字で指定してください。	開封パスワードの文字数, または種類が正しくありません。開封パスワードの文字数, および種類を確認してください。 {1}には最小文字数が, {2}には最大文字数が出力されます。
DWCO1124_E	開封パスワードに使用できない文字が指定されています。	開封パスワードに使用できない文字が指定されています。使用できる文字は, 代表ユーザにお問い合わせください。
DWCO1130_E	名前は[{1}]～[{2}]文字で指定してください。	名前の文字数が正しくありません。名前の文字数を確認してください。 {1}には最小文字数が, {2}には最大文字数が出力されます。
DWCO1131_E	名前に使用できない文字が指定されています。	名前に使用できる文字で指定し直してください。 名前には記号(/?*:* ”<>@^)は使用できません。また, 空白のみ, またはピリオド(.)のみの名前は使用できません。
DWCO1132_E	オプション[-toname -ccname -bccname]に指定可能な名前の数は[-to -cc -bcc]で指定したメールアドレス/グループ名の数までです。	オプション[-toname -ccname -bccname]に指定した名前の数が, [-to -cc -bcc]で指定したメールアドレス, またはグループ名の数を超えています。

メッセージID	メッセージ内容	説明
DWCO1132_E	オプション[-toname -ccname -bccname]に指定可能な名前の数は[-to -cc -bcc]で指定したメールアドレス/グループ名の数までです。	指定する名前の数を、指定したメールアドレス、またはグループ名の数以下にしてください。
DWCO1133_E	所属は[{1}]～[{2}]文字で指定してください。	所属の文字数が正しくありません。所属の文字数を確認してください。 {1}には最小文字数が、{2}には最大文字数が出力されます。
DWCO1134_E	オプション[-todivision -ccdivision -bccdivision]に指定可能な所属の数は[-to -cc -bcc]で指定したメールアドレスの数までです。	オプション[-todivision -ccdivision -bccdivision]に指定した所属の数が、[-to -cc -bcc]で指定したメールアドレスの数を超えています。 指定する所属の数を指定したメールアドレスの数以下にしてください。
DWCO1135_E	グループ名は[{0}]～[{1}]文字で指定してください。	グループ名の文字数が正しくありません。グループ名の文字数を確認してください。 {0}には最小文字数が、{1}には最大文字数が出力されます。
DWCO1142_E	宛先種別は[TO CC BCC]を指定してください。 (パス:{0}, 行番号:{1}, 設定値:{2})	宛先ファイルに指定された宛先種別に[TO][CC][BCC]以外が指定されています。 {0}には宛先ファイルのパスが、{1}には行番号が、{2}には宛先種別に指定された値が出力されます。
DWCO1143_E	宛先ファイルの列数が不足しています。(パス:{0}, 行番号:{1}, 列数:{2})	宛先ファイルに指定された宛先の列数が不足しています。 {0}には宛先ファイルのパスが、{1}には行番号が、{2}には列数が出力されます。
DWCO1144_E	メールアドレスは[{0}]～[{1}]文字で指定してください。(パス:{2}, 行番号:{3}, 設定値:{4})	宛先ファイルに指定されたメールアドレスの文字数が正しくありません。メールアドレスの文字数を確認してください。 {0}には最小文字数が、{1}には最大文字数が、{2}には宛先ファイルのパスが、{3}には行番号が、{4}には指定された値が出力されます。
DWCO1145_E	グループ名は[{0}]～[{1}]文字で指定してください。(パス:{2}, 行番号:{3}, 設定値:{4})	宛先ファイルに指定されたグループ名の文字数が正しくありません。グループ名の文字数を確認してください。 {0}には最小文字数が、{1}には最大文字数が、{2}には宛先ファイルのパスが、{3}には行番号が、{4}には指定された値が出力されます。
DWCO1146_E	名前は[{0}]～[{1}]文字で指定してください。(パス:{2}, 行番号:{3}, 設定値:{4})	宛先ファイルに指定された名前の文字数が正しくありません。名前の文字数を確認してください。 {0}には最小文字数が、{1}には最大文字数が、{2}には宛先ファイルのパスが、{3}には行番号が、{4}には指定された値が出力されます。

メッセージ ID	メッセージ内容	説明
DWCO1147_E	名前に使用できない文字が指定されています。(パス:{0}, 行番号:{1}, 設定値:{2})	宛先ファイルに指定された名前に使用できる文字で指定し直してください。 名前には記号(/#?*:"'<>@)は使用できません。また、空白のみ、またはピリオド(.)のみの名前は使用できません。 {0}には宛先ファイルのパスが、{1}には行番号が、{2}には指定された値が出力されます。
DWCO1148_E	所属は[{0}]～[{1}]文字で指定してください。(パス:{2}, 行番号:{3}, 設定値:{4})	宛先ファイルに指定された所属の文字数が正しくありません。所属の文字数を確認してください。 {0}には最小文字数が、{1}には最大文字数が、{2}には宛先ファイルのパスが、{3}には行番号が、{4}には指定された値が出力されます。
DWCO1149_E	オプション[-destinationfile]に指定可能なメールアドレス/グループ名のは数は[{0}]までです。	宛先ファイルに指定された宛先が指定可能な件数を超えています。 {0}には指定可能な最大件数が出力されます。
DWCO1201_E	ユーザ認証に失敗しました。	JP1/DH - Server へのユーザ認証に失敗しました。コマンドプロパティファイルに定義したユーザ ID、パスワードを確認してください。
DWCO1203_E	パスワードの有効期限が過ぎているため送受信を行うことができません。	パスワードの有効期限が過ぎているため、送受信ができません。新しいパスワードを設定してください。
DWCO1207_E	LDAP 認証システム連携でエラーが発生しました。	LDAP 認証システムによるディレクトリ・サーバへの接続でエラーが発生したことを通知します。
DWCO1301_E	ファイル/フォルダの保存に失敗しました。保存先フォルダに同名のファイル/フォルダが存在し、そのファイル/フォルダを上書きすることができません。 (配送 ID:{0},ファイル ID:{1},パス:{2})	指定された保存フォルダに、受信するファイルまたはフォルダと同名のファイルまたはフォルダが存在しており、このファイルまたはフォルダを上書きすることができません。該当するファイルまたはフォルダを確認してください。 {0}には配送 ID が、{1}にはファイル ID が、{2}にはパスが出力されます。
DWCO1302_E	ファイル/フォルダの保存に失敗しました。一時領域に保存したファイル/フォルダを保存先フォルダに移動することができません。 (配送 ID:{0},ファイル ID:{1},パス:{2})	一時領域に保存したファイルを、指定された保存先フォルダに移動することができません。保存先フォルダのアクセス権などを確認してください。 ファイルは一時領域に保存されていますので、保存先へ移動してください。なお、このダウンロードは課金対象となります。 {0}には配送 ID が、{1}にはファイル ID が、{2}にはパスが出力されます。
DWCO1303_E	ファイル/フォルダの受信に失敗しました。(配送 ID:{0},ファイル ID:{1},詳細理由:{2})	ファイル/フォルダの受信に失敗しました。配送がファイル受信直前に削除された、受信実行中のユーザが削除された、もしくはその他の理由が考えられます。

メッセージ ID	メッセージ内容	説明
DWCO1303_E	ファイル/フォルダの受信に失敗しました。(配送 ID:{0},ファイル ID:{1},詳細理由:{2})	{0}には配送 ID が, {1}にはファイル ID が, {2}には詳細理由が出力されます。
DWCO1304_E	フォルダの作成に失敗しました。(パス:{0})	フォルダの作成に失敗しました。 フォルダの作成権限があるかを確認し, フォルダの作成権限を持つユーザーで実行してください。 {0}にはファイルパスが出力されます。
DWCO1305_E	作成するフォルダと同名のファイルが存在するため, フォルダを作成することができません。(パス:{0})	保存先フォルダに, 作成するフォルダと同名のファイルが存在します。 同名のファイルを削除したあと, 再度実行してください。 {0}にはフォルダパスが出力されます。
DWCO1401_E	ファイルの送信に失敗しました。(詳細理由:{0})	ファイルの送信に失敗しました。詳細理由を参考にユーザ, グループおよび配送ルールの設定を見直してください。 {0}には詳細理由が出力されます。
DWCO1402_E	配送ルールの取得に失敗しました。宛先の指定を見直してください。	指定した宛先のすべてに該当する配送ルールの取得に失敗しました。宛先の設定を見直してください。
DWCO1403_E	送信可能なファイルサイズを超えています。(ファイルパス:{0},ファイルサイズ:{1}Byte)	送信可能なファイルサイズを超えています。送信するファイルのサイズは送信可能なファイルサイズ以下にしてください。 {0}には送信ファイルのパスが, {1}には送信ファイルのファイルサイズが出力されます。
DWCO1404_E	配送ポリシーに定義された合計ファイルサイズを超えています。(合計送信ファイルサイズ:{0}Byte, 指定可能な合計ファイルサイズ:{1}Byte)	配送ポリシーに定義された送信可能な合計ファイルサイズを超えています。送信するファイルの合計サイズは指定可能な合計ファイルサイズ以下にしてください。 {0}には指定した送信ファイルの合計サイズが, {1}には指定可能な合計ファイルサイズが出力されます。
DWCO1405_E	配送ポリシーに定義された宛先数を超えています。(宛先数:{0},最大宛先数:{1})	指定した宛先の数, 配送ポリシーに定義された宛先数を越えています。指定する宛先数は, 最大宛先数以下にしてください。 {0}には指定した宛先数が, {1}には最大宛先数が出力されます。
DWCO1406_E	配送ポリシーに定義された登録ファイル数を超えています。(ファイル数:{0},最大登録ファイル数:{1})	指定した送信ファイル数, 配送ポリシーに定義された登録ファイル数を超えています。指定する送信ファイルの数は, 最大登録ファイル数以下にしてください。 {0}には指定した送信ファイル数が, {1}には最大登録ファイル数が出力されます。

メッセージID	メッセージ内容	説明
DWCO1407_E	ファイルの送信に失敗しました。送信者が招待者の場合は残り利用回数が0回の可能性があります。	実行パラメータが正しいかを確認してください。 送信者が招待者である場合は利用回数を確認してください。
DWCO1408_E	送信可能なファイルサイズを超えています。 ファイルを圧縮して送信する場合は各ファイル 3.96GB まで送信可能です。(ファイルパス:{0}, ファイルサイズ:{1}Byte)	送信可能なファイルサイズを超えています。圧縮ありで送信する場合、各ファイルのサイズは 3.96GB 以下にしてください。 {0}にはファイルパスが、{1}にはファイルサイズが出力されます。
DWCO1409_E	未登録宛への送信は、開封パスワード(-openpassword オプション)が必要です。	開封パスワード(-openpassword オプション)が指定されていません。 開封パスワード(-openpassword オプション)を指定して再度実行してください。
DWCO1410_E	送信可能なフォルダサイズを超えています。各フォルダ 3.96GB まで送信可能です。 (フォルダパス:{0}, フォルダサイズ:{1}Byte)	送信可能なフォルダサイズを超えています。圧縮ありで送信する場合、各フォルダのサイズは 3.96GB 以下にしてください。 {0}にはフォルダパスが、{1}にはフォルダサイズが出力されます。
DWCO1411_E	選択されたフォルダのファイル/フォルダ数が上限を超えています。ファイル/フォルダは合計{0}個まで送信可能です。(フォルダパス:{1}, ファイル/フォルダ数:{2})	選択されたフォルダのファイル/フォルダ数が上限を超えています。 {0}にはフォルダのファイル/フォルダの上限値が、{1}にはフォルダパスが、{2}にはファイル/フォルダの数が出力されます。
DWCO1412_E	宛先に指定したグループが存在しないか、または送信可能なグループではありません。(グループ名:{0})	宛先のグループ名が存在しない、またはアドレス帳に存在しません。宛先グループ名を確認してください。 {0}にはグループ名が出力されます。
DWCO1501_I	保管期限の過ぎたログファイルを削除しました。(ファイル名:{0})	ログファイルを削除したことを通知します。 {0}にはファイル名が出力されます。
DWCO1502_I	保管期限の過ぎたログファイルの削除に失敗しました。(ファイル名:{0})	ログファイルの削除に失敗したことを通知します。 {0}にはファイル名が出力されます。
DWCO1705_E	XML の解析に失敗しました。(詳細:{0})	サーバパラメータファイルのフォーマットが不正です。フォーマットを見直してください。 {0}には詳細理由が出力されます。
DWCO1706_E	XML の生成に失敗しました。(詳細:{0})	システム管理者に連絡してください。 {0}には詳細理由が出力されます。
DWCO1803_E	配送情報の XML ファイル出力に失敗しました。(パス:{0})	指定したファイルに書き込み権限があるか確認してください。 {0}には XML ファイルのパスが出力されます。
DWCO1901_E	An unexpected error occurred.	予期しない例外が発生しました。サーバに負荷が集中している可能性があります。時間をおいてから再度実行してください。

メッセージID	メッセージ内容	説明
DWCO1901_E	An unexpected error occurred.	何度実行しても同じエラーとなる場合は、販売代理店または弊社サポート窓口へお問い合わせください。また、実行ユーザが途中で削除された可能性があります。代表ユーザまたはグループ管理者へお問い合わせください。
DWCO1902_E	Unable to start the application because initialization of logs failed.	ログ設定ファイルの内容に誤りがあります。この問題は再インストールを行うと解決する可能性があります。
DWCO1903_E	Unable to start the application because reading message files failed.	設定ファイルの内容に誤りがあります。この問題は再インストールを行うと解決する可能性があります。
DWCO1904_E	Unable to start the application because reading setting files failed.	設定ファイルの内容に誤りがあります。この問題は再インストールを行うと解決する可能性があります。
DWCO1905_E	一時作業フォルダが使用できません。(パス:{0})	データ送受信コマンドは一時作業フォルダを使用します。ログに記載された一時領域に、ファイルの書き込み権限があるかどうか確認してください。{0}には一時作業フォルダのパスが出力されます。
DWCO1906_E	サーバとの通信に失敗しました。(詳細理由:{0})	詳細理由を参考に、実行環境のネットワーク環境を見直してください。 {0}には詳細理由が出力されます。
DWCO1907_E	サーバが現在込み合っています。時間をおいて再度実行してください。	サーバが混雑しており、HTTP ステータスコード 503 (Service Unavailable) を返しています。時間をおいて再度実行してください。
DWCO1908_E	セッションがタイムアウトしました。再度実行してください。	セッションがタイムアウトしました。ログインし直してください。
DWCO1909_E	サーバからエラーが返されました。(詳細理由:{0})	詳細理由を参考にユーザ、グループおよび配送ルールの設定を見直してください。 {0}には詳細理由が出力されます。
DWCO1911_E	同時実行待ち状態でタイムアウトしました。	データ送受信コマンドが同一 PC 内ですでに実行されています。データ送受信コマンドは同時実行できないため、実行中のデータ送受信コマンドが終了してから再度実行してください。 このエラーメッセージが頻繁に表示される場合、タイムアウト時間をより長くすると解決する場合があります。 また、テンポラリフォルダへの書き込み権限がない可能性があります。テンポラリフォルダが正しく設定されているか確認してください。 JP1/DH - AJE と連携している場合、ジョブ実行プログラムの環境設定ファイル (config.xml) の「DH カスタムジョブを実行する場合に使用するワークフォルダ<SendRecvTemp>」に設定した

メッセージID	メッセージ内容	説明
DWCO1911_E	同時実行待ち状態でタイムアウトしました。	フォルダの有無／書き込み権限を確認してください。
DWCO1912_E	ファイル/フォルダの通信接続に失敗しました。サーバが現在込み合っている可能性があります。時間をおいて再度実行してください。	サーバが混雑しているため、通信の接続に失敗しました。時間をおいて再度実行してください。
DWCO1913_E	サーバからエラーが返されました。接続先のサーバが本コマンドに対応していません。	接続先のサーバで未対応のコマンド、またはコマンドオプションが使用されています。接続先のサーバでの対応を確認してください。
DWCO1999_E	Unable to start the application.	データ送受信コマンドの起動に失敗しました。システム管理者に連絡してください。
DWCO2201_W	サーバからの一時停止要求のため、一時停止終了しました。[-resumestatus]オプションを指定していた場合は、[RESUME]コマンドで再開できる可能性があります。	サーバからの要求で一時停止されました。再開する場合は、一時停止中のファイル転送の再開 (RESUME) コマンドを実行してください。
DWCO2202_E	サーバからの中止要求のため、中止終了しました。	サーバからの要求で中止されました。再開はできません。もう一度送信/受信したい場合は、新規に送信/受信してください。
DWCO2203_E	ファイル転送機能が拒否に設定されているため、中止終了しました。	システム管理者に連絡し、ファイル転送機能の許可を依頼してください。
DWCO2206_E	配送ポリシーに圧縮強度が設定されているため、[-resumestatus]オプションは指定できません。	JP1/DH - AJE と連携しない場合、配送ポリシーの圧縮強度を「圧縮なし」に設定してください。 JP1/DH - AJE と連携している場合、配送ポリシーの圧縮方式が選択可能なときは配送ポリシーの圧縮方式に「拡張」を設定してください。
DWCO2207_E	フォルダが含まれているため、[-resumestatus]オプションは指定できません。(ファイルパス:{0})	JP1/DH - AJE と連携しない場合、送信するファイルからフォルダを除いて、指定し直してください。 JP1/DH - AJE と連携している場合、配送ポリシーの圧縮方式が選択可能なときは配送ポリシーの圧縮方式に「拡張」を設定してください。 {0}にはファイルパスが出力されます。
DWCO2221_E	再開情報ファイルの読み込みに失敗しました。(ファイルパス:{0})	再開情報ファイルが存在するか、読み込み可能になっているかを確認してください。 {0}にはファイルパスが出力されます。
DWCO2222_E	再開情報ファイルの書き込みに失敗しました。(ファイルパス:{0})	再開情報ファイルが存在するか、書き込み可能になっているかを確認してください。場合により、今後送信/受信が再開できなくなるおそれがあります。再開できない場合は、新規に送信/受信してください。 {0}にはファイルパスが出力されます。
DWCO2301_I	再開した送信が完了しました。	再開した送信が完了しました。

メッセージ ID	メッセージ内容	説明
DWCO2302_E	送信を再開できませんでした。(詳細:{0})	詳細理由に従い対処してください。場合により、送信を再開できないおそれがあります。送信を再開できない場合は、送信（UPLOAD）コマンドで新規に送信してください。 {0}には詳細理由が出力されます。
DWCO2303_E	ファイルが変更されているため送信を再開できませんでした。(ファイルパス:{0})	送信時からファイルが変更されているため、送信を再開できません。再度送信したい場合は、送信（UPLOAD）コマンドで新規に送信してください。 {0}にはファイルパスが出力されます。
DWCO2304_E	配送が存在しないため送信を再開できませんでした。(配送 ID:{0})	配送が存在しないため、送信を再開できません。送信（UPLOAD）コマンドで新規に送信してください。 {0}には配送 ID が出力されます。
DWCO2305_E	コマンドで送信した配送ではないため、送信を再開できませんでした。(配送 ID:{0})	送信コマンドで送信していない配送は再開できません。 送信（UPLOAD）コマンドで新規に送信してください。 {0}には配送 ID が出力されます。
DWCO2306_E	送信を再開できませんでした。配送が中止されているか、すでに送信が完了している可能性があります。(配送 ID:{0})	送信が中止されているか、完了しています。再度送信したい場合は、送信（UPLOAD）コマンドで新規に送信してください。 {0}には配送 ID が出力されます。
DWCO2307_E	送信を再開できませんでした。配送ルールまたは配送ポリシーが変更/削除されている可能性があります。	新規送信時に使用していた配送ルール、配送ポリシー、宛先ユーザが変更、または削除されている可能性があります。配送ルール、配送ポリシー、宛先ユーザの設定を元に戻してから、再度実行してください。
DWCO2308_E	配送ポリシーに圧縮強度が設定されているため、送信を再開できませんでした。	配送ポリシーの圧縮強度を「圧縮なし」に設定してください。
DWCO2309_W	以前の送信処理が継続中のため送信を再開できませんでした。時間をおいて再度実行してください。(配送 ID:{0})	送信処理がサーバで継続しているため、送信を再開できません。時間をおいて再度実行してください。 {0}には配送 ID が出力されます。
DWCO2310_E	配送の保管期限が切れているため送信を再開できませんでした。(配送 ID:{0})	保管期限が切れているため、送信を再開できません。再度送信したい場合は、送信（UPLOAD）コマンドで新規に送信してください。 {0}には配送 ID が出力されます。
DWCO2321_I	再開した受信が完了しました。	再開した受信が完了しました。
DWCO2322_E	受信を再開できませんでした。(詳細:{0})	詳細理由に従い対処してください。場合により、受信を再開できないおそれがあります。送信を再開できない場合は、送信（UPLOAD）コマンドで新規に送信してください。

メッセージID	メッセージ内容	説明
DWCO2322_E	受信を再開できませんでした。(詳細:{0})	{0}には詳細理由が出力されます。
DWCO2401_E	許可されていない操作です。実行ユーザが正しいか確認してください。(詳細:{0})	正しいユーザで再度実行してください。 {0}には詳細理由が出力されます。

8

データ送受信管理コマンド

この章では、データ送受信管理コマンドの使用方法について説明します。

8.1 データ送受信管理コマンドの概要

データ送受信管理コマンドの概要について、次に示します。

8.1.1 データ送受信管理コマンドとは

データ送受信管理コマンドは、JP1/DH - Server のファイル転送を管理する機能をコマンドラインインターフェースから提供します。これにより、データ送受信管理コマンドを使って、ファイル転送を制御することができます。

ファイルの送受信を行うデータ送受信コマンドと組み合わせて使用することで、柔軟なファイル転送を可能とします。

なお、JP1/DH - Server の詳細については、JP1/DH - Server のマニュアルを参照してください。ファイルの送受信を行うデータ送受信コマンドについては、「[7. データ送受信コマンド](#)」を参照してください。

データ送受信管理コマンドでは、次の機能を提供しています。

- 送信ボックス一覧取得
- 受信ボックス一覧取得
- 配送キャンセル
- 配送削除

8.1.2 導入のための前提条件

データ送受信管理コマンドを利用するときの、クライアント PC に必要な前提条件は、データ送受信コマンドと同じです。「[7.1.2 導入のための前提条件](#)」を参照してください。

8.2 データ送受信管理コマンドの導入

データ送受信管理コマンドの導入について、次に示します。

8.2.1 データ送受信管理コマンドのインストール

データ送受信管理コマンドは、データ送受信コマンドとともに、JP1/DH - AJE（ジョブ実行プログラム）に同梱されています。インストールの詳細は「[7.2.1 データ送受信コマンドのインストール](#)」を参照してください。

8.2.2 データ送受信管理コマンドの環境設定

データ送受信管理コマンドの環境設定手順は、データ送受信コマンドと同じです。「[7.2.2 データ送受信コマンドの環境設定](#)」を参照してください。

8.2.3 データ送受信管理コマンドのアンインストール

データ送受信管理コマンドのアンインストール手順は、データ送受信コマンドと同じです。「[7.2.3 データ送受信コマンドのアンインストール](#)」を参照してください。

8.2.4 データ送受信管理コマンドの環境設定を解除

データ送受信管理コマンドの環境設定解除手順は、データ送受信コマンドと同じです。「[7.2.4 データ送受信コマンドの環境設定を解除](#)」を参照してください。

8.3 リファレンス

データ送受信管理コマンドが提供するコマンドと設定について説明します。

8.3.1 共通仕様

データ送受信管理コマンドの共通仕様について説明します。説明する項目を次に示します。

- コマンドの形式と文法規則
- 共通オプション
- 終了コード
- ログ出力
- ファイルパスについて
- 設定ファイル
- 同一 PC 上での同時実行について

注意

- データ送受信コマンドの仕様と同一となる部分は、「[7. データ送受信コマンド](#)」を参照する記載としています。参照時には「データ送受信コマンド」を「データ送受信管理コマンド」に、コマンドラインは「DWClient.bat」を「DWClientUtil.bat」に読み替えてください。

(1) コマンドの形式と文法規則

データ送受信コマンドと同じです。「[7.3.1\(1\) コマンドの形式と文法規則](#)」を参照してください。

(2) 共通オプション

データ送受信コマンドと同じです。「[7.3.1\(2\) 共通オプション](#)」を参照してください。

(3) 終了コード

データ送受信コマンドと同じです。「[7.3.1\(3\) 終了コード](#)」を参照してください。

(4) ログ出力

データ送受信コマンドと同じです。「[7.3.1\(4\) ログ出力](#)」を参照してください。

(5) ファイルパスについて

データ送受信コマンドと同じです。「[7.3.1\(5\) ファイルパスについて](#)」を参照してください。

(6) 設定ファイル

データ送受信コマンドと同じです。「7.3.1(6) 設定ファイル」を参照してください。

(7) 同一 PC 上での同時実行について

データ送受信管理コマンドは同一 PC 上での複数同時実行が可能です。また、データ送受信コマンドとデータ送受信管理コマンドは同一 PC 上での同時実行が可能です。

8.3.2 データ送受信管理コマンド一覧

データ送受信管理コマンドの一覧を次の表に示します。なお、Linux の場合は、コマンド名の拡張子「bat」を「sh」と読み替えてください。

表 8-1 コマンド一覧

項番	機能	コマンド	説明	参照先
1	送受信ボックス一覧取得	DWClientUtil.bat△GETOUTBOX	送信ボックスの配送一覧を取得します。	8.3.2(1) 送信ボックス一覧取得
2		DWClientUtil.bat△GETINBOX	受信ボックスの配送一覧を取得します。	8.3.2(2) 受信ボックス一覧取得
3	配送キャンセル	DWClientUtil.bat△CANCEL	実行中の送受信を中断します。	8.3.2(3) 配送キャンセル
4	配送削除	DWClientUtil.bat△DELETEDELIVERY	送信完了した特定の配送を指定して削除します。	8.3.2(4) 配送削除

注意

- 10-10-03 以前の JP1/DH - Server に対してデータ送受信管理コマンド（DWClientUtil.bat）を実行した場合はエラーとなります。

(1) 送信ボックス一覧取得

送信ボックスの配送一覧を取得し、実行結果ファイルに出力します。配送状況（送信状況）を配送のステータスで確認する場合や、「配送キャンセル」、「配送削除」のコマンドで指定する配送 ID を特定する場合などに使用します。

(a) 形式

```
DWClientUtil.bat△GETOUTBOX
[△-recieverid△配送先ユーザID | -receivermail△配送先ユーザメールアドレス]
[△-detail]
[△-inprogress]
△-fromdate△取得配送情報開始日
```

△-todate△取得配送情報終了日
△-result△実行結果ファイルパス
△-property△コマンドプロパティファイルパス

(b) 引数

表 8-2 送信ボックス一覧取得の引数

項番	オプション	説明
1	-receiverid	送信ボックス中の配送を取得する際に、限定したい配送先ユーザ ID を指定します。未登録のユーザを指定する場合は”anonymous”を指定します。 このオプションを省略した場合は、このコマンドの実行ユーザ（-property オプションで指定されたプロパティファイルに記載されたユーザ）が配送したすべての配送が対象となります（未登録宛先も含みます）。 -receivermail オプションと同時に指定することはできません。
2	-receivermail	送信ボックス中の配送を取得する際に、限定したい配送先ユーザメールアドレスを指定します。未登録のユーザも指定できます。 このオプションを省略した場合は、このコマンドの実行ユーザ（-property オプションで指定されたプロパティファイルに記載されたユーザ）が配送したすべての配送が対象となります（未登録宛先も含みます）。 -receiverid オプションと同時に指定することはできません。
3	-detail	詳細情報を取得します。詳細情報には配送情報に加えてファイル情報が含まれます。 指定しない場合はファイル情報を含まない情報を取得します。
4	-inprogress	送信中の配送だけを取得します。送信中とは転送中、一時停止中の状態を指し、転送完了後の承認待ちは含みません。 このオプションを省略した場合は、このコマンドの実行ユーザ（-property オプションで指定されたプロパティファイルに記載されたユーザ）が配送したすべての配送が対象となります。
5	-fromdate	取得する配送を、配送の作成日（create-date）※で限定します。取得する期間の開始日を JP1/DH - Server のローカルタイムで YYYY/MM/DD の形式で指定します。
6	-todate	取得する配送を、配送の作成日（create-date）※で限定します。取得する期間の終了日を JP1/DH - Server のローカルタイムで YYYY/MM/DD の形式で指定します。出力される配送情報は指定日を含みます。
7	-result	実行結果ファイルのパスを指定します。 ファイルは、XML 形式で出力されます。
8	-property	「8.3.1(2) 共通オプション」を参照してください。

注※

配送の作成日は、ユーザが送信を開始した日です。

(c) 解説

(i) 引数-detail を指定した場合について

引数-detail を指定した場合に出力される実行結果ファイルの形式を次に示します。

```
<?xml version="1.0" encoding="UTF-8" standalone="yes"?>
<data>
  <deliveries>
    <delivery id="154" send-status="on-approving" create-date="2014/07/29 11:40"
send-date="" shelf-life-time="2014/08/29 23:59" subject="X X開発プロジェクトの件"
message="資料送付します。" total-size="2364662">
      <sender id="user1@domain1" email="user1@domain1.co.jp">
        <files>
          <file id="130" type="file" name="X X報告書.doc" size="266752"/>
          <file id="131" type="file" name="X X開発資料一式.zip"
size="2097910"/>
        </files>
      </sender>
      <receivers>
        <receiver id="user2@domain1" to-type="T0" url="https://jp1dhserver.co.jp/
receipt.jsp?servlet-
action=receipt&id=389&cc=8014d12f457e410b09bffd629dcc821d2896e"
email="user2@domain1.co.jp">
          <files>
            <file id="130" download-date=""/>
            <file id="131" download-date=""/>
          </files>
        </receiver>
      </receivers>
      <approvers>
        <approver email="approver01@domain1.co.jp" id="approver01@domain1"/>
      </approvers>
    </delivery>
  </deliveries>
</data>
```

(ii) 引数-detail を指定しなかった場合について

引数-detail を指定しなかった場合に出力される実行結果ファイルの形式を次に示します。引数-detail を指定した場合と異なり、file 要素、approvers 要素、message 属性を出力しません。また、受信者情報はメールアドレスだけを出力します。

```
<?xml version="1.0" encoding="UTF-8" standalone="yes"?>
<data>
  <deliveries>
    <delivery id="154" send-status="on-approving" create-date="2014/07/29 11:40"
send-date="" shelf-life-time="2014/08/29 23:59" subject="X X開発プロジェクトの件" total-
size="2364662">
      <sender id="user1@domain1" email="user1@domain1.co.jp"/>
      <receivers>
        <receiver email="user2@domain1.co.jp"/>
      </receivers>
    </delivery>
  </deliveries>
</data>
```

(iii)実行結果ファイル形式詳細

実行結果ファイルに出力される要素の意味を次の表に示します。なお、XML での特殊な記号はエンティティ参照（エスケープ文字）に置き換えて出力されます。

表 8-3 実行結果ファイルの意味

要素/属性				個数	説明		
data/deliveries 要素				1	常に出力されます。		
	delivery 要素			n	配送情報タグ		
		id 属性		1	配送 ID が出力されます。 配送を特定するために使用します。		
		send-status 属性		1	配送のステータスが出力されます。 in-progress：送信中 failed：送信失敗 suspended：一時停止 on-approving：承認待ち rejected：承認却下 completed：配送済み		
		create-date 属性		1	配送の作成日時が出力されます。		
		send-date 属性		1	配送の送信日時が出力されます。 未承認の場合は出力されません。		
		subject 属性		1	配送の件名が出力されます。		
		message 属性		1	送信者の入力したメッセージが出力されます。		
		shelf-life-time 属性		1	保管期限が出力されます。		
		total-size 属性		1	総データサイズ（バイト数）が出力されます。		
		sender 要素		1	送信者情報タグ		
			id 属性		1	送信者のユーザ ID が出力されます。	
	email 属性		1	送信者のメールアドレスが出力されます。			
	files 要素		1	送信ファイル/フォルダ情報タグ			
			file 要素		n	送信ファイル/フォルダ単位の送信ファイル/フォルダ情報タグ	
				id 属性		1	ファイル/フォルダの ID が出力されます。
				type 属性		1	ファイル/フォルダの種別が出力されます。 • ファイル："file" • フォルダ："folder"
				name 属性		1	ファイル/フォルダの名称が出力されます。
		size 属性		1	ファイル/フォルダのサイズ（バイト数）が出力されます。		

要素/属性				個 数	説明			
		receivers 要素		1	受信者情報タグ			
			receiver 要素		n	受信者が出力されます。配送に複数の受信者がいる場合はその数だけ出力されます。-receiverid オプションを使用した場合もすべての受信者が出力されます。		
				id 属性		1	受信者のユーザ ID が出力されます。	
				url 属性		1	受信者の開封 URL が出力されます。	
				to-type 属性		1	受信者の宛先タイプ (TO CC BCC) が出力されます。	
				email 属性		1	受信者のメールアドレスが出力されます。	
				files 要素		1	受信ファイル/フォルダ情報タグ	
					file 要素		n	受信ファイル/フォルダの単位の受信ファイル/フォルダ情報タグ
						id 属性		1
			download-date 属性			1	ファイル/フォルダをダウンロードした日付が出力されます。	
		approvers 要素		1	承認者情報タグ (承認者がいない場合はこのタグを出力しません。)			
			approver 要素		n	承認者単位の承認者情報タグ		
				id 属性		1	承認者のユーザ ID が出力されます。	
				email 属性		1	承認者のメールアドレスが出力されます。	

注意

- 受信者のユーザが削除されている場合、該当ユーザの情報を示す属性は出力されないことがあります。

(d) 実行例

```
DWClientUtil.bat GETOUTBOX
-fromdate "2014/06/01"
-todate "2014/06/30"
-result "C:¥DWClient¥OUTBOX-result.xml"
-property "C:¥DWClient¥property.xml"
```

(2) 受信ボックス一覧取得

受信ボックスの配送一覧を取得し、実行結果ファイルに出力します。配送状況 (受信状況) を配送のステータスで確認する場合や、「ファイルの受信」で指定する配送 ID を特定する場合などに使用します。

(a) 形式

```
DWClientUtil.bat△GETINBOX
[△-senderid△送信元ユーザID | -sendermail△送信元メールアドレス]
[△-detail]
[△-inprogress]
△-fromdate△取得配送情報開始日
△-todate△取得配送情報終了日
△-result△実行結果ファイルパス
△-property△コマンドプロパティファイルパス
```

(b) 引数

表 8-4 受信ボックス一覧取得の引数

項番	オプション	説明
1	-senderid	受信ボックス中の配送を取得する際に、送信元ユーザを限定したい場合にユーザ ID を指定します。このオプションを省略した場合は、すべての送信元ユーザが対象となります。 -sendermail オプションと同時に指定することはできません。
2	-sendermail	受信ボックス中の配送を取得する際に、送信元ユーザを限定したい場合にメールアドレスを指定します。このオプションを省略した場合は、すべての送信元ユーザが対象となります。 -senderid オプションと同時に指定することはできません。
3	-detail	詳細情報を取得します。詳細情報には配送情報に加えてファイル情報が含まれます。詳細情報を取得したあと、その配送に対する「開封」処理が行われます。 実行結果ファイルには開封前のステータスが出力されます。 「開封」処理では、監査ログが出力され、開封通知が有効であれば通知メールが送信され、受信ボックスのステータスも開封済みとなります。 指定しない場合はファイル情報を含まない情報を取得します。
4	-inprogress	未受信の配送を取得します。指定しない場合は実行ユーザ宛の配送すべてを取得します。 ここでの未受信の配送とは受信済み配送リストへの記載有無ではなく、該当ユーザの受信記録が JP1/DH - Server 側にない配送を指します。
5	-fromdate	取得する配送を、配送の送信日 (send-date) で限定します。取得する期間の開始日を JP1/DH - Server のローカルタイムで YYYY/MM/DD の形式で指定します。
6	-todate	取得する配送を、配送の送信日 (send-date) で限定します。取得する期間の終了日を JP1/DH - Server のローカルタイムで YYYY/MM/DD の形式で指定します。出力される配送情報は指定日を含みます。
7	-result	実行結果ファイルのパスを指定します。 ファイルは、XML 形式で出力されます。
8	-property	「8.3.1(2) 共通オプション」を参照してください。

(c) 解説

(i)引数-detail を指定した場合について

引数-detail を指定した場合に出力される実行結果ファイルの形式を次に示します。

```
<?xml version="1.0" encoding="UTF-8" standalone="yes"?>
<data>
  <deliveries>
    <delivery id="154" download-status="downloaded" send-date="2014/07/29 11:43"
shelf-life-time="2014/08/29 23:59" subject="X X開発プロジェクトの件" total-
size="2364662">
      <sender id="user1@domain1" email="user1@domain1.co.jp">
        <files>
          <file id="130" type="file" name="X X 報告書.doc" size="266752"/>
          <file id="131" type="file" name="X X 開発資料一式.zip"
size="2097910"/>
        </files>
      </sender>
      <message>資料送付します。</message>
    </delivery>
  </deliveries>
</data>
```

(ii)引数-detail を指定しなかった場合について

引数-detail を指定しなかった場合に出力される実行結果ファイルの形式を次に示します。引数-detail を指定した場合と異なり、file 要素、message 属性、total-size 属性を出力しません。

```
<?xml version="1.0" encoding="UTF-8" standalone="yes"?>
<data>
  <deliveries>
    <delivery id="154" download-status="downloaded" send-date="2014/07/29 11:43"
shelf-life-time="2014/08/29 23:59" subject="X X開発プロジェクトの件">
      <sender id="user1@domain1" email="user1@domain1.co.jp"/>
    </delivery>
  </deliveries>
</data>
```

(iii)実行結果ファイル形式詳細

実行結果ファイルに出力される要素の意味を次の表に示します。なお、XML での特殊な記号はエンティティ参照（エスケープ文字）に置き換えて出力されます。

表 8-5 実行結果ファイルの意味

要素/属性		個数	説明
data 要素		n	常に出力されます。
	delivery 要素	n	配送単位の配送情報タグ
	id 属性	1	配送 ID が出力されます。 配送を特定するために使用します。
	download-status 属性	1	配送のステータスが出力されます。

要素/属性			個 数	説明
		download-status 属性	1	not-opened：未開封 opened：開封済み downloaded：ダウンロード済み
		send-date 属性	1	送信日時が出力されます。
		shelf-life-time 属性	1	保管期限が出力されます。
		subject 属性	1	配送の件名が出力されます。
		total-size 属性	1	総データサイズ（バイト数）が出力されます。
		sender 要素	1	送信者情報タグ
		id 属性	1	送信者のユーザ ID が出力されます。
			1	送信者のメールアドレスが出力されます。
		files 要素	1	送信ファイル/フォルダ情報タグ
		file 要素	n	送信ファイル/フォルダ単位の送信ファイル/フォルダ情報タグ
			1	ファイル/フォルダの ID が出力されます。
			1	ファイル/フォルダの種別が出力されます。 • ファイル："file" • フォルダ："folder"
			1	ファイル/フォルダの名称が出力されます。
			1	ファイル/フォルダのサイズ（バイト数）が出力されます。
		message 属性	1	送信者の入力したメッセージが出力されます。

注意

- 送信者のユーザが削除されている場合、該当ユーザの情報を示す属性は出力されないことがあります。

(d) 実行例

```
DWClientUtil.bat GETINBOX
-fromdate "2014/06/01"
-todate "2014/06/30"
-result "C:¥DWClient¥INBOX-result.xml"
-property "C:¥DWClient¥property.xml"
```

(3) 配送キャンセル

配送 ID の指定により特定の配送を対象として、実行中の配送（ファイルの送信／ファイルの受信）を中止します。

(a) 形式

```
DWClientUtil.bat△CANCEL
[△-deliveryid△配送ID]
△-property△コマンドプロパティファイルパス
```

(b) 引数

表 8-6 配送キャンセルの引数

項番	オプション	説明
1	-deliveryid	キャンセルしたい配送の配送 ID を指定します。指定可能な配送 ID は 1 つです（複数の配送 ID を指定することはできません）。このオプションに指定する配送 ID は、データ送受信管理コマンドの送信ボックス一覧取得（GETOUTBOX）または受信ボックス一覧取得（GETINBOX）を使用して取得します。 このオプションを省略した場合は、このコマンドの実行ユーザ（-property オプションで指定されたプロパティファイルに記載されたユーザ）が配送しているすべての送信／受信をキャンセルの対象とします。
2	-property	「8.3.1(2) 共通オプション」を参照してください。

(c) 解説

(i)前提条件

この機能によって配送をキャンセルするためには、配送 ID で指定された転送の実行ユーザが、このコマンドの実行ユーザ（-property オプションで指定されたプロパティファイルに記載されたユーザ）と同一ユーザである必要があります。同一ユーザでない場合はエラーとなります。

ユーザ ID が同一であれば、送信／受信コマンドと配送キャンセルコマンドの実行端末は異なっても構いません。

注意

- 配送キャンセルされた配送を再開することはできません。
- 送信／受信コマンドの実行中に、配送 ID を省略した配送キャンセルを行うと、エラーが発生する場合があります。この場合、再度、配送キャンセルを実行してください。

(4) 配送削除

配送 ID の指定により特定の配送を対象として、送信完了した配送を削除します。

誤って配送した送信データを削除する場合などに使用します。

(a) 形式

```
DWClientUtil.bat△DELETEDELIVERY
△-deliveryid△配送ID
△-property△コマンドプロパティファイルパス
```

(b) 引数

表 8-7 配送削除の引数

項番	オプション	説明
1	-deliveryid	削除したい配送の配送 ID を指定します。指定可能な配送 ID は 1 つです（複数の配送 ID を指定することはできません）。このオプションに指定する配送 ID は、データ送受信管理コマンドの送信ボックス一覧取得（GETOUTBOX）を使用して取得します。
2	-property	「8.3.1(2) 共通オプション」を参照してください。

(c) 解説

(i)前提条件

この機能により配送を削除するためには、配送 ID で指定された配送が、このコマンドの実行ユーザ（-property オプションで指定されたプロパティファイルに記載されたユーザ）と同一ユーザである必要があります。同一ユーザでない場合はエラーとなります。

ユーザ ID が同一であれば、ファイルの送信コマンドと配送削除コマンドの実行端末は異なっても構いません。

注意

- JP1/DH - Server が Windows 版の場合、指定した配送がダウンロード中の場合は削除できません。Linux 版の場合、ダウンロード中でも配送を削除できますが、ダウンロードは継続されます。
- 配送 ID が存在しない場合や、指定した配送 ID の配送を削除できる権限がない場合はエラーとなります。

8.4 データ送受信管理コマンドのトラブルシュート

データ送受信管理コマンドを利用するときの、トラブル解決の手段を次に示します。

8.4.1 データ送受信管理コマンドの FAQ

データ送受信管理コマンドに関する FAQ は、データ送受信コマンドと同じです。「[7.4.1 データ送受信コマンドの FAQ](#)」を参照してください。

8.4.2 データ送受信管理コマンドのメッセージ

データ送受信管理コマンドのメッセージには、データ送受信コマンドと共通のメッセージとデータ管理コマンド固有のメッセージがあります。共通のメッセージについては「[7.4.2 データ送受信コマンドのメッセージ](#)」を参照してください。

データ送受信管理コマンド固有のメッセージ一覧を次の表に示します。

表 8-8 メッセージ一覧

メッセージ ID	メッセージ内容	説明
DWCO1732_E	指定した日付に誤りがあります。(日付:{0})	日付の形式が YYYY/MM/DD か、または正しい日付かを確認してください。 {0}には日付が出力されます。
DWCO1801_I	配送情報を取得しました。	配送情報の取得に成功したことを通知します。
DWCO1802_E	配送情報の取得に失敗しました。(詳細:{0})	配送情報の取得に失敗しました。詳細理由を基に設定を見直し、再度実行してください。 {0}には詳細理由が出力されます。
DWCO1803_E	配送情報の XML ファイル出力に失敗しました。(パス:{0})	指定したファイルに書き込み権限があるか確認してください。 {0}には XML ファイルのパスが表示されます。
DWCO1841_I	配送を削除しました。(配送 ID:{0})	配送の削除に成功したことを通知します。 {0}には配送 ID が出力されます。
DWCO1843_E	配送の削除に失敗しました。配送が送信中または受信中有る可能性があります。(配送 ID:{0}, 詳細:{1})	配送の削除に失敗したことを通知します。 {0}には配送 ID が、{1}には詳細が出力されます。
DWCO2005_W	実行中のファイル転送は存在しません。	実行中のファイル転送が存在しなかったことを通知します。
DWCO2006_W	実行中のファイル転送は存在しません。(配送 ID:{0})	指定された配送 ID で実行中のファイル転送が存在しなかったことを通知します。 {0}には配送 ID が出力されます。

メッセージ ID	メッセージ内容	説明
DWCO2009_E	指定した配送が存在しませんでした。(配送 ID: {0})	指定した配送が存在しなかったことを通知します。指定した配送 ID が正しいか確認してください。 {0}には配送 ID が出力されます。
DWCO2022_I	実行中のファイル転送を中止しました。(配送 ID: {0})	実行中のファイル転送を中止したことを通知します。 {0}には配送 ID が出力されます。
DWCO2025_I	指定した配送は既に中止しています。(配送 ID: {0})	中止しようとした配送が、すでに中止されていることを通知します。 {0}には配送 ID が出力されます。
DWCO2026_E	指定した配送が一時停止されているため、中止できませんでした。(配送 ID:{0})	一時停止状態となった配送の中止はできません。 {0}には配送 ID が出力されます。
DWCO2027_E	指定した配送は中止できません。(配送 ID:{0})	自身が送信した配送以外は中止できません。 {0}には配送 ID が出力されます。

付録

付録 A ファイルおよびフォルダー一覧

JP1/DH - AJE のファイルおよびフォルダの構成を示します。

付録 A.1 JP1/DH - AJE（ジョブ定義プログラム）のファイルおよびフォルダー一覧

JP1/DH - AJE（ジョブ定義プログラム）のファイルおよびフォルダの構成を次の表に示します。

表 A-1 JP1/DH - AJE（ジョブ定義プログラム）のファイルおよびフォルダー一覧

フォルダ名およびファイル名		内容
JP1/DH - AJE（ジョブ定義プログラム）インストールフォルダ		プログラムインストールフォルダ
¥bin		プログラム格納フォルダ
	dhajed.exe	ジョブ定義プログラム起動 exe
¥csmi		システムが使用する実行ファイル格納フォルダ
	*	システムが使用する実行ファイル
¥custom		カスタムジョブアイコン格納フォルダ
	CUSTOM_PC_DHAJEW.gif	カスタムジョブアイコン Windows 用
	CUSTOM_PC_DHAJEL.gif	カスタムジョブアイコン Linux 用
¥lib		ライブラリ格納フォルダ
	dhajed.jar	カスタムジョブ定義プログラム
	messages.properties	メッセージファイル
¥log		ログ格納フォルダ※1
	¥mmap	稼働ログ管理フォルダ
	dhajed_information[x].log	稼働ログ
¥settings		設定ファイル格納フォルダ
	config.xml	環境設定ファイル
	config.xml.template	環境設定ファイルテンプレート
	readme.txt	readme ファイル
¥patch_backup_dir		パッチバックアップフォルダ
	*	パッチバックアップファイル
	PATCHLOG.TXT	パッチログファイル
%ALLUsersProfile%¥Hitachi¥jp1¥jp1_default¥JP1DH¥AJE¥AJED¥log		ログ格納フォルダ※2

フォルダ名およびファイル名		内容
	¥mmap	稼働ログ管理フォルダ
	dhajed_information[x].log	稼働ログ

注※1

Windows XP でデフォルトログ出力先に使用します。

注※2

Windows XP 以外でデフォルトログ出力先に使用します。%AllUsersProfile%は、Windows の環境変数（全 OS ユーザ共通のデータ保存フォルダ）を示します。

付録 A.2 Windows 版 JP1/DH - AJE（ジョブ実行プログラム）のファイルおよびフォルダー一覧

JP1/DH - AJE（ジョブ実行プログラム）のファイルおよびフォルダの構成を次の表に示します。

表 A-2 JP1/DH - AJE（ジョブ実行プログラム）のファイルおよびフォルダー一覧

フォルダ名およびファイル名		内容
JP1/DH - AJE(ジョブ実行プログラム) インストールフォルダ		プログラムインストールフォルダ
	¥bin	プログラム格納フォルダ
	dhajee.exe	ジョブ実行プログラム起動 exe
	¥DWClient	データ送受信コマンド格納フォルダ
	DWClient.bat	データ送受信コマンド
	DWClientUtil.bat	データ送受信管理コマンド
	property.xml	コマンドプロパティファイルサンプル
	Const.properties	データ送受信コマンド設定ファイル
	Const.properties.template	データ送受信コマンド設定ファイルテンプレート
	*	システムが使用するファイル（非公開）
	¥csmi	システムが使用するライブラリ格納フォルダ
	*	システムが使用するライブラリ
	¥lib	ライブラリ格納フォルダ
	dhajee.jar	カスタムジョブ実行プログラム
	messages.properties	メッセージファイル
	¥settings	設定ファイル格納フォルダ
	config.xml	環境設定ファイル

フォルダ名およびファイル名			内容
		config.xml.template	環境設定ファイルテンプレート
	¥recvlist		システムが使用するファイルの格納用フォルダ
		recvuserlist.xml	システムが使用するファイル
		recvuserlist.xml.lck	システムが使用するロックファイル
	¥list		システムが使用するファイルの格納用フォルダ
		recvuserlist_<UUID>.txt	システムが使用するファイル
	¥tools		情報収集バッチファイル格納フォルダ
		dhaje_log.bat	情報収集バッチファイル
		dhaje_log.bat.template	情報収集バッチファイルテンプレート
	¥work		作業用フォルダ
		*	システムが使用するファイル
	¥Definition		ジョブ定義プログラムインストーラ格納フォルダ
		setup.exe	ジョブ定義プログラムインストーラ
	readme.txt		readme ファイル
	¥patch_backup_dir		パッチバックアップフォルダ※1
		*	パッチバックアップファイル※1
	PATCHLOG.TXT		パッチログファイル※1
%ALLUsersProfile%¥Hitachi¥jp1¥jp1_default¥JP1DH¥AJE¥AJEE¥log			ログ格納フォルダ※2
		¥mmap	稼働ログ管理フォルダ
		dhajee_information[x].log	稼働ログ

注※1

JP1/DH - AJE のパッチプログラム適用時に作成されるファイル/フォルダです。

注※2

%AllUsersProfile%は、Windows の環境変数（全 OS ユーザ共通のデータ保存フォルダ）を示します。

付録 A.3 Linux 版 JP1/DH - AJE（ジョブ実行プログラム）のファイルおよびフォルダー一覧

JP1/DH - AJE（ジョブ実行プログラム）のファイルおよびフォルダの構成を次の表に示します。

表 A-3 JP1/DH - AJE（ジョブ実行プログラム）のファイルおよびフォルダー一覧

フォルダ名およびファイル名		内容
/opt/jp1dh/aje/ajee		プログラムインストールフォルダ
/bin		プログラム格納フォルダ
	dhajee.sh	ジョブ実行プログラム起動スクリプト
	/DWClient	データ送受信コマンド格納フォルダ
	DWClient.sh	データ送受信コマンド
	DWClientUtil.sh	データ送受信管理コマンド
	property.xml	コマンドプロパティファイルサンプル
	Const.properties	データ送受信コマンド設定ファイル
	Const.properties.template	データ送受信コマンド設定ファイルテンプレート
	*	システムが使用するファイル（非公開）
/csmi		システムが使用するライブラリ格納フォルダ
	*	システムが使用するライブラリ
/lib		ライブラリ格納フォルダ
	dhajee.jar	カスタムジョブ実行プログラム
	messageslin.properties	メッセージファイル
/settings		設定ファイル格納フォルダ
	config.xml	環境設定ファイル
	config.xml.template	環境設定ファイルテンプレート
/recvlist		システムが使用するファイルの格納用フォルダ
	recvuserlist.xml	システムが使用するファイル
	recvuserlist.xml.lck	システムが使用するロックファイル
	/list	システムが使用するファイルの格納用フォルダ
	recvuserlist_<UUID>.txt	システムが使用するファイル
/tools		情報収集バッチファイル格納フォルダ
	dhaje_log.sh	情報収集バッチファイル
	dhaje_log.sh.template	情報収集バッチファイルテンプレート
/work		作業用フォルダ
	*	システムが使用するファイル
/definition		ジョブ定義プログラムインストーラ格納フォルダ
	setup.exe	ジョブ定義プログラムインストーラ

フォルダ名およびファイル名		内容
	dhajee_version.dat	バージョン情報管理ファイル
/var/opt/jp1dh/aje/aje		ログ／パッチフォルダ
	/log	ログ格納フォルダ
	¥mmap	稼働ログ管理フォルダ
	dhajee_information[x].log	稼働ログ
/patch_backup_dir		パッチバックアップフォルダ※
	*	パッチバックアップファイル※
update.log		パッチログファイル※
patch_history		パッチ履歴ファイル※

注※

JP1/DH - AJE のパッチプログラム適用時に作成されるファイル/フォルダです。

付録 B.1 10-10 の変更内容

- 前提 OS に次の OS を追加しました。
 - Windows 8
 - Windows 8.1
 - Windows Server 2012
 - Windows Server 2012 R2
 - Linux
- ジョブ実行プログラムを使用する場合に、同一装置上の前提製品だったプラグイン (JRE6.0, JDK6.0) が不要になりました。
- JP1/Data Highway - Server と直接データ転送をするデータ送受信コマンド (コンポーネント) をサポートしました。
- 上書きインストール時の注意事項を追記しました。
- 送信の宛先にグループ名を指定できるようになりました。
- JP1/Data Highway - Server 10-10 との連携時、通信エラーなどにより転送が中断した際に、転送をはじめからやり直すことなく、途中から再開できる機能をサポートしました。
- JP1/Data Highway - Server 10-10 との連携時、一時停止されたデータ転送を再開する機能をサポートしました。

付録 C このマニュアルの参考情報

このマニュアルを読むに当たっての参考情報を示します。

付録 C.1 関連マニュアル

関連マニュアルを次に示します。必要に応じてお読みください。なお、関連製品のバージョンによってマニュアルの体系が異なります。使用しているバージョンに応じてマニュアルを読み替えてください。

JP1/Data Highway - Server 関連

JP1 Version 10 JP1/Data Highway - Server 構築・運用ガイド(3021-3-140)

JP1 Version 10 JP1/Data Highway - Server システム管理者ガイド(3021-3-141)

JP1 Version 10 JP1/Data Highway - Server 管理者ガイド(3021-3-142)

JP1 Version 10 JP1/Data Highway - Server ユーザーズガイド(3021-3-143)

JP1/Automatic Job Management System 関連

JP1 Version 10 JP1/Automatic Job Management System 3 入門(3021-3-101)

JP1 Version 10 JP1/Automatic Job Management System 3 導入ガイド(3021-3-102)

JP1 Version 10 JP1/Automatic Job Management System 3 設計ガイド（システム構築編）
(3021-3-103)

JP1 Version 10 JP1/Automatic Job Management System 3 設計ガイド（業務設計編）(3021-3-104)

JP1 Version 10 JP1/Automatic Job Management System 3 構築ガイド 1(3021-3-105)

JP1 Version 10 JP1/Automatic Job Management System 3 構築ガイド 2(3021-3-106)

JP1 Version 10 JP1/Automatic Job Management System 3 運用ガイド(3021-3-107)

JP1 Version 10 JP1/Automatic Job Management System 3 トラブルシューティング(3021-3-108)

JP1 Version 10 JP1/Automatic Job Management System 3 操作ガイド(3021-3-109)

JP1 Version 10 JP1/Automatic Job Management System 3 コマンドリファレンス 1(3021-3-110)

JP1 Version 10 JP1/Automatic Job Management System 3 コマンドリファレンス 2(3021-3-111)

JP1 Version 10 JP1/Automatic Job Management System 3 連携ガイド(3021-3-112)

JP1 Version 10 JP1/Automatic Job Management System 3 メッセージ 1(3021-3-113)

JP1 Version 10 JP1/Automatic Job Management System 3 メッセージ 2(3021-3-114)

JP1/Base 関連

JP1 Version 10 JP1/Base 運用ガイド(3021-3-001)

JP1 Version 10 JP1/Base メッセージ(3021-3-002)

JP1 Version 10 JP1/Base 関数リファレンス(3021-3-003)

付録 C.2 このマニュアルでの表記

このマニュアルでは製品名称について次のように表記しています。ただし、それぞれの製品についての表記が必要な場合はそのまま表記しています。

表記		製品名称
JP1/AJS3	JP1/AJS3 - Agent	JP1/Automatic Job Management System 3 - Agent
	JP1/AJS3 - Manager	JP1/Automatic Job Management System 3 - Manager
	JP1/AJS3 - View	JP1/Automatic Job Management System 3 - View
JP1/Base		JP1/Base
JP1/DH		JP1/Data Highway
JP1/DH - Server		JP1/Data Highway - Server
JP1/DH - Server Starter Edition		JP1/Data Highway - Server Starter Edition

付録 C.3 英略語

このマニュアルで使用する英略語の一覧を次に示します。

英略語	英字の表記
CSV	Comma Separated Values
FAQ	Frequently Asked Question
GUI	Graphical User Interface
HTTP	HyperText Transfer Protocol
HTTPS	HyperText Transfer Protocol over Secure Socket Layer
ID	Identification Data
Java VM	Java Virtual Machine
LAN	Local Area Network
OS	Operating System
PC	Personal Computer
UAC	User Account Control
UNC	Universal Naming Convention
URL	Uniform Resource Locator
WOW64	Windows On Windows 64
XML	eXtensible Markup Language

付録 C.4 このマニュアルで使用する「Administrators 権限」について

このマニュアルで表記している「Administrators 権限」とは、ローカル PC に対して Administrators 権限を持つユーザを指します。ローカル PC に対して Administrators 権限を持つユーザであれば、ローカルユーザ、ドメインユーザ、および ActiveDirectory 環境で動作に違いはありません。

付録 C.5 KB（キロバイト）などの単位表記について

1KB（キロバイト）、1MB（メガバイト）、1GB（ギガバイト）、1TB（テラバイト）はそれぞれ $1,024$ バイト、 $1,024^2$ バイト、 $1,024^3$ バイト、 $1,024^4$ バイトです。

(英字)

DH カスタムジョブ

JP1/DH - Server を用いてデータを送受信するカスタムジョブです。

JP1/AJS マクロ変数

後続ジョブでイベント受信情報を参照するために定義する変数です。イベントジョブに情報を引き継ぐためのマクロ変数名を定義し、引き継ぐイベントのマクロ変数を後続ジョブで指定します。マクロ変数は「?AJS2xxxxxxxxx?」の形式で指定します。

JP1/DH - Server

既存のインターネット回線を利用して Gbyte（ギガバイト）レベルの高速大容量データ転送を実現する製品です。

JP1/DH - Server Starter Edition

JP1/DH - Server の小規模運用向け製品です。

LDAP 認証システム

JP1/DH - Server にログインする際に、ディレクトリ・サーバを使用して認証する認証システムです。

(カ行)

カスタムジョブ

ある特定の機能を持つジョブを実行するように、あらかじめ定義されたジョブです。データ送受信やメインフレームへのジョブ依頼など、標準カスタムジョブとして提供しているもののほかに、業務の中でよく使うジョブをカスタムジョブとして登録しておくこともできます。カスタムジョブとして登録する場合、専用のアイコンの形、絵、またはジョブ情報入力のためのダイアログボックスが作成できます。

なお、カスタムジョブを使用する場合は、そのジョブに必要なプログラムをインストールしておく必要があります。

(サ行)

受信

JP1/DH - Server からデータをダウンロードする操作を示します。

受信カスタムジョブ

受信を行う DH カスタムジョブを示します。

受信ボックス

JP1/DH - Server で管理しているユーザ宛の受信データです。

ジョブ実行プログラム

DH カスタムジョブを実行するプログラムです。JP1/AJS3 - Manager および Agent と連携することにより、DH カスタムジョブを実行します。

ジョブ定義プログラム

DH カスタムジョブを定義するプログラムです。JP1/AJS3 - View と連携することにより、DH カスタムジョブを定義します。

送信

JP1/DH - Server にデータをアップロードする操作を示します。

送信カスタムジョブ

送信を行う DH カスタムジョブを示します。

送信ボックス

JP1/DH - Server で管理しているユーザが送信したデータです。

(ナ行)

認証システム

JP1/DH - Server にログインする際に使用する認証基盤の情報を、定義・管理するものです。認証システムには、標準認証システムと LDAP 認証システムがあります。

(ハ行)

配送

JP1/DH - Server が送信または受信の要求に対し、送り届けることの総称です。

配送 ID

JP1/DH - Server が管理している送受信データを一意に特定するための ID です。データ送受信コマンドや、データ送受信管理コマンドで特定のデータを操作する場合に使用します。

配送ポリシー

JP1/DH - Server で、ファイルの最大サイズや、ファイルの保存期間などの、ファイル配送に関する規則です。

標準認証システム

JP1/DH - Server にログインする際の標準的な認証システムです。ユーザ ID、パスワードを使用する、標準パスワード認証と電子証明書を使用する、電子証明書認証の 2 つの認証方式があります。

索引

記号

[基本設定] 画面 65

[転送設定 (受信)] 画面 63

[転送設定 (送信)] 画面 60

A

AJS マクロ変数 60-67

C

config.xml 27, 31, 33, 69

D

Data Highway - Server 176

DH カスタムジョブ 14

DH カスタムジョブ実行結果の確認 71

DH カスタムジョブ実行結果の確認方法 71

DH カスタムジョブ実行時の注意事項 76

DH カスタムジョブ定義の手順 55

DH カスタムジョブの実行 68

DH カスタムジョブの実行状況の確認方法 71

DH カスタムジョブの種類 53

DH カスタムジョブの定義 55

DH カスタムジョブの定義手順 55

DH カスタムジョブの登録 40

DH カスタムジョブを強制終了した場合 76

J

JP1/AJS3 - Agent 19

JP1/AJS3 - Manager 18, 19

JP1/AJS3 - View 18

JP1/DH - AJE (ジョブ実行プログラム) の情報収集手順 120

JP1/DH - AJE (ジョブ実行プログラム) の設定を変更する 33

JP1/DH - AJE (ジョブ実行プログラム) のトラブル 131

JP1/DH - AJE (ジョブ実行プログラム) のメッセージ 101

JP1/DH - AJE (ジョブ実行プログラム) のリストア 128

JP1/DH - AJE (ジョブ定義プログラム) の情報収集手順 120

JP1/DH - AJE (ジョブ定義プログラム) の設定を変更する 31

JP1/DH - AJE (ジョブ定義プログラム) のトラブル 129

JP1/DH - AJE (ジョブ定義プログラム) のファイルおよびフォルダー一覧 192

JP1/DH - AJE (ジョブ定義プログラム) のメッセージ 90

JP1/DH - AJE (ジョブ定義プログラム) のリストア 128

JP1/DH - AJE とは 14

JP1/DH - AJE のアンインストール 49

JP1/DH - AJE のインストール 26

JP1/DH - AJE のインストールとセットアップ 23

JP1/DH - AJE の概要 13

JP1/DH - AJE の環境設定 31

JP1/DH - AJE の共通メッセージ 87

JP1/DH - AJE の構成 15

JP1/DH - AJE の導入 16

JP1/DH - Server 14, 15, 135, 176

JP1/DH - Server 側の設定 43

L

Linux 版 JP1/DH - AJE (ジョブ実行プログラム) のファイルおよびフォルダー一覧 194

W

Windows 版 JP1/DH - AJE (ジョブ実行プログラム) のファイルおよびフォルダー一覧 193

あ

アンインストール 49

い

インストーラのメッセージ 113

インストール時の注意事項 26
インストールとセットアップの流れ 24

う

上書きインストール 27, 29
上書きインストールの手順 29
運用管理サーバ 18

か

カスタムジョブ定義ファイル 22
稼働ログの出力レベル 32, 34, 37
稼働ログファイルサイズ 21
稼働ログ面数 21
管理クライアント 18

き

共通仕様 140, 178

く

クラスタシステム 19, 27, 31, 33, 133
クラスタシステムでのトラブル 133

こ

コマンドプロパティファイル (property.xml) 145

さ

サーバ証明書の登録 44
再開機能について 69

し

システム構成 17
実行結果が異常または警告だった場合の対処 77
受信カスタムジョブ 53
受信済み配送リストファイル 148
出力形式 143
障害対策に関する検討 47
情報収集ツール 47, 120
情報収集ツールのセットアップ 47
ジョブ実行プログラム 15
ジョブ定義プログラム 15

新規インストールの手順 28

せ

制限事項 136
前提ソフトウェア 135

そ

操作説明 52
送信カスタムジョブ 53

た

対処の手順 117

て

ディスク占有量 20
データ送受信管理コマンド 175
データ送受信管理コマンド一覧 179
データ送受信管理コマンドとは 176
データ送受信管理コマンドのFAQ 189
データ送受信管理コマンドのアンインストール 177
データ送受信管理コマンドのインストール 177
データ送受信管理コマンドの概要 176
データ送受信管理コマンドの環境設定 177
データ送受信管理コマンドの環境設定を解除 177
データ送受信管理コマンドの導入 177
データ送受信管理コマンドのトラブルシュート 189
データ送受信管理コマンドのメッセージ 189
データ送受信クライアント 19
データ送受信コマンド 15, 134
データ送受信コマンド一覧 149
データ送受信コマンドとは 135
データ送受信コマンドのFAQ 161
データ送受信コマンドのアンインストール 138
データ送受信コマンドのインストール 137
データ送受信コマンドの概要 135
データ送受信コマンドの環境設定 137
データ送受信コマンドの環境設定を解除 138
データ送受信コマンドの導入 137
データ送受信コマンドのトラブルシュート 161

と

- 導入前の準備 17
- 導入手順 16
- 導入のための前提条件 135, 176
- トラブルが解決しない場合に採取する資料 120
- トラブルシュート 116
- トラブル別の対処方法 129

は

- ハードディスクの空き容量 136
- 配送ポリシー 62
- 配送ポリシーの圧縮方式の設定に関して 43
- バックアップ 47
- バックアップの実施 47

ふ

- ファイルおよびフォルダー一覧 192
- 複数の DH カスタムジョブの同時実行について 68

ほ

- 保管期限が切れている配送の受信について 70

め

- メッセージ 78
- メッセージ記載形式 82
- メッセージの出力形式 80
- メッセージの出力先 83
- メッセージの分類 79
- メモリ所要量 20

り

- リストア 117, 128
- リソース見積もり 20
- リファレンス 140, 178

れ

- レジストリキー 26, 49

ろ

- ログインユーザ ID の登録 43
- ログ出力先フォルダ 32, 34, 36
- ログの種類 118
- ログの種類とログ情報の格納先 118
- ログファイル 142
- ログファイルの参照に関する注意事項 77
- ログレベル 142